

授 業 計 画

専門教育科目
交通機械工学科

2017年度
(平成29年度)



久留米工業大学

久留米工業大学

建学の精神

人間味豊かな産業人の育成

教育理念

知（技術の冴え）を磨き、
情（心の花）を育み、
意（不屈の意志）を鍛える 「知、情、意」のバランスのとれた人材の育成

【工学部 交通機械工学科】

●カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

交通機械工学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するために、入学してくる多様な学生に対して共通教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。

教育内容、教育方法、学修評価については以下の方針を定めます。

（教育内容）

- （１） 共通教育科目として人文社会、自然科学、言語、保健体育、総合教育の 5 系統、専門教育科目として学科共通専門教育科目、コース専門科目、他学科連携科目の 3 系統を編成し、1 年次から 4 年次まで適切に開講する。
- （２） ものづくりの楽しさを体験し、ものづくりに取り組むモチベーションを高めるため、1 年次から演習や実習等の実技科目を開講する。
- （３） 先進的な技術に対応できる高度技術者育成のために、次のコース別教育プログラムを設ける。

① 先端交通機械コース

先進的な交通機械技術に対応できる高度技術者の育成を目的とし、自動車、航空機、鉄道、バイク、船舶などの開発・設計、生産技術等の教育プログラムを展開する。

② 自動車コース

最新の自動車技術に対応できる高度技術者の育成を目的とし、自動車の開発・設計、生産技術及び整備技術に必要な教育プログラムを展開する。また、国土交通省が指定する講義科目と実習科目を修得することで 2 級自動車整備士としての知識と技能を身につける。

- （４） 学士プログラムの集大成として「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の科目を必修とする。

（教育方法）

- （５） 初年次の「数学基礎」「物理学Ⅰ」「工業数学演習Ⅰ・Ⅱ」の科目では習熟度に基づくクラス編成をとり、学力調査と学修到達度の結果を確認しながら工学教育に必要な基礎学力の向上を図る。
- （６） 学科共通専門科目のうち、基礎力学、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学の主要な力学系科目においては個々の学修到達度に応じた指導を行い、交通機械工学の基本となる専門知識を確実に身につけさせる。
- （７） 本学科の演習、実験・実習等では、アクティブ・ラーニングを取入れた教育方法で授

業を行う。

- (8) 上級学年(3、4年次)の応用的な専門教育を無理なく履修するために、2年次終了時に進級基準を設け、その基準を充たすことで3年次への進級を認める。

(学修評価)

- (9) 1年次から4年次までの学修行動調査、卒業研究の成果等を評価し、卒業時にディプロマ・サプリメント(成績補助証明書)にまとめる。
- (10) 学業成績の成績評価方法については、シラバスに定める。
- (11) 学修成果の集大成としての卒業研究は、ルーブリック等によって総合的に評価する。

●ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

交通機械工学科では、本学の学士プログラムの課程(所定の単位取得と卒業要件)を修めたうえで、自動車をはじめとする交通機械の幅広い知識・技能を修得し、次のような能力・資質を備えた人物に「学士(工学)」の学位を授与します。

(知識・理解)

- (1) 交通機械技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。
- (2) 交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。

(思考・判断)

- (3) 修得した幅広い教養や交通機械工学の専門知識を活用し、社会の要求に対応するための自律的、創造的および汎用的な思考ができる。
- (4) 自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策を講じることができる。

(関心・意欲・態度)

- (5) ものづくりに関心を持ち、グローバルな視点で他者と協働し、社会における産業の発展に貢献・奉仕することができる。
- (6) 社会の仕組みを理解し、社会人としての倫理観にもとづいて技術者としての責任を遂行することができる。

(技能・表現)

- (7) 言語力、コミュニケーション力およびプレゼンテーション力等の技能を身につけ、社会の多様な人々と協働することができる。
- (8) 工学分野の総合的な視点と交通機械工学の知識を身につけ、多様化する現代社会の諸問題や課題を分析するための知識・技能、情報発信能力を有し、地域や国際社会の新しい多様な文化や生活の創造、産業の発展に貢献することができる。

《受講するにあたっての注意事項について》

◎授業外学習時間

2単位15週科目の場合、予習・復習2時間/週を取るよう努めること。

◎課題に対するフィードバック

小テスト試験等で提出されたレポート等についてはフィードバックするので確認をすること。

授業科目	ページ	授業科目	ページ
共通専門科目			
フレッシュマンセミナー	1	工作実習	114
就業力育成セミナー	4	交通機械工学実験実習Ⅰ	117
就業力実践演習	7	交通機械工学実験実習Ⅱ	119
工業数学演習Ⅰ	10	就業指導Ⅰ	121
工業数学演習Ⅱ	13	就業指導Ⅱ	124
解析学	16	工業の基礎	127
応用数学	18	ものづくり実践プロジェクト(交通)	130
交通機械英語	20	卒業研究Ⅰ	132
機械材料	22	卒業研究Ⅱ	135
材料力学Ⅰ	26		
材料力学Ⅱ	29	コース専門科目	
流体力学Ⅰ	32	特別ゼミⅠ	138
流体力学Ⅱ	35	特別ゼミⅡ	141
工業熱力学	38	材料力学Ⅲ	144
燃焼・伝熱工学	41	機構学	147
内燃機関Ⅰ	44	航空流体力学	149
内燃機関Ⅱ	47	センサ工学	152
基礎力学Ⅰ	50	デジタル回路	154
基礎力学Ⅱ	53	制御システム設計演習	156
応用力学	55	航空宇宙工学	158
機械力学	57	鉄道システム工学	161
機械工作法	60	先端交通機械実習	163
図学	62	交通機械デザイン開発演習Ⅰ	166
基礎製図	64	交通機械デザイン開発演習Ⅱ	168
機械製図	66		
CAD基礎	68		
機械要素設計工学	71		
自動車生産方式概論	73		
交通機械設計演習	75		
電気工学Ⅰ	77		
電気工学Ⅱ	80		
電子工学Ⅰ	83		
電子工学Ⅱ	86		
コンピュータリテラシー	89		
情報処理概論	92		
プログラミング基礎	95		
制御工学Ⅰ	97		
制御工学Ⅱ	100		
自動車工学Ⅰ	103		
自動車工学Ⅱ	106		
バイク・ダイナミックス	109		
交通機械先端技術	111		

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43010	前期	1	2
授業科目名	フレッシュマンセミナー			学習相談	
英字科目名	Freshman Seminar			必要に応じて担当教員に相談すること。	
代表教員名		担当教員名			
東大輔		交通機械全教員			
使用テキスト					
必要に応じて資料を配布					
授業の概要					
交通機械工学とはどのような学問か、これからの4年間に交通機械工学科でどんな専門知識を、どのような順序で学ぶかを、各専門分野の教員が分担して解説する。					
到達目標					
(1) 4年間の勉学の指針を説明できるようになる。 (2) 先端交通機械コースは乗り物の開発に必要な知識を理解する。 (3) 自動車コースは二級自動車整備士資格取得に向けた流れを理解する。					
履修上の注意					
内容、順序を変更することがある。 ・出席重視の科目である。 ・毎回、講師が交代するのでルーズな受講態度にならず大学生としての自覚を持って講義に集中すること。					
成績評価の方法・基準					
受講態度（50%）、課題および試験（50%）で総合評価する。 30分以上遅刻は欠席扱い。ルーズな態度や4回以上の欠席は再履修とする。					
課題に対するフィードバック					
講義中に行った演習問題やレポートの回答などは各担当教員の研究室にて掲示するものとする。					
参考図書	「基礎自動車工学」（日本自動車整備振興会連合会）				
関連科目	交通機械先端技術				
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （6）社会の仕組みを理解し、社会人としての倫理観にもとづいて技術者としての責任を遂行することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	全体概要・ラーニングコモンズ説明	予習	交通機械工学科の専門科目についてシラバスおよび学生便覧にて確認しておくこと。
		復習	学科概要把握とラーニングコモンズについて理解すること
(2)	共通教育科目	予習	共通教育科目についてシラバスおよび学生便覧にて確認しておくこと。
		復習	専門科目と共通教育科目の重要性について認識し、4年間の履修計画を行うこと。
(3)	各種工学実習	予習	シラバスにて実習および実験科目について確認を行うこと
		復習	自動車の安全性と実験・実習科目の安全面について理解すること
(4)	材料力学、基礎力学	予習	シラバスにて材料力学および基礎力学に関する内容を確認しておくこと
		復習	材料力学で学ぶ内容について把握しておくこと
(5)	電子工学	予習	シラバスにて電子工学に関する内容を確認しておくこと
		復習	電子工学で学ぶ内容について把握しておくこと
(6)	自動車開発設計工学	予習	シラバスにて機械要素設計工学、自動車生産方式概論に関する内容を確認しておくこと
		復習	自動車開発の流れについて理解しておくこと
(7)	内燃機関	予習	シラバスにて工業熱力学、内燃機関に関する内容を確認しておくこと
		復習	熱工学で学ぶ内容について把握しておくこと
(8)	電気工学、自動車安全工学	予習	シラバスにて電気工学に関する内容を確認しておくこと
		復習	電気工学で学ぶ内容について把握しておくこと
(9)	流体力学、自動車空力デザイン	予習	シラバスにて流体力学に関する内容を確認しておくこと
		復習	流体力学とデザインの関わりについて把握しておくこと

(10)	自動車工学、制御工学	予習	シラバスにて自動車工学および制御工学に関する内容を確認しておくこと
		復習	自動車工学で学ぶ内容について把握しておくこと
(11)	交通機械工学実験実習	予習	シラバスにて自動車工学実験実習に関する内容を確認しておくこと
		復習	自動車工学実験実習における安全面に関する注意事項について再確認しておくこと
(12)	機械力学、応用力学	予習	シラバスにて機械力学および応用力学に関する内容を確認しておくこと
		復習	機械力学で学ぶ内容について把握しておくこと
(13)	図学、製図、CAD	予習	シラバスにて図学、基礎製図および機械製図に関する内容を確認しておくこと
		復習	図学や製図の重要性と CAD との関連性について理解しておくこと
(14)	総括Ⅰ	予習	これまでの講義における資料を再度確認しておくこと
		復習	レポート作成
(15)	総括Ⅱ	予習	これまでの講義における資料を再度確認しておくこと
		復習	レポート作成

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43910	前期	3	2
授業科目名	就業力育成セミナー			学習相談	
英字科目名	Seminar in Developing Job Huntingand Working Ability			必要に応じて担当教員に相談すること。	
代表教員名		担当教員名			
東大輔		交通機械全教員			
使用テキスト					
必要に応じて資料を配布する。					
授業の概要					
学生と教員との密度の高い交流をはかり、相互の信頼感、親密感を高めながら、就業に必要な学力およびスキルの向上や就業に向けた心構えなどを指導する。					
到達目標					
(1) 卒業後の進路を十分に理解し、説明できるようになる。					
(2) 目標を持ち、それを実現するための知識・技術を理解する。					
履修上の注意					
実施詳細については別途連絡するので、掲示板に注意しておくこと。 出席重視の科目である。					
成績評価の方法・基準					
レポート提出（80%）、その他（20%）を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
講義中に行った演習問題やレポートの回答などは各担当教員の研究室にて掲示するものとする。					
参考図書	講義で紹介する。				
関連科目	就業力基礎、就業力実践演習				
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （6）社会の仕組みを理解し、社会人としての倫理観にもとづいて技術者としての責任を遂行することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	就業力とは	予習	大学3年時からスタートする就職活動の概要について自主学習を行うこと。
		復習	正規雇用の意義などを理解する。
(2)	開発業務	予習	自動車の開発業務の概要について自主学習を行うこと。
		復習	自動車などの車両開発の流れを説明できるようになる。
(3)	商品企画と製品企画	予習	自動車に限らず工業製品の商品企画および製品企画について自主学習を行うこと。
		復習	製品開発の企画業務を説明できるようになる。
(4)	デザイン開発	予習	インダストリアルデザインの概要について自主学習を行うこと。
		復習	工学的なデザイン開発業務を説明できるようになる。
(5)	設計業務	予習	自動車に限らず工業製品の設計業務について自主学習を行うこと。
		復習	開発業務の中の設計業務内容を説明できるようになる。
(6)	性能開発業務	予習	自動車に限らず工業製品の性能開発について自主学習を行うこと。
		復習	試作・実験・性能評価業務を理解する。
(7)	生産技術業務	予習	自動車に限らず工業製品を品質よく低コストで市場に供給するための生産技術について自主学習を行うこと。
		復習	生産準備・生産技術について説明できるようになる。
(8)	業界分析（1）	予習	製造業の中でも研究・開発に関する業務について自主学習を行うこと。
		復習	設計開発関連企業の業務内容を調査・分析できる。
(9)	業界分析（2）	予習	製造業の中でも生産技術・品質管理に関する業務について自主学習を行うこと。
		復習	生産技術・整備・教員などの業界分析ができる。

(10)	履歴書指導（１）	予習	就職活動を意識した自己 PR を作成し講義に出席すること。
		復習	履歴書の意味, PR の仕方を理解する.
(11)	履歴書指導（２）	予習	志望する業界および職種を意識したうえで志望動機のアウトラインを構想し作成すること。
		復習	履歴書作成を通じて自己分析できる.
(12)	自己分析	予習	自分の長所および短所について自己分析し文書にまとめて講義に出席すること。
		復習	自己 PR や自身の弱みを第 3 者に説明できる.
(13)	英語能力向上策	予習	TOEIC 試験の概要について調べること。
		復習	英語力向上に有効な学習法を修得する.
(14)	数学力向上策	予習	1 年時の工業数学演習について復習を行うこと。
		復習	数学基礎力を向上する学習法と心構えを修得する.
(15)	物理力向上策	予習	1 年時の物理学Ⅰおよび物理学Ⅱの復習を行うこと。
		復習	物理基礎力を向上する学習法と心構えを修得する.

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43920	後期	6	2
授業科目名	就業力実践演習			学習相談	
英字科目名	Practical Seminar in Job Hunting and Working Ability			各教員研究室およびキャリアサポートセンター 藤原研究室（図書館2階） e-mail: fujiwara@cc.kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東 大輔（Daisuke AZUMA）		交通機械工学科全教員			
使用テキスト					
・「就職サポートブック」（久留米工業大学 キャリアサポートセンター 就職課） ・配布プリント					
授業の概要					
・SPI 試験・履歴書・エントリーシートなど就職活動に関わる実際的なことを、多くの演習を取り入れながら指導する。					
到達目標					
・自分の将来や就職について具体的に考えられるような基本知識を修得し、履歴書やエントリーシートある志望動機や自己分析がしっかり書け、説明できるようになる。 ・実際の就職活動に生かせる専門知識を修得し、自己表現が的確にできるようになる。					
履修上の注意					
・毎回の授業内容を自分の就職活動にすぐに生かしていくよう努めること。 ・都合により講義の順番を変更することがあるので、ガイダンスに必ず出席すること。					
成績評価の方法・基準					
・授業の取組みで総合評価					
課題に対するフィードバック					
・SPI 試験は、授業後解答を配布する。 ・自己表現・分析などは、後日添削して返却する。 ・レポートは、担任がレポートの内容の指導をする。					
参考図書	矢下 茂雄 著「大卒無業」（文藝春秋）				
関連科目	就業力基礎 → 就業力育成セミナー → 就業力実践演習				
学位授与の方針との関連	技能・表現 （7）言語力、コミュニケーション力およびプレゼンテーション力等の技術を身につけ、社会の多様な人々と協働することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス・職務適性テスト	予習	卒業後の進路をいくつか考える。
		復習	配布資料により日程を確認する。
(2)	SPI 試験	予習	SPI 試験の問題集を予習する。
		復習	配布の解答を読んで復習する。
(3)	自己表現 自己表現を書く。	予習	自己表現について調べる。
		復習	後日の添削結果を読んで復習する。
(4)	自己分析	予習	事前に自己分析をしておく。
		復習	後日の添削結果を読んで復習する。
(5)	業界企業研究	予習	志望業界について調べる。
		復習	自分にあった職業を検討する。
(6)	履歴書の書き方・エントリーシートの書き方	予習	履歴書の書き方やエントリーシートの書き方について調べる。
		復習	後日の添削結果を読んで復習する。
(7)	労働法講義	予習	労働法について考える。
		復習	労働法で学んだことを復習する。
(8)	自己表現 講評	予習	自己表現について調べる。
		復習	添削結果を読んで復習する。
(9)	就活準備講座	予習	就活準備について調べる。
		復習	就活準備について講義内容を復習する。
(10)	ビジネスマナー	予習	ビジネスマナーについて調べる。
		復習	ビジネスマナーについて講義内容を復習する。
(11)	面接セミナー	予習	面接の仕方について調べる。
		復習	面接について講義内容を復習する。
(12)	新聞分析	予習	新聞分析方法を調べる。
		復習	新聞分析について講義内容を復習する。
(13)	一般常識テスト	予習	一般常識について問題集を予習する。
		復習	配布の回答にて復習する。
(14)	就活対策講座 1	予習	就職活動の始まりについて調べる。
		復習	自己分析について復習をする。

(15)	就活対策講座 2	予習	志望する企業について予習する。
		復習	説明会等の参加後は企業と自分を検討する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43050	前期	1	1
授業科目名	工業数学演習 I			学習相談	
英字科目名	Engineering Mathematics I			3号館3階 渡邊研究室	
代表教員名		担当教員名			
渡邊直幸		渡邊直幸、片山硬、井川秀信、山口卓也、吉野貴彦、高西賢二			
使用テキスト					
石村園子著「大学新入生のための数学入門」（共立出版）					
授業の概要					
今まで学習してきた数学のうち、機械系の分野で比較的良好に使われるものの基礎トレーニングを行う。 基礎的なことに的を絞り、演習を中心に少人数のグループで講義を行う。					
到達目標					
(1)数学の基礎力を身に付ける。 (2)手早く計算の見通しを立てることができる。					
履修上の注意					
高校の内容であるが、普段よく使われている常識的なことであるので、完全にマスターすること。予習・復習をきちんとすること。節目ごとに習熟度を確認する演習テストを行う。					
成績評価の方法・基準					
計5回の演習テストと期末テストで総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
演習テストについては、次回講義時に返却しフィードバックする。 期末テストについては、試験終了後に希望者へ開示する。					
参考図書	高校で使用した数学関係の教科書および参考書				
関連科目	工業数学演習Ⅰ → 工業数学演習Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (1)交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	数と式の計算-1 四則演算・因数分解・平方根	予習	教科書 pp.1-6 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.136-138 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(2)	数と式の計算-2 複素数・分数式・方程式	予習	教科書 pp.7-12 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.136-138 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(3)	数と式の計算-演習テスト	予習	講義(1)～講義(2)の講義ノート・プリント等を読み返す。
		復習	演習テストで解けなかった問題（類似問題）を解く。
(4)	関数とグラフ-1 直線と放物線	予習	教科書 pp.13-18 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.139-140 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(5)	関数とグラフ-2 不等式と領域	予習	教科書 pp.19-24 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.139-140 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(6)	関数とグラフ-演習テスト	予習	講義(4)～講義(5)の講義ノート・プリント等を読み返す。
		復習	演習テストで解けなかった問題（類似問題）を解く。
(7)	指数関数-1 指数と指数法則	予習	教科書 pp.41-45 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 p.143 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(8)	指数関数-2 指数関数	予習	教科書 pp.46-50 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 p.143 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(9)	指数関数-演習テスト	予習	講義(7)～講義(8)の講義ノート・プリント等を読み返す。
		復習	演習テストで解けなかった問題（類似問題）を解く。
(10)	対数関数-1 対数と対数法則	予習	教科書 pp.51-54 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 p.144 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(11)	対数関数-2 対数関数	予習	教科書 pp.55-58 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 p.144 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。

(12)	対数関数・演習テスト	予習	講義(10)～講義(11)の講義ノート・プリント等を読み返す。
		復習	演習テストで解けなかった問題（類似問題）を解く。
(13)	総復習-1 数と式の計算、関数とグラフ	予習	演習テストを再度見返し、解けなかった問題を解く。
		復習	教科書 p.150 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(14)	総復習-2 指数関数、対数関数	予習	演習テストを再度見返し、解けなかった問題を解く。
		復習	教科書 p.150 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(15)	総合・演習テスト	予習	講義(13)～講義(14)の講義ノート・プリント等を読み返す。
		復習	演習テストで解けなかった問題（類似問題）を解く。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43061	後期	2	1
授業科目名	工業数学演習Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Engineering MathematicsⅡ			3号館3階 渡邊研究室	
代表教員名		担当教員名			
渡邊直幸		渡邊直幸、片山硬、井川秀信、田中基大、高西賢二			
使用テキスト					
石村園子著「大学新入生のための数学入門」（共立出版）					
授業の概要					
工業数学演習Ⅰに引き続き、今まで学習してきた数学のうち、機械系の分野で比較的良好に使われるものの基礎トレーニングを行う。基礎的なことに目的を絞り、演習を中心に少人数のグループで講義を行う。					
到達目標					
(1)数学の基礎力を身に付ける。 (2)手早く計算の見通しを立てることができる。					
履修上の注意					
高校の内容であるが、普段よく使われている常識的なことであるので、完全にマスターすること。予習・復習をきちんとすること。節目ごとに習熟度を確認する演習テストを行う。					
成績評価の方法・基準					
計4回の演習テストと期末テストで総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
演習テストについては、次回講義時に返却しフィードバックする。 期末テストについては、試験終了後に希望者へ開示する。					
参考図書	高校で使った数学関係の教科書および参考書				
関連科目	工業数学演習Ⅰ → 工業数学演習Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (1)交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	三角関数-1	予習	教科書 pp.25-29 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.141-142 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(2)	三角関数-2	予習	教科書 pp.30-34 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.141-142 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(3)	三角関数-3	予習	教科書 pp.35-40 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.141-142 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(4)	三角関数-演習テスト	予習	講義(1)～講義(3)の講義ノート・プリント等を読み返す。
		復習	演習テストで解けなかった問題（類似問題）を解く。
(5)	微分-1	予習	教科書 pp.69-73 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.146-147 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(6)	微分-2	予習	教科書 pp.74-77 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.146-147 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(7)	微分-3	予習	教科書 pp.78-82 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 pp.146-147 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(8)	微分-演習テスト	予習	講義(5)～講義(7)の講義ノート・プリント等を読み返す。
		復習	演習テストで解けなかった問題（類似問題）を解く。
(9)	積分-1	予習	教科書 pp.81-85 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 p.148 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(10)	積分-2	予習	教科書 pp.86-89 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 p.148 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(11)	積分-3	予習	教科書 pp.90-92 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 p.148 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。

(12)	積分・演習テスト	予習	講義(9)～講義(11)の講義ノート・プリント等を読み返す。
		復習	演習テストで解けなかった問題（類似問題）を解く。
(13)	複素数・極形式-1	予習	教科書 pp.101-102 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 p.150 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(14)	複素数・極形式-2	予習	教科書 pp.103-106 を読み、例題を解く。
		復習	教科書 p.150 の練習問題のうち、講義で学習した問題を解く。
(15)	複素数・極形式・演習テスト	予習	講義(13)～講義(14)の講義ノート・プリント等を読み返す。
		復習	演習テストで解けなかった問題（類似問題）を解く。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43090	前期	5	2
授業科目名	解析学			学習相談	
英字科目名	Analysis			オフィスアワーについて初回授業時に説明する。	
代表教員名		担当教員名			
金井政宏		金井政宏			
使用テキスト					
新版微分積分　【著】岡本和夫　【発行】実教出版					
授業の概要					
解析学では微分方程式について学習する。微分方程式とは、1 変数関数 $y=f(x)$ およびその導関数 $y'=dy/dx$ の満たす関係式で、解として $f(x)$ を求めるための方程式である。歴史上最初の微分方程式はニュートンによる運動方程式であり、時間が独立変数、物体の位置が従属変数である。従って、運動方程式の解として物体の運動の軌跡が求められる。しかし、一般には微分方程式は解くことが出来ない。この授業では解くことのできる基本的な微分方程式およびそれらを解く技法を中心に学習する。					
到達目標					
(1)1 階の微分方程式の解法の習得					
(2)自然現象を表す微分方程式の理解					
(3)ニュートンの運動方程式に関する基礎知識の習得					
(4)2 階定係数線形微分方程式の解法の習得					
履修上の注意					
指定したテキストの該当部分を中心に講義と演習を合わせて行う。					
成績評価の方法・基準					
授業への取り組み（30％）および期末試験（70％）により評価する。					
課題に対するフィードバック					
必要に応じて最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	授業中に適宜紹介する。				
関連科目	微分積分学→解析学→応用数学				
学位授与の方針との関連	知識・理解				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	(1)ガイダンス 授業内容と到達目標についての説明、学習の進め方についてのアドバイスなど。 (2)基礎数学の復習	予習	テキストを準備しておくこと。
		復習	テキストの該当項目に目を通しておくこと。
(2)	微分方程式	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(3)	微分方程式の解	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(4)	初期値問題と境界値問題	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(5)	変数分離形	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(6)	同次形	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(7)	線形微分方程式	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(8)	まとめと演習	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(9)	階数降下法	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(10)	2 階線形微分方程式	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(11)	定数係数同次線形微分方程式	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(12)	定数係数非同次線形微分方程式	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(13)	連立微分方程式	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(14)	非定数係数同次線形微分方程式	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(15)	まとめと展望	予習	次の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43100	後期	6	2
授業科目名	応用数学			学習相談	
英字科目名	Applied Mathematics			オフィスアワーについて初回授業時に説明する。	
代表教員名		担当教員名			
金井政宏		金井政宏			
使用テキスト					
新版応用数学（新版数学シリーズ） 【著】岡本和夫 【発行】実教出版					
授業の概要					
フーリエ解析とは、自然現象を表現する複雑な関数を、基本的な関数である指数関数や三角関数に分解して調べる方法である。音楽で言えば、和音を単音に分解してその構造を理解することに相当する。フーリエ解析が最も威力を発揮するのは、微分方程式を解く際である。微分方程式とは導関数についての方程式であり、これを解くことによって知りたい関数が得られる。一般に、自然現象を関数によって直接表現することは非常に難しく、微分方程式による表現が先に考えられる。このため、フーリエ解析は自然現象を解析するための基本的方法として用いられる。フーリエ解析にはフーリエ変換とラプラス変換の二つの操作があり、これらに関する解説と演習が中心となる。					
到達目標					
(1)ラプラス変換について、基本的な性質を理解し、具体的に計算できるようになること。 (2)フーリエ変換について、基本的な性質を理解し、具体的に計算できるようになること。 (3)フーリエ変換およびラプラス変換によって微分方程式を解けるようになること。					
履修上の注意					
指定したテキストに沿って授業を行う。					
成績評価の方法・基準					
授業への取り組み（30％）および期末試験（70％）により評価する。					
課題に対するフィードバック					
必要に応じて最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	授業中に適宜紹介する。				
関連科目	微分積分学→解析学→応用数学				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （１）自然現象の解析のための重要な数学的基礎を理解する。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス 授業内容と到達目標についての説明、学習の進め方についてのアドバイスなど	予習	テキストを準備しておくこと。
		復習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
(2)	ラプラス変換の定義、デルタ関数とヘヴィサイド関数	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(3)	ラプラス変換の基本的性質	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(4)	逆ラプラス変換	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(5)	常微分方程式の初期値問題	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(6)	常微分方程式の境界値問題	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(7)	ラプラス変換の応用例	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(8)	フーリエ級数	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(9)	三角関数による展開	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(10)	複素フーリエ級数	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(11)	偏微分方程式への応用	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(12)	フーリエ変換の定義	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(13)	フーリエ変換の基本的性質	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(14)	偏微分方程式への応用	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。
(15)	まとめと発展	予習	次回の授業項目に目を通しておくこと。
		復習	テキストの練習問題を解いてみること。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43720	後期	6	2
授業科目名	交通機械英語			学習相談	
英字科目名	Vehicle English			インテリジェント・モビリティ研究所 スタッフルーム	
代表教員名		担当教員名			
東 大輔		金子 寛典 (Hironori Kaneko)			
使用テキスト					
東 大輔「自動車空力デザイン」(三樹書房) および配布プリント					
授業の概要					
グローバル展開が必須な自動車やバイクなどの開発では交通機械分野に特有な英語能力を身につける必要がある。本講義では自動車開発に関係する英語力を、デザイン開発やエンジン、足回りなどの英文文献を題材にして学ぶ。					
到達目標					
(1) 基本英単語を修得する。 (2) 自動車開発関連の英文文献を素早く読めるようになる。					
履修上の注意					
TOEIC 頻出の基本英単語を各自着実に修得すること。また、自動車や航空機などに興味を持ち、海外インターネットサイトや英文雑誌なども積極的に読むこと。					
成績評価の方法・基準					
小テスト (70%)、期末試験 (30%) で評価する。					
課題に対するフィードバック					
講義中に出した課題や小テストは、最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	授業で紹介する。				
関連科目	科学技術英語→交通機械英語				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (1) 交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	TOEIC 基本英単語の確認	予習	基本となる英単語を予習する。
		復習	授業の内容を復習する。
(2)	自動車デザイン開発の英語	予習	教科書 pp.16～27 を読んで予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(3)	自動車空力デザインの英語	予習	教科書 pp.28～35 を読んで予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(4)	スポーツカーデザインの英語 (1)	予習	教科書 pp.96～101 を読んで予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(5)	スポーツカーデザインの英語 (2)	予習	教科書 pp.102～107 を読んで予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(6)	自動車デザイン史の英語 (1)	予習	教科書 pp.118～128 を読んで予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(7)	自動車デザイン史の英語 (2)	予習	教科書 pp.132～137 を読んで予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(8)	中間テスト	予習	1～7 回の講義を復習する。
		復習	中間テスト範囲を復習する。
(9)	エンジン開発の英語 (1)	予習	事前に配布したプリントを予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(10)	エンジン開発の英語 (2)	予習	事前に配布したプリントを予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(11)	エンジン研究の英語	予習	事前に配布したプリントを予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(12)	車両運動性能の英語	予習	事前に配布したプリントを予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(13)	航空機の英語 (1)	予習	事前に配布したプリントを予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(14)	航空機の英語 (2)	予習	事前に配布したプリントを予習する。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。
(15)	総まとめ	予習	1～14 回までの講義内容を整理しておく。
		復習	授業の内容と配布プリントを復習する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43270	後期	2	2
授業科目名	機械材料			学習相談	
英字科目名	Mechanical Materials			3 号館 2 階 益本研究室 あるいは 実験棟 B 材料工学実験室	
代表教員名		担当教員名			
益本 広久		益本 広久			
使用テキスト					
市販の参考書は用いません。授業内容および予・復習に必要な資料(pdf)を納めた CD を配布します。					
授業の概要					
様々な機械はそれぞれの特性や使用環境に合わせ、適切な素材を選定して作製されています。しかし、各種材料の特性は、前加工や熱処理等の履歴により大きく変化します。このため、設計や整備等に携わる方は、①各種材料の化学的、物理的及び機械的特性に加え、材料特性に及ぼす②履歴の効果及び③使用環境の影響、また、各種交通機関には材料の動的特性④を理解・把握しておかなければなりません。 そこで、本科目はまず物理学及び化学の基礎から材料に関する基礎的知見を解説した後、構造材料として主に用いられている鉄基材料の解説及び留意事項を約 50%の講義時間を割いて行います。その後、各種非鉄金属材料及び高分子材料の特性や留意事項の解説を行った後に、使用環境下における材料特性の変化を解説します。					
到達目標					
（１）各種構造材料として金属結合体が多用される理由、温度と共に特性が変化する理由を理解する。また、材料に含まれる溶質原子の役割から、材料の諸特性に及ぼす環境の影響を理解する。 （２）鉄、非鉄及び非金属材料の特性を理解する。 （３）加工履歴による材料の特性変化を熟知し、設計に必要となる基礎知識を習得する。 （４）使用環境下における材料の劣化、ぜい化及び疲労破壊のメカニズムを理解し、構造物の劣化を理解する。					
履修上の注意					
ノートの作り方を最初に説明します。配布 CD の授業内容を必ずノートに書き写しておき、講義中の解説等の説明を記入し、復習を行う。また、講義の最初に前回講義分の要点を解説しますので、復習された点を再考して頂くことができます。					
成績評価の方法・基準					
期末試験（100％）のみで評価					
課題に対するフィードバック					
期末試験の模範解答を配布し、自己採点して頂きます。なお、試験用紙は 5 年間保管した後、廃棄します。					
参考図書	必要と思われる資料は、全て CD に pdf ファイルで納めますので、特に必要は有りませんが、下記の図書を推奨します。 日本金属学会編「鉄鋼材料便覧」及び「金属便覧」（丸善）				
関連科目	機械材料 → 材料力学Ⅰ → 材料力学Ⅱ/自動車材料工学				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （１）交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	材料の基礎（1） 使用環境と材料の特性の解説に必要な平均線膨張係数の導入、理想配列と現実の原子配列の観点より、転移の効果を解説した後、3次元モデルへ展開し、結晶格子の概念を習得	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める
(2)	材料の基礎（2） 構造物の作製に必須の残留応力の発生メカニズムの解説と設計に欠かせない基準値の設定方法を講義。また、配付資料の習得に必要な、材料の機械的特性を表す専門用語の解説	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める
(3)	材料の基礎（3） 設計の思考プロセスにおける材料選定の位置付け、材料の加工履歴による特性変化に及ぼす転移、再結晶、組織変化を視覚的に解説する。また、材料選定の手順等々について解説	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める
(4)	工業材料全般及び材料創製の過程を解説、卒業生が主として取り扱う事となる鉄を基調とする材料について解説、鉄基材料（1）として、JIS 鉄系材料記号の見方を解説後に各種機械的特性の評価方法を講義	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める。
(5)	鉄基材料（2） 溶製・製鉄の過程より鉄基材料に含まれる不純物が機械的特性に及ぼす影響を、熔融金属の凝固現象より解説した後、その影響や前加工の影響を低減するために欠かせない熱処理の概略を説明	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める。
(6)	鉄基材料の基本である鉄(Fe)-炭素(C)二元平衡状態図を詳細に解説し、C 含有量によるその組織形態が変化し、機械的特性が組織に支配されていることを解説後、合金鋼として低合金鋼及び高合金鋼について整理	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める。

(7)	鉄基材料の加工の観点より、鍛造・鋳鍛鋼品の特性等の解説後、構造材料としても多用される鋳鉄の利点欠点を解説、また、鋳鉄の製法、機械的特性に及ぼす黒鉛形状の影響を説明した後、鉄基材量の総括	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める。
(8)	非鉄金属材料（1） 非鉄金属材料として多用されるアルミニウムの特性について、JIS 記号の見方やアルミニウム合金の代表種である 4 系統の材料に関して詳細な講義を行う	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める
(9)	非鉄金属材料（2） アルミニウム合金の使用環境下における挙動を説明後、純銅と真鍮を主に銅及びその合金に関して説明した後、その他特異な特性を有する銅合金について講義	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める
(10)	非鉄金属材料（3） マグネシウム及びチタニウムとその合金 実用金属の中で最も比強度の高いマグネシウム及び耐食性や耐クリープ特性に優れたチタニウム及びその合金の諸特性について説明	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める
(11)	非鉄金属材料（4） 高分子材料の特性について、共重合及び解重合に関する詳細な解説後、重合の成立条件及び重合形態による分類を説明した後に、種々の高分子材料に関して講義	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める
(12)	非鉄金属材料（5） 高融点金属（Nb,Ta,Cr,Mo,W 及びその合金）、低融点金属（Zn,Pd,Sn 及びその合金）、易融金属及び複合材料に関する講義	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める
(13)	腐食現象 各種機械や構造部材に生じる腐食現象をエントロピー最大原理などを用いて説明、腐食現象の主たる要因である局部電池現象について講義、また、耐食及び防食方法に関しても講義を行う	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める。

(14)	構造体の破壊現象として、約 8 割を占めるとされる疲労挙動に伴う破壊のメカニズム、疲労破壊挙動に及ぼす材料の組成及び環境の影響を詳細に講義する	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める
(15)	全講義内容に関する総括を行った後、理解度を把握するために質疑応答を行う	予習	配布 CD に納めている講義内容の図面の概略をノートに写し、予め用語等の下調べを行っておくこと
		復習	講義の際に説明あるいは解説を行った事象に関して、ノートの整理を行い理解度を深める

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43530	前期	3	2
授業科目名	材料力学Ⅰ			学習相談	
英字科目名	Strength of MaterialsⅠ			3号館3階 井川研究室	
代表教員名		担当教員名			
井川 秀信		井川 秀信（Hidenobu IGAWA）			
使用テキスト					
渥美光・鈴木幸三・三ヶ田賢次著 「材料力学Ⅰ」 （森北出版）					
授業の概要					
材料力学は、機械や構造物などに使用される材料の強度や変形に対する抵抗および安定性について学ぶ工学の重要な基礎科目の一つです。ここでは、種々の外力によって材料内部に生じる応力と変形の諸問題について学び、機械や構造物の強度設計に必要な基礎知を修得します。					
到達目標					
(1)基礎的な材料力学の内容が理解できる。 (2)自動車を含む機械設計と材料力学との関わりが理解できる。 (3)機械設計に必要な計算能力が身に付く。					
履修上の注意					
・ 授業中に理解度を確認するための演習を実施し、レポートとして提出させる。 ・ 講義には必ず電卓を持参すること。（スマートフォンの計算機は使用不可）					
成績評価の方法・基準					
レポート（30%）、小テスト（20%）と期末試験（50%）で総合評価					
課題に対するフィードバック					
・ 講義中に出した課題や小テストは、最終講義までにフィードバックする。 ・ 期末試験については、試験終了後、井川研究室の前に解答例を掲示する。					
参考図書	中原一郎著「材料力学」（養賢堂）、飯野牧夫・西田真一著「よくわかる材料力学」（朝倉書店）				
関連科目	（材料力学Ⅰ） → 材料力学Ⅱ → 材料力学Ⅲ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （2）自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	静力学の基礎 力の概念、力のモーメント、平衡条件を理解する。	予習	教科書 pp.1～2 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習する。
(2)	応力とひずみ① 垂直応力と垂直ひずみの理解	予習	教科書 pp.2～5 を読んで予習する。
		復習	関連する演習問題を解く。
(3)	応力とひずみ② せん断応力とせん断ひずみの理解	予習	教科書 pp.3 と pp.5 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(4)	応力とひずみ③ フックの法則、応力ひずみ線図の理解	予習	教科書 pp.5～9 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(5)	応力とひずみ④ 許容応力と安全率の理解	予習	教科書 pp.10～12 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(6)	引張りと圧縮① 斜面上の応力の理解	予習	教科書 pp.14～16 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(7)	引張りと圧縮② 組合せ棒の応力と変形の理解	予習	教科書 pp.19～20 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問題を解く。
(8)	引張りと圧縮③ 両端を固定した棒の応力の理解	予習	教科書、演習問題 2-8(pp.34)を解いておく。
		復習	授業の内容を復習する。
(9)	引張りと圧縮④ 熱応力の理解	予習	教科書 pp.21～22 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(10)	引張りと圧縮⑤ 内圧を受ける薄肉円筒の応力の理解	予習	教科書 pp.28～31 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(11)	はりの曲げ① はりの種類、はりの反力の計算	予習	教科書 pp.48～51 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習する。
(12)	はりの曲げ② せん断力と曲げモーメントの計算	予習	教科書 pp.51～52 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。

(13)	はりの曲げ③ せん断力線図，曲げモーメント線図の求め方	予習	教科書 pp.54～55 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(14)	はりの曲げ④ はりの演習問題と解き方	予習	配布したプリントの問題を解いておく。
		復習	関連する演習問題を解く。
(15)	総合演習 引張と圧縮、はり等の演習と小テスト	予習	1～14 回までの講義内容を整理しておく。
		復習	配布したプリント、関連する演習問題を解く。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43540	後期	4	2
授業科目名	材料力学Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Strength of Materials II			3号館3階 井川研究室	
代表教員名		担当教員名			
井川 秀信		井川 秀信 (Hidenobu IGAWA)			
使用テキスト					
渥美光・鈴木幸三・三ヶ田賢次著 「材料力学Ⅰ」 (森北出版)					
授業の概要					
材料力学Ⅰに引き続き、材料力学の基礎的な分野とやや高度な分野の諸問題について講義を行い、材料力学の幅広い知識を修得します。また、講義内容の理解を深めるために適宜演習を行い、自ら問題を解く力を養います。					
到達目標					
(1)材料力学の基礎知識を身に付けることができる。 (2)自動車を含む機械設計と材料力学との関わりが理解できる。 (3)機械設計に必要な計算能力が身に付く。					
履修上の注意					
・授業中に理解度を確認するための演習を実施し、レポートとして提出させる。 ・講義には必ず電卓を持参すること。(スマートフォンの計算機は使用不可)					
成績評価の方法・基準					
レポート (30%)、小テスト (20%) と期末試験 (50%) で総合評価					
課題に対するフィードバック					
・講義中に出した課題や小テストは、最終講義までにフィードバックする。 ・期末試験については、試験終了後、井川研究室の前に解答例を掲示する。					
参考図書	中原一郎著「材料力学」(養賢堂)、飯野牧夫・西田真一著「よくわかる材料力学」(朝倉書店)				
関連科目	材料力学Ⅰ → (材料力学Ⅱ) → 材料力学Ⅲ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2)自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	はりの曲げ① 反力、せん断力、曲げモーメントの計算 の復習	予習	材料力学 I で学んだはりの曲げの内容を復 習しておく。
		復習	授業の内容を復習する。
(2)	はりの曲げ② 曲げ応力の理解	予習	教科書 pp.60～63 を読んで予習する。
		復習	関連する演習問題を解く。
(3)	はりの曲げ③ 断面二次モーメントと断面係数の理解	予習	教科書 pp.40～42 と pp.63～67 を読んで予 習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解 く。
(4)	はりの曲げ④ 断面二次モーメントと断面係数の計算	予習	教科書 pp.40～42 と pp.63～67 を読んで理 解しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解 く。
(5)	はりの曲げ⑤ 曲げ応力の計算 1	予習	教科書 pp.60～67 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解 く。
(6)	はりの曲げ⑥ 曲げ応力の計算 2	予習	教科書 pp.60～67 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解 く。
(7)	はりの曲げ⑦ たわみ曲線の微分方程式の理解	予習	教科書 pp.81～87 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問題を解 く。
(8)	はりの曲げ⑧ 種々のはりのたわみとたわみ角の計算 1	予習	教科書 pp.81～87 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習する。
(9)	はりの曲げ⑨ 種々のはりのたわみとたわみ角の計算 2	予習	教科書 pp.81～87 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解 く。
(10)	ねじり① 丸棒のねじり、ねじれ角、応力とひずみ の理解	予習	教科書 pp.143～146 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解 く。
(11)	ねじり② 断面二次極モーメントの理解	予習	教科書 pp.41～43 と pp.143～146 を読んで 理解しておく。
		復習	授業の内容を復習する。
(12)	ねじり③ 中実、中空丸棒の断面二次極モーメント とその計算	予習	教科書 pp.143～146 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解 く。

(13)	ねじり④ トルク、せん断応力、ねじれ角の計算	予習	教科書 pp.143～146 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(14)	ねじり⑤ 動力伝達軸、軸の強さの理解	予習	教科書 pp.147 を読んで予習する。
		復習	関連する演習問題を解く。
(15)	総合演習 はりの曲げ及びねじりの演習と小テスト	予習	1～14 回までの講義内容を整理しておく。
		復習	配布したプリント、関連する演習問題を解く。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		44000	前期	3	2
授業科目名	流体力学 I			学習相談	
英字科目名	Fluid Dynamics I			3 号館 3 階 東研究室 e-mail: azuma@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東 大 輔 (Daisuke AZUMA)		東 大 輔 (Daisuke AZUMA)			
使用テキスト					
藤田勝久「基本を学ぶ流体力学」(森北出版)					
授業の概要					
気体および液体を“流体”と総称し、流体の運動を理解する学問が流体力学である。 この授業では、まず流体の性質を学び、静水力学と流体運動の基礎を学ぶ。さらに、「自動車空力デザイン」への応用についても解説する。					
到達目標					
(1)流体力学の性質を理解する。 (2)流体力学の基礎を習得し、工学上の諸問題の解決能力を身に付ける。 (3)自動車デザインと流体力学との関わりを理解する。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求めることがある。講義には各自電卓を持参すること。					
成績評価の方法・基準					
中間テスト 50%と期末試験 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
・講義期間中に実施した中間テストは最終講義までに答案を返却し、解説する。					
参考図書	東 大 輔 著, 石井 明 監修,「自動車空力デザイン」(三樹書房)				
関連科目	流体力学Ⅰ → 流体力学Ⅱ → 航空流体力学				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策 を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	流体力学とは	予習	教科書 pp.1～6 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(2)	密度・比重	予習	教科書 pp.7～9 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(3)	粘性と圧縮性	予習	教科書 pp.9～14 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(4)	流体の静力学と圧力	予習	教科書 pp.15～17 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(5)	マノメータ	予習	教科書 pp.17～18 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(6)	壁面に及ぼす液体の力	予習	教科書 pp.18～19 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(7)	浮力および浮揚体の安定	予習	教科書 pp.19～22 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(8)	中間テスト	予習	これまでの講義内容を十分に理解しておくこと。
		復習	テスト内容を復習しておくこと。
(9)	流線の式	予習	教科書 pp.24～28 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(10)	連続の式	予習	教科書 pp.28～29 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(11)	1次元オイラー方程式	予習	教科書 pp.33～36 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(12)	ベルヌーイの定理	予習	教科書 pp.36～40 を読んで予習しておく。

		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(13)	運動量の法則	予習	教科書 pp.40～44 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(14)	自動車空力デザインへの応用	予習	スポーツカーやレース車両のエアロパーツを調べておくこと。
		復習	自動車のデザインを流体力学の観点で見直すこと。
(15)	総まとめ	予習	これまでの講義内容を振り返っておくこと。
		復習	講義ノート全体を十分に読み直し、理解を深めること。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43970	後期	4	2
授業科目名	流体力学Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Fluid Dynamics Ⅱ			3号館3階 東研究室 e-mail: azuma@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東 大 輔 (Daisuke AZUMA)		東 大輔 (Daisuke AZUMA)			
使用テキスト					
藤田勝久「基本を学ぶ流体力学」(森北出版)					
授業の概要					
流体中にある物体に働く力(自動車が高速度で走行するときに空気から受ける力など)、流体測定法(ピトー管を用いた流速計測など)、流体実験法(自動車の模型実験の相似則など)および、粘性流体の運動方程式について学ぶ。					
到達目標					
(1)流体力学の基礎を習得し、工学上の諸問題の解決能力を身に付ける。 (2)自動車デザインと流体力学との関わりを理解する。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求めることがある。講義には各自電卓を持参すること。					
成績評価の方法・基準					
中間テスト 50%と期末試験 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
・講義期間中に実施した中間テストは最終講義までに答案を返却し、解説する。					
参考図書	東 大輔 著, 石井 明 監修,「自動車空力デザイン」(三樹書房)				
関連科目	流体力学Ⅰ → 流体力学Ⅱ → 航空流体力学				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策 を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	粘性流体とレイノルズ数	予習	教科書 pp.74～78 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(2)	円柱および翼まわりの流れ	予習	教科書 pp.78～88 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(3)	円管内の流れ	予習	教科書 pp.90～95 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(4)	管路内の流れと損失	予習	教科書 pp.105～109 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(5)	中間テスト	予習	これまでの講義内容を十分に理解しておくこと。
		復習	テスト内容を復習しておくこと。
(6)	偏微分と粘性流体の連続の式	予習	偏微分の復習と教科書 pp.110 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(7)	コーシーの運動方程式	予習	教科書 pp.111～112 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(8)	変形速度と応力	予習	教科書 pp.112～116 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(9)	ナビエ・ストークス方程式	予習	教科書 pp.117～118 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(10)	ナビエ・ストークス方程式の演習	予習	教科書 pp.118～123 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(11)	境界層	予習	教科書 pp.128～130 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(12)	境界層方程式	予習	教科書 pp.130～136 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。

(13)	境界層のはく離	予習	教科書 pp.136～144 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(14)	自動車空力デザインへの応用	予習	スポーツカーやレース車両のエアロパーツを調べておくこと。
		復習	自動車のデザインを流体力学の観点で見直すこと。
(15)	総まとめ	予習	これまでの講義内容を振り返っておくこと。
		復習	講義ノート全体を十分に読み直し、理解を深めること。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43551	前期	3	2
授業科目名	工業熱力学			学習相談	
英字科目名	Thermodynamics			3号館3階 山口研究室	
代表教員名		担当教員名			
山口卓也		山口卓也 (Takuya YAMAGUCHI)			
使用テキスト					
熱力学のきほんの「き」、小山敏行著、森北出版株式会社					
授業の概要					
熱力学は物質の状態変化とエネルギー変化との関係を取り扱う学問である。工業熱力学では熱力学の第0法則から熱力学の第2法則までの基本法則と理想気体の状態式と状態変化について学ぶことを主目的とします。熱力学は交通機械工学を学ぶ上での重要な専門科目のひとつです。ガソリンエンジンやディーゼルエンジンなどの動力工学は熱を機械的仕事に変換することを基礎とし、熱力学はそれらの設計の理論的基礎となります。					
到達目標					
熱力学の第1法則および第2法則の二つの法則から導き出された状態量としてのエンタルピー、エントロピーの概念を理解する。二つの法則を理想気体の状態変化に適用し閉じた系および開いた系での熱量や機械的仕事の解析手法を習得する。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習を実施しレポートをの提出を求める。					
成績評価の方法・基準					
講義への取り組み姿勢や期末試験および課題やレポートの結果で総合評価します。					
課題に対するフィードバック					
・講義中に行った課題に関しては回答を配布したうえで詳しい解説を行う。 ・試験問題の解答は試験終了後に回答を山口研究室前に掲示する。					
参考図書					
関連科目	燃焼・伝熱工学、内燃機関Ⅰ、内燃機関Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2)自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	熱力学を学ぶための準備 1	予習	教科書 pp.1～pp.10 までを熟読しておくこと。
		復習	系および熱力学で扱う物理量について復習しておくこと。
(2)	熱力学を学ぶための準備 2	予習	教科書 pp.11～pp.20 までを熟読しておくこと。
		復習	熱力学の第 0 法則について復習しておくこと。
(3)	熱力学の第 1 法則 1	予習	教科書 pp.29～pp.35 までを熟読しておくこと。
		復習	エネルギーの形態、各種仕事について復習しておくこと
(4)	熱力学の第 1 法則 2	予習	教科書 pp.36～pp.43 までを熟読しておくこと。
		復習	熱力学の第 1 法則および閉じた系の熱力学の第 1 法則について復習すること。
(5)	熱力学の第 1 法則 3	予習	教科書 pp.44～pp.48 までを熟読しておくこと。
		復習	エンタルピについて復習しておくこと。
(6)	熱力学の第 1 法則 4	予習	教科書 pp.49～pp.53 までを熟読しておくこと。
		復習	比熱と内部エネルギーおよびエンタルピとの関係について復習すること。
(7)	熱力学の第 1 法則 5	予習	教科書 pp.54～pp.59 までを熟読しておくこと。
		復習	閉じた系の仕事と開いた系の仕事について復習すること。
(8)	理想気体 1	予習	教科書 pp.62～pp.64 までを熟読しておくこと。
		復習	作動流体の種類および理想気体の状態方程式について復習しておくこと
(9)	理想気体 2	予習	教科書 pp.65～pp.68 までを熟読しておくこと。
		復習	等温変化および等圧変化について復習すること

(10)	理想気体 3	予習	教科書 pp.69～pp.72 までを熟読しておくこと。
		復習	定容変化および断熱変化について復習すること
(11)	理想気体 4	予習	教科書 pp.73～pp.75 までを熟読しておくこと。
		復習	ポリトロプ変化について復習すること
(12)	熱力学の第 2 法則 1	予習	教科書 pp.76～pp.77 までを熟読しておくこと。
		復習	熱力学の第 2 法則について復習すること
(13)	熱力学の第 2 法則 2	予習	教科書 pp.84～pp.92 までを熟読しておくこと。
		復習	カルノーサイクルについて復習すること
(14)	熱力学の第 2 法則 3	予習	教科書 pp.93～pp.100 までを熟読しておくこと。
		復習	エントロピについて復習すること
(15)	総合演習	予習	第 1 回から第 14 回目までの講義内容（板書内容および例題）について再確認を行うこと。
		復習	演習問題とその模範解答について確認を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		44200	後期	4	2
授業科目名	燃焼・伝熱工学			学習相談	
英字科目名	Combustion and heat transfer engineering			3号館3階 山口研究室	
代表教員名		担当教員名			
山口卓也		山口卓也			
使用テキスト					
燃焼工学および伝熱工学に関する資料を配布する。					
授業の概要					
熱の移動に関する諸現象を取り扱う伝熱学およびガソリンエンジン、ディーゼルエンジンなど燃焼による高温ガス発生を伴う動力機械における火災、燃焼の基礎事項について学ぶ。伝熱工学においては熱が移動することの意味と、その現象を支配している原理や法則に関する基礎を学ぶ。また、燃焼工学においては燃焼に関する基礎的知見を習得し、ガソリンエンジンやディーゼルエンジンをはじめとする内燃機関における燃焼の仕組みや問題点を理解する。					
到達目標					
(1) 熱伝導、対流伝熱、ふく射伝熱の基礎を理解し、熱移動の基本演算ができるようになること。 (2) 伝熱を利用した機器、現象について伝熱の基本法則と関連付けて説明ができるようになること。 (3) 予混合火災、拡散火災の違いについて理解すること。 (4) 燃焼反応方程式を立て、必要空気量等を計算できる。					
履修上の注意					
講義には関数電卓を必ず持参すること。(携帯電話およびスマートフォンの電卓機能の使用は不可とする。)					
成績評価の方法・基準					
講義への取り組み姿勢や期末試験および課題やレポートの結果で総合評価します。					
課題に対するフィードバック					
・講義中に行った課題に関しては回答を配布したうえで詳しい解説を行う。 ・試験問題の解答は試験終了後に回答を山口研究室前に掲示する。					
参考図書	伝熱工学<上> J.P.ホールマン著 (ブレイン図書出版) 燃焼工学-基礎と応用- 小林清志 ほか (理工学社)				
関連科目	工業熱力学、内燃機関Ⅰ、内燃機関Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	熱の移動に関する3つの形態について	予習	配布資料の熱伝導、対流伝熱、ふく射伝熱の概要について熟読すること。
		復習	熱伝導、対流伝熱、ふく射伝熱のそれぞれの特徴について再確認を行うこと。
(2)	熱伝導①	予習	配布資料の熱伝導と熱伝導率について熟読すること。
		復習	フーリエの式と講義中に解説した例題を復習すること。
(3)	熱伝導②	予習	配布資料の平板の熱伝導、重ね板の熱伝導、円筒の熱伝導について熟読すること。
		復習	講義中に解説を行った平板の熱伝導、重ね板の熱伝導、円筒の熱伝導の例題を復習すること。
(4)	対流伝熱①	予習	配布資料の対流伝熱の概要と熱伝達率について熟読すること。
		復習	熱伝達率に関する無次元数（ヌセルト数、プラントル数など）について再確認を行うこと
(5)	対流伝熱②	予習	配布資料中の円管内の熱伝達および平板の熱伝達について熟読すること。
		復習	講義中に解説を行った円管内の熱伝達および平板の熱伝達の例題を復習すること。
(6)	ふく射伝熱①	予習	配布資料中のふく射伝熱の概要とステファン・ボルツマンの式について熟読すること。
		復習	講義中に解説を行ったふく射伝熱の例題を復習すること
(7)	ふく射伝熱②	予習	配布資料中の放射率について熟読すること。
		復習	講義中に解説を行った2表面間のふく射伝熱の例題を復習すること
(8)	熱貫流（熱通過）	予習	配布資料中の熱通過について熟読すること。
		復習	講義中に解説を行った熱通過の例題を復習すること
(9)	伝熱工学中間試験	予習	これまで解説を行った熱移動に関する3つの形態の概要と例題を再度確認すること。
		復習	中間試験に出題した問題を復習すること。

(10)	燃焼と着火温度	予習	配布資料中の各種燃料の着火温度および火炎の構造について熟読すること。
		復習	予混合火炎および拡散火炎について復習すること。
(11)	燃料の発熱量および燃焼反応式	予習	配布資料中の燃焼反応式について熟読すること
		復習	講義中に解説を行った燃焼反応式の例題と演習問題を復習すること
(12)	理論空気量	予習	配布資料中の理論空気量について熟読すること
		復習	講義中に行った理論空気量の例題と演習問題を復習すること
(13)	当量比と空気過剰率	予習	配布資料中の当量比と空気過剰率について熟読すること
		復習	講義中に行った当量比と空気過剰率の例題と演習問題を復習すること
(14)	燃焼工学演習試験	予習	これまで解説を行った燃焼工学の概要と例題および演習問題を再度確認すること。
		復習	演習試験に出題した問題を復習すること。
(15)	総合演習	予習	伝熱工学および燃焼工学の講義概要を復習しておくこと
		復習	総合演習で行った演習問題を再度確認し期末試験の対策を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43120	前期	5	2
授業科目名	内燃機関Ⅰ			学習相談	
英字科目名	Internal combustion engineⅠ			3号館3階 山口研究室	
代表教員名		担当教員名			
山口卓也		山口卓也(Takuya YAMAGUCHI)			
使用テキスト					
廣安博之・寶諸男・大山宜茂著「改訂 内燃機関」 (コロナ社)					
授業の概要					
内燃機関（エンジン）は様々な学問から成り立ち、自動車用のみならず船舶や建設機械などの様々な分野の動力源として広く利用されている。本講義では自動車エンジンに関連する基礎的事項を中心として、エンジンや各部品の構造・機能および作動・サイクル・主要諸元について講義する。					
到達目標					
内燃機関（ガソリンエンジン、ディーゼルエンジン）の構造を把握するとともに、熱力学的な取り扱いができるようにする。					
履修上の注意					
工業熱力学および燃焼・伝熱工学の内容をよく理解したうえで講義に出席すること。講義には関数電卓を必ず持参すること。 （携帯電話およびスマートフォンの電卓機能の使用は不可とする。）					
成績評価の方法・基準					
講義への取り組み姿勢や期末試験および課題やレポートの結果で総合評価します。					
課題に対するフィードバック					
・講義中に行った課題に関しては回答を配布したうえで詳しい解説を行う。 ・試験問題の解答は試験終了後に回答を山口研究室前に掲示する。					
参考図書	村山正・常本秀幸著「自動車エンジン工学」（東京電機大学出版局） 熱力学のきほんの「き」（森北出版株式会社）				
関連科目	工業熱力学、燃焼・伝熱工学、内燃機関Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （２）自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策を講じることができる				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に 2 時間程度、復習に 2 時間程度確保してください。	
(1)	・ 内燃機関の起源と発達過程 ・ エンジンの主要部品に関して	予習	教科書 pp.1～pp.3 を熟読し、エンジンの主要部品の名称を確認すること。
		復習	内燃機関の歴史的な成り立ちおよびエンジンの主要部品の機能について復習すること。
(2)	内燃機関の作動原理（4 行程サイクルおよび 2 行程サイクルの動作）	予習	教科書 pp.3～pp.4 を熟読し、4 行程サイクルと 2 行程サイクルの動作について調べておくこと。
		復習	4 行程サイクルの特徴および 2 行程サイクルの特徴について復習しておくこと。
(3)	内燃機関の分類と特徴 （内燃機関と外燃機関、ガソリン機関とディーゼル機関の比較について）	予習	教科書 pp.5～pp.7 を熟読し、ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの特徴を調べておくこと。
		復習	ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの長所と短所について復習しておくこと。また内燃機関と外燃機関の違いも確認しておくこと。
(4)	内燃機関の熱力学その 1 （ガスの状態変化と仕事について）	予習	工業熱力学（2 年前期）で学習した内容を復習しておくこと。
		復習	理想気体の状態方程式、熱力学の第 1 法則および第 2 法則について復習を行うこと。
(5)	内燃機関の熱力学その 2 （定容変化、定圧変化、等温変化、断熱変化、ポリトロップ変化）	予習	工業熱力学（2 年前期）で学習した内容を復習しておくこと。
		復習	ガスの状態変化と仕事について復習しておくこと
(6)	理論空気サイクルの定義（理論熱効率および理論平均有効圧力）	予習	教科書 pp.18～pp.19 を熟読すること。また、工業熱力学（2 年前期）で学習した内容を復習すること。
		復習	理論空気サイクルを論ずる上での仮定について復習しておくこと。また理論熱効率および理論平均有効圧力について再確認すること。
(7)	オットーサイクルの理論熱効率および理論平均有効圧力	予習	教科書 pp.19～pp.22 を熟読すること。
		復習	オットーサイクルの理論熱効率および理論平均有効圧力の式の導出過程について復習を行うこと。

(8)	ディーゼルサイクルの理論熱効率および理論平均有効圧力	予習	教科書 pp.22～pp.23 を熟読すること。
		復習	ディーゼルサイクルの理論熱効率および理論平均有効圧力の式の導出過程について復習を行うこと。
(9)	サバテサイクルの理論熱効率および理論平均有効圧力	予習	教科書 pp.23～pp.24 を熟読すること。
		復習	サバテサイクルの理論熱効率および理論平均有効圧力の式の導出過程について復習を行うこと。
(10)	ブレイトンサイクルの理論熱効率および理論平均有効圧力	予習	教科書 pp.25～pp.26 を熟読すること。
		復習	ブレイトンサイクルの理論熱効率の式の導出過程について復習を行うこと。
(11)	理論空気サイクルの熱効率の比較	予習	教科書 pp.27～pp.30 を熟読すること。
		復習	各理論サイクルにおける圧縮比および膨張比の影響について再確認をおこなうこと。
(12)	燃料空気サイクルに関して	予習	教科書 pp.31～pp.34 を熟読すること。
		復習	理論空気サイクルと燃料空気サイクルの違いについて再確認をおこなうこと。また実際のサイクルについて復習すること。
(13)	内燃機関の燃料 1 ガソリンおよび軽油の性質について	予習	教科書 pp.36～pp.40 を熟読すること。
		復習	石油の精製プロセスについて確認すること
(14)	内燃機関の燃料 2 ガソリンおよび軽油の性質について	予習	教科書 pp.41～pp.49 を熟読すること。
		復習	ガソリンおよび軽油の性状について復習すること。
(15)	総合演習	予習	第 1 回から第 14 回目までの講義内容（板書内容および例題）について再確認を行うこと。
		復習	演習問題とその模範解答について確認を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43120	後期	6	2
授業科目名	内燃機関Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Internal combustion engine Ⅱ			3号館3階 山口研究室	
代表教員名		担当教員名			
山口卓也		山口卓也(Takuya YAMAGUCHI)			
使用テキスト					
廣安博之・寶諸男・大山宜茂著「改訂 内燃機関」 (コロナ社)					
授業の概要					
内燃機関（エンジン）は様々な学問から成り立ち、自動車用のみならず船舶や建設機械などの様々な分野の動力源として広く利用されている。本講義では自動車エンジンに関連する性能と計測さらには過給システムなどの基礎的事項を中心に講義する。また近年、普及が広がったハイブリッドシステムについても概説する。					
到達目標					
内燃機関（ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンの構造を把握するとともに、熱力学的な取り扱いができるようにする。また、燃焼方式については、ガソリンエンジンとディーゼルエンジンの相違についても理解できるようにする。					
履修上の注意					
工業熱力学、燃焼・伝熱工学および内燃機関Ⅰの内容をよく理解したうえで講義に出席すること。					
成績評価の方法・基準					
講義への取り組み姿勢や期末試験および課題やレポートの結果で総合評価します。					
課題に対するフィードバック					
・ 講義中に行った課題に関しては回答を配布したうえで詳しい解説を行う。 ・ 試験問題の解答は試験終了後に回答を山口研究室前に掲示する。					
参考図書	村山正・常本秀幸著「自動車エンジン工学」（東京電機大学出版局） 熱力学のきほんの「き」（森北出版株式会社）				
関連科目	工業熱力学、燃焼・伝熱工学、内燃機関Ⅰ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （２）自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策 を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	燃焼の基礎	予習	教科書 pp.50～pp.52 を熟読すること。
		復習	理論空気量および空気過剰率と当量比の内容について復習すること。
(2)	性能と計測 1	予習	教科書 pp.72～pp.73 を熟読すること。
		復習	図示仕事および図示出力について復習すること。
(3)	性能と計測 2	予習	教科書 pp.73～pp.75 を熟読すること。
		復習	正味仕事および正味出力について復習すること。また機械効率の定義について再確認すること。
(4)	性能と計測 3	予習	教科書 pp.75～pp.76 を熟読すること。
		復習	図示熱交率と正味熱効率について復習すること。
(5)	吸気および排気装置 1	予習	教科書 pp.87～pp.94 を熟読すること。
		復習	4 行程サイクルにおける吸排気弁の開閉時期について復習すること。また体積効率と充填効率の違いについても復習すること。
(6)	吸気および排気装置 2	予習	教科書 pp.96～pp.100 を熟読すること。
		復習	機械駆動式過給と排気タービン過給の長所と短所について復習すること。
(7)	ガソリンエンジンの燃焼 1	予習	教科書 pp.54～pp.58 を熟読すること。
		復習	ガソリンエンジンの性状燃焼の形態および異常燃焼（ノッキング・表面点火）について復習すること。
(8)	ガソリンエンジンの燃焼 2	予習	教科書 pp.59～pp.63 を熟読すること。
		復習	異常燃焼の防止策について復習すること。
(9)	ガソリンエンジンの排気対策	予習	教科書 pp.160～pp.163 を熟読すること。
		復習	三元触媒システムについて復習すること。
(10)	ディーゼルエンジンの燃焼 1	予習	教科書 pp.63～pp.65 を熟読すること。
		復習	ディーゼルエンジンの燃焼形態と燃焼過程について復習すること。またディーゼルノックについて再確認すること。

(11)	ディーゼルエンジンの燃焼 2	予習	教科書 pp.121～pp.126 を熟読すること。
		復習	コモンレール燃料噴射システムについて復習すること。
(12)	ディーゼルエンジンの排気対策	予習	教科書 pp.163～pp.168 を熟読すること。
		復習	EGR による排気対策および DPF などの排気後処理装置について復習すること。
(13)	エンジンとハイブリッドシステム 1	予習	教科書 pp.168～pp.169 を熟読すること。
		復習	シリーズ方式およびパラレル方式について復習すること。
(14)	エンジンとハイブリッドシステム 2	予習	教科書 pp.168～pp.169 を熟読すること。
		復習	シリーズパラレル方式について復習すること。
(15)	総合演習	予習	第 1 回から第 14 回目までの講義内容(板書内容および例題) について再確認を行うこと。
		復習	演習問題とその模範解答について確認を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43430	後期	2	2
授業科目名	基礎力学Ⅰ			学習相談	
英字科目名	Fundamental MechanicsⅠ			3号館3階 吉野研究室 e-mail: yoshino@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		吉野 貴彦			
使用テキスト					
授業中に配布するプリントを中心に、教科書「基礎から学ぶ 工業力学」武居 昌宏（著）、飯田 明由（著）、金野 祥久（著）（オーム社）を併用する。					
授業の概要					
物体にかかる力とその運動を扱う力学は、機械工学の基本であるとともに、工業の基本でもある。本授業では、質点に働く力の合成とつりあい、重心、質点の運動について学ぶ。さらに、講義に沿った演習を行うことで、より理解を深めていく。					
到達目標					
(1) 質点に働く力の合成とつりあいを理解し、説明できるようになる。 (2) 重心の定義と求め方を理解し、説明できるようになる。 (3) 質点の運動（変位、速度、加速度）と力について理解し、応用できること。					
履修上の注意					
必ず出席することが前提である。ここで学んだ考え方および知識は高学年での種々の力学のベースになるので、予習・復習によって理解を深めて欲しい。					
成績評価の方法・基準					
中間試験(50%)および定期試験(50%)で最終成績を評価し、60%以上の者に単位を認める。なお、欠席が多い場合、受講放棄と見なし一切の成績評価をしないこともある。					
課題に対するフィードバック					
(1)講義中に出した課題や、小テストは、最終講義までにフィードバックする。 (2)期末試験の解答は試験終了後、吉野研究室まで取りに来ること。					
参考図書	適宜紹介する。				
関連科目	基礎力学Ⅰ → 基礎力学Ⅱ → 応用力学 → 機械力学				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) (1) 交通機械技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	[ガイダンス] ガイダンス、学力調査、単位系と物理量	予習	高校までの「数学」および「物理」の復習をしておくこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(2)	[質点の力学] 力の合成と分解	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(3)	[質点の力学] 力のつりあい	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(4)	[剛体の力学] 力の合成、モーメント	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(5)	[剛体の力学] 支点と反力	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(6)	[剛体の力学] 簡単な形状の物体の重心	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(7)	[質点の運動] 速度と加速度	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(8)	[質点の運動] 直線運動	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(9)	[質点の運動] 落下運動	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。

(10)	[質点の運動] 放物運動	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(11)	[質点の運動] 円運動	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(12)	[質点の運動] 相対運動	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(13)	[質点の運動] 運動法則	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(14)	[質点の運動] 慣性力	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(15)	[総復習] 学習内容の復習を行う。	予習	前回までの総復習を行うこと。
		復習	総復習を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43440	前期	3	2
授業科目名	基礎力学Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Fundamental Mechanics Ⅱ			3号館3階 吉野研究室 e-mail: yoshino@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		吉野 貴彦			
使用テキスト					
授業中に配布するプリントを中心に、教科書「基礎から学ぶ 工業力学」武居 昌宏（著）、飯田 明由（著）、金野 祥久（著）（オーム社）を併用する。					
授業の概要					
基礎力学Ⅱは力学系専門科目の基礎となる、最も基本的な科目の一つである。剛体の運動、摩擦、仕事とエネルギー、運動量と力積を理解することにより、これらを応用する能力と自然科学的な思考方法を身につける。					
到達目標					
(1) 剛体の運動について理解し、説明できるようになる。 (2) 摩擦、仕事およびエネルギーについて理解し、説明できるようになる。 (3) 運動量と力積について理解し、説明できるようになる。					
履修上の注意					
必ず出席することが前提である。ここで学んだ考え方および知識は高学年での種々の力学のベースになるので、予習・復習によって理解を深めて欲しい。					
成績評価の方法・基準					
中間試験(50%)および定期試験(50%)で最終成績を評価し、60%以上の者に単位を認める。なお、欠席が多い場合、受講放棄と見なし一切の成績評価をしないこともある。					
課題に対するフィードバック					
(1)講義中に出した課題や、小テストは、最終講義までにフィードバックする。 (2)期末試験の解答は試験終了後、吉野研究室まで取りに来ること。					
参考図書	適宜紹介する。				
関連科目	基礎力学Ⅰ → 基礎力学Ⅱ → 応用力学 → 機械力学				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) (1) 交通機械技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	[剛体の力学(1)] 剛体の平面運動	予習	「基礎力学Ⅰ」の内容を復習しておくこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(2)	[剛体の力学(2)] 並進運動と回転運動	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(3)	[剛体の力学(3)] 固定軸まわりの回転運動	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(4)	[剛体の力学(4)] 慣性モーメントと関連する定理	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(5)	[剛体の力学(5)] 簡単な物体の慣性モーメント	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(6)	[剛体の力学(6)] 剛体の平面運動方程式 1	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(7)	[剛体の力学(7)] 剛体の平面運動方程式 2	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(8)	[摩擦(1)] すべり摩擦、静止摩擦、運動摩擦、ころがり摩擦	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(9)	[摩擦(2)] 斜面の摩擦と応用、軸受の摩擦、ベルトの摩擦	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(10)	[力学エネルギー(1)] 仕事	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(11)	[力学エネルギー(2)] 運動エネルギーと位置エネルギー	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(12)	[力学エネルギー(3)] 力学エネルギー保存の法則	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(13)	[衝突(1)] 運動量と力積、運動量保存の法則	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(14)	[衝突(2)] 反発の法則	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(15)	[総復習] 学習内容の復習を行う	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	総復習を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43450	後期	4	2
授業科目名	応用力学			学習相談	
英字科目名	Applied Mechanics			3 号館 3 階 吉野研究室 e-mail: yoshino@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		吉野 貴彦			
使用テキスト					
授業中に配布するプリントを中心に、教科書「基礎から学ぶ 工業力学」武居 昌宏（著）、飯田 明由（著）、金野 祥久（著）（オーム社）を併用する。					
授業の概要					
「交通機械の力学」において現象の物理的意味を考える力を養成し、演習問題を通じて、力学の基礎を身につける。					
到達目標					
(1)応用力学で重要な運動方程式を自らの力で立てられる実力を身につける。 (2)ピストンクランク機構の理解、慣性力について考察できる。 (3)回転系の力学において重要な慣性モーメント、つりあい、危険速度を理解する。 (4)振動学の基礎を理解する。					
履修上の注意					
必ず出席することが前提である。ここで学んだ考え方および知識は高学年での種々の力学のベースになるので、予習・復習によって理解を深めて欲しい。					
成績評価の方法・基準					
中間試験(50%)および定期試験(50%)で最終成績を評価し、60%以上の者に単位を認める。なお、欠席が多い場合、受講放棄と見なし一切の成績評価をしないこともある					
課題に対するフィードバック					
(1)講義中に出した課題や、小テストは、最終講義までにフィードバックする。 (2)期末試験の解答は試験終了後、吉野研究室まで取りに来ること。					
参考図書	適宜紹介する。				
関連科目	基礎力学Ⅰ → 基礎力学Ⅱ → 応用力学 → 機械力学				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) (１)交通機械技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	[ガイダンス] 応用力学について	予習	「基礎力学Ⅱ」の内容を復習しておくこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(2)	[運動方程式] ニュートンの運動法則	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(3)	[運動方程式] ダランベールの原理	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(4)	[運動量と力積] 運動量保存則	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(5)	[回転系の力学 1] 慣性モーメント、角運動量保存則	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(6)	[回転系の力学 2] 剛体の平面運動	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(7)	[往復機械の動力学] ピストン・クランク機構について	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(8)	[多列型機関 1] 直列4気筒、V型	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(9)	[多列型機関 2] 水平対向のつりあい、クラッチについて	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(10)	[回転機械のつりあい] 不つりあい、つりあいの条件	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(11)	[回転機械のねじり運動] 危険速度	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(12)	[回転機械のねじり運動 2] 歯車伝動軸について、等価という考え方について	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(13)	[1自由度系の振動 1] 調和振動、周期、固有振動数について	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(14)	[1自由度系の振動 2] 減衰振動、減衰比、対数減衰率など	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(15)	[1自由度系の振動 3] 強制振動、共振とは、振動対策について	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	総復習を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43460	前期	5	2
授業科目名	機械力学			学習相談	
英字科目名	Dynamics of Machinery			3号館3階 吉野研究室 e-mail: yoshino@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		吉野 貴彦			
使用テキスト					
授業中に配布するプリントを中心に、教科書「基礎から学ぶ 工業力学」武居 昌宏（著）、飯田 明由（著）、金野 祥久（著）（オーム社）を併用する。					
授業の概要					
最近、機械や装置の高速化・高性能化などにより振動問題が顕著化しつつある。機械力学では今まで学んできた、力学、数学あるいは機械工学に関する知識を基礎として、機械振動の基礎を理解することを目的とする。					
到達目標					
(1) 1自由度系の運動方程式の求め方と、固有振動数、周期の意味を理解する。 (2) 減衰振動と、その特性を表す減衰比の意味を理解する。 (3) 強制的に振動させた場合の応答の求め方とその特性を示す共振曲線の意味を理解し、振動絶縁の対策や振動計の設計に生かすことができる。 (4) 2自由度系の運動方程式の立て方と、固有振動数と振動モードの意味を理解する。					
履修上の注意					
必ず出席することが前提である。ここで学んだ考え方および知識は高学年での種々の力学のベースになるので、予習・復習によって理解を深めて欲しい。					
成績評価の方法・基準					
中間試験(50%)および定期試験(50%)で最終成績を評価し、60%以上の者に単位を認める。なお、欠席が多い場合、受講放棄と見なし一切の成績評価をしないこともある。					
課題に対するフィードバック					
(1)講義中に出した課題や、小テストは、最終講義までにフィードバックする。 (2)期末試験の解答は試験終了後、吉野研究室まで取りに来ること。					
参考図書	適宜紹介する。				
関連科目	基礎力学Ⅰ → 基礎力学Ⅱ → 応用力学 → 機械力学				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) (1) 交通機械技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	授業のガイダンスと振動の基本事項について学習する。	予習	「応用力学」の内容を復習しておくこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(2)	[1自由度系の自由振動 1] 自由度, 運動方程式の考え方について復習し、減衰がない場合の1自由度の系の自由振動の運動方程式について学習する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(3)	[1自由度系の自由振動 2] 1自由度系の自由振動の運動方程式について学習し、振動の特性を示す固有振動数の意味について理解する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(4)	[1自由度系の自由振動 3] 外力が作用していない場合のいろいろな1自由度振動系の自由振動の運動方程式を求め、より理解を深める。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(5)	[1自由度系の自由振動 4] 減衰がある場合にどのように運動方程式をたて、解を求めればよいか。また、得られた解の意味について学習する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(6)	[1自由度系の自由振動 5] 減衰要素の特性を表す減衰比、対数減衰率について学習する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(7)	[1自由度系の自由振動 6] 自由振動のまとめ	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(8)	[1自由度系の強制振動 1] 減衰のない系に周期的な外力が作用する場合の強制振動について学習する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(9)	[1自由度系の強制振動 2] 減衰がある系に周期的な外力が作用する場合の強制振動について学習する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(10)	[1自由度系の強制振動 3] 振動対策について	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(11)	[2自由度系の自由振動 1] 質点が複数あるような多自由度系の振動の基礎として、2自由度系の運動方程式の求め方と解法について学習する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。

(12)	[2 自由度系の自由振動 2] 固有振動数について学習する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(13)	[2 自由度系の自由振動 3] 固有モードについて学習する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(14)	[2 自由度系の強制振動] 2 自由度系の強制振動について学習する。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(15)	[まとめ] 学習してきた内容をまとめ、重要な項目について再確認を行う。	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	総復習を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43500	前期	3	2
授業科目名	機械工作法			学習相談	
英字科目名	Machining Technology			澁谷研究室（創造工房） e-mail：hideo@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
澁谷 秀雄（SHIBUTANI Hideo）		澁谷 秀雄（SHIBUTANI Hideo）			
使用テキスト					
平井三友、和田任弘、塚本晃久著 「機械工作法」 （コロナ社）					
授業の概要					
「ものづくり」において、必要な機能・性能を有する部品・製品を実際の形にするために「加工技術」は必要不可欠である。加工学Ⅰでは各種加工技術および計測技術ついて、名称、方法、原理、特徴を学ぶ。					
到達目標					
(1)技術者として必要な専門用語を理解し、要求される性能を満足する部品・製品を作製する加工方法や手順を提案できるようになる。 (2)加工現場の技能者とコミュニケーションがとれるようになる。 (3)加工現場で生じた問題の原因を究明し、解決できるようになる。					
履修上の注意					
講義中、必ずノートを取る					
成績評価の方法・基準					
期末試験（100％）の評価					
課題に対するフィードバック					
レポート等については、必要に応じて最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	尾崎龍夫、矢野満、濟木弘行、里中忍 著 「機械製作法Ⅰ」（朝倉書店） 有浦泰常、鬼鞍宏猷、仙波卓弥、黒河周平、鈴木俊男 著 「機械製作法Ⅱ」（朝倉書店） 朝倉健二、橋本文雄 著 「機械工作法Ⅰ」、「機械工作法Ⅱ」（共立出版）				
関連科目	工業材料基礎、工業材料、材料力学Ⅰ → 機械製作法 → 精密加工学、機械設計				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) DP1：交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。 DP2：交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	機械製作法の種類と特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(2)	純金属・合金の特長、状態図と組織	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(3)	単軸応力による塑性変形、応力-ひずみ曲線	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(4)	鑄造の種類と特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(5)	鍛造、圧延、プレス加工の特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(6)	溶接の種類と特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(7)	切削理論	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(8)	工作機械の分類と特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(9)	旋削加工の種類と特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(10)	穴あけ加工の種類と特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(11)	フライス加工の種類と特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(12)	歯切り加工の種類と特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(13)	研削・研磨加工の特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(14)	特殊加工の種類と特長	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。
(15)	形状計測と表面計測	予習	配布資料を印刷し、内容を教科書で確認する。
		復習	作成したノートの内容を教科書で確認する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43290	前期	1	2
授業科目名	図学			学習相談	
英字科目名	Descriptive Geometry			3号館3階 吉野研究室 e-mail: yoshino@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
山口 卓也 (Takuya YAMAGUCHI)		吉野貴彦			
使用テキスト					
松井悟ほか3名著「初めて学ぶ図学と製図」(朝倉書店)					
授業の概要					
空間図形の理解と空間把握力を養うことを目的に図法幾何学を学ぶ。図法幾何学は、図形問題を数式を使わずに紙面上で適当な図形変換を行うことによって解を導くことを基本とする学問である。講義では第三角法に基づく図法幾何学について解説する。また演習では講義に関連する図形問題を解くことによって理解を深める。					
到達目標					
(1) 三次元の立体を平面(紙面)に描写する方法を身に付け、作図できるようになる。 (2) 立体を構成する点・直線・面の組み合わせ型を理解し、説明できるようになる。 (3) 製図の基礎となる作図法を学ぶ。					
履修上の注意					
空間の図形を想像して、精密に作図すること。 製図道具、三角定規、テキストを忘れず持参すること。					
成績評価の方法・基準					
授業中に行う演習(50%)と期末試験(50%)で評価を行う。なお、欠席が多い場合、受講放棄と見なし一切の成績評価をしないこともある。					
課題に対するフィードバック					
(1)講義中に出した課題や、小テストは、最終講義までにフィードバックする。 (2)期末試験の解答は試験終了後、吉野研究室まで取りに来ること。					
参考図書	大久保正夫著「第三角法による図学」(朝倉書店) 関連図書は多いので、自分に合ったものを探すと良い。				
関連科目	図学→ 基礎製図 → 機械製図 → CAD基礎				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) (1)交通機械技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス、および図学概要説明	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(2)	投影・第三角法（第三角法による立体表現の方法を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(3)	点・直線・平面の投影（点の投影、直線の投影、平面の投影を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(4)	副投影 1（副投影法、点視点、直線視点、端視点を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(5)	副投影 2（2回の変更を伴う副投影法を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(6)	副投影 3（副投影による図形幾何学問題の解法を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(7)	回転法（点と直線の回転を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(8)	切断法 1（切断の基本と切断法を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(9)	切断法 2（立体図形の切断面の求め方を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(10)	立体の展開（展開、展開図を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(11)	軸測投影（軸測投影図および斜投影図の原理と描き方を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(12)	斜投影（斜投影図の原理と描き方を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(13)	図面の規則（線の種類と用途、尺度を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(14)	機械製図の図面（製図に用いる投影法、寸法記入法を理解する。）	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(15)	総まとめ演習	予習	教科書の対応する頁の一読を行うこと。
		復習	総復習を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43300	後期	2	1
授業科目名	基礎製図			学習相談	
英字科目名	Basic Drawing			インテリジェント・モビリティ研究所 スタッフルーム	
代表教員名		担当教員名			
片山 硬		金子 寛典 (Hironori Kaneko)			
使用テキスト					
松井 悟ほか3名著「初めて学ぶ図学と製図」(朝倉書店)					
授業の概要					
図学に引き続き、三次元物体を二次元平面へ作図法の修得により、空間にある点・直線・面・立体の位置大きさの想像力を養う。さらに、機械製図規格を理解習得して、機械要素の構造工作法を理解する。					
到達目標					
(1) 三次元物体を二次元平面へ作図する手法を修得する。 (2) 立体を構成する点・直線・面の組み合わせ型を理解する。 (3) 機械製図規格を理解習得する。 (4) 機械要素の構造工作法を理解し、機械部品等を作図できるようになる。					
履修上の注意					
空間の図形を想像して、精密に作図すること。 製図道具、三角定規、テキスト、円テンプレートを忘れず持参すること。					
成績評価の方法・基準					
授業中に行う演習(50%)と期末試験(50%)で評価を行う。					
課題に対するフィードバック					
講義中に出した課題や小テストは、最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	大久保正夫、助弘毅、広尾靖彰著「機械製図法」(朝倉書店)				
関連科目	図学→基礎製図→機械製図→C A D 基礎				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (1) 交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	文字および線の規格	予習	教科書 pp.76～81 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習する。
(2)	投影・正面図の選定、補助投投影	予習	教科書 pp.1～7 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(3)	寸法記入、寸法公差記入、Vブロック製図	予習	教科書 pp.101～112 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(4)	穴の種類、製図	予習	教科書 pp.113～116 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(5)	ねじの種類図示法、製図	予習	教科書 pp.151～153 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(6)	ボルトの種類、略画法、製図	予習	教科書 pp.154～157 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(7)	植え込みボルトの製図	予習	配布したプリントを読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(8)	形鋼の種類、製図	予習	教科書 pp.117～118 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(9)	歯車の種類、製図	予習	教科書 pp.157～159 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(10)	ばねの種類、製図	予習	参考書 13 章を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(11)	軸受けの種類、製図	予習	教科書 pp.161～162 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(12)	鋳物部品の製図	予習	配布したプリントを読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(13)	溶接の種類、溶接部品の製図	予習	教科書 pp.162～165 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(14)	軸継手の製図	予習	配布したプリントを読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(15)	総合演習	予習	1～14 回までの講義内容を整理しておく。
		復習	配布したプリントと演習問題を復習する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43310	前期	3	2
授業科目名	機械製図			学習相談	
英字科目名	Machanical Engineerinnng drawing			4 号館 1 階 緒方研究室	
代表教員名		担当教員名			
緒方光		緒方光			
使用テキスト					
なし					
授業の概要					
製図の基礎となる、対象物に対する空間把握能力の醸成及び、単品図とアッセンブリ図の実践的製図作成能力を身に付け、簡単な強度計算を含む設計図を作成することによって、機械製図の意味を理解させる。					
到達目標					
JIS を活用した、簡単な設計製図が可能なレベル					
履修上の注意					
1 年次で学んだ製図基礎や図学、CAD 基礎の履修が完了していること。製図用具一式と関数電卓を用意すること。					
成績評価の方法・基準					
作成図面の提出、他に、簡単な設計計算書の提出。					
課題に対するフィードバック					
作成図面、計算書の添削による個別指導					
参考図書	機械設計製図便覧 オーム社/理工学社 等				
関連科目	製図基礎、CAD 基礎、図学、交通機械設計演習				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （１）交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	オリエンテーション及びメーカにおける図面/製図/機械設計製図の概論	予習	なし
		復習	進度遅れの挽回
(2)	図学…第3角法、断面、副投影、立体図など、実践で多用する製図技法の習得	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(3)	機械要素…ねじ・ばね・歯車・軸などの実践で多用する機械要素の製図能力の習得	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(4)	簡単な製品のポンチ絵・組立図・部品図の製図(1)	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(5)	簡単な製品のポンチ絵・組立図・部品図の製図(2)	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(6)	検図・修正・課題提出(第1回目)	予習	進度遅れの挽回
		復習	提出図面の修正
(7)	複雑製品のポンチ絵・組立図・部品図の製図(1)	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(8)	複雑製品のポンチ絵・組立図・部品図の製図(2)	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(9)	複雑製品のポンチ絵・組立図・部品図の製図(3)	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(10)	検図・修正・課題提出(第2回目)	予習	進度遅れの挽回
		復習	提出図面の修正
(11)	簡単な機械要素部品の設計計算(1)	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(12)	簡単機械要素部品の設計計算(2)の確認と提出	予習	進度遅れの挽回
		復習	設計計算書の修正
(13)	設計計算書に基づく設計図の作成(1)	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(14)	設計計算書に基づく設計図の作成(2)	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(15)	検図・修正・課題提出(第3回目)	予習	進度遅れの挽回
		復習	提出図面の修正

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43760	後期	4	2
授業科目名	CAD 基礎			学習相談	
英字科目名	Basic Practice of CAD			3 号館 3 階 吉野研究室 e-mail: yoshino@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
山 口 卓 也 (Takuya YAMAGUCHI)		吉野 貴彦			
使用テキスト					
資料を配布する。					
授業の概要					
各種業界の急速なる 3 次元 C A D 導入により、企業側が学生に対して 3 次元 C A D 教育の要望が強くなっている。本講義は導入偏として位置づけられ、3 次元 C A D の利点・概念・操作を Solid Works にて学ぶ。					
到達目標					
(1) Solid Works の操作方法を修得し、3D モデルの作成ができるようになる。 (2) 3 次元 CAD の利点・概念を理解し、説明できるようになる。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求める。講義には必ず出席し自ら問題を解くことが前提である。資料や図面を配布するので、専用ファイルを用意すること。 なお、学生の理解度に合わせて、内容の追加・削除する場合がある。					
成績評価の方法・基準					
本講義は CAD 実践演習が主であるため、演習毎にスキル到達度を確認する。(50%) 期末試験 (50%) 但し、全ての課題を提出すること。					
課題に対するフィードバック					
(1)講義中に出した課題や、小テストは、最終講義までにフィードバックする。 (2)期末試験の解答は試験終了後、吉野研究室まで取りに来ること。					
参考図書	「よくわかる 3 次元 CAD システム SolidWorks 入門 Part3」(株)アドライズ 著(日刊工業新聞社) 関連図書は多いので、自分に合ったものを探すと良い。				
関連科目	基礎製図 → 機械製図 → CAD 基礎 → 交通機械設計演習				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) (1) 交通機械技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	[ガイダンス] ガイダンス、および CAD 概要説明	予習	「基礎製図」、「機械製図」の内容を復習しておくこと。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(2)	[CAD の基本操作 1] 基本操作・フィーチャー作成の流れ	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(3)	[CAD の基本操作 2] 押し出しフィーチャー・モデルの表示操作	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(4)	[CAD の基本操作 3] スケッチ編集・フィーチャー編集	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(5)	[モデリング 1] 図面から 3D モデル作成方法	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(6)	[モデリング 2] フィーチャー選択の考え方	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(7)	[モデリング 3] 作成と編集に強いモデル作成方法	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(8)	[モデリング 4] 削りと追加の使い分け	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(9)	[レイアウトベースのモデリング 1] レイアウトスケッチの考え方	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(10)	[レイアウトベースのモデリング 2] レイアウトスケッチを活用したモデルの作成	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(11)	[3 次元設計 1] 3 次元設計の考え方	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(12)	[3 次元設計 2] 3 次元設計演習	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。

(13)	[アセンブリ 1] アセンブリ概要・基本操作	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(14)	[アセンブリ 2] アニメーション	予習	配付資料の対応する頁を一読の上、演習に参加すること。
		復習	学習内容の復習を行うこと。
(15)	[総まとめ]	予習	前回までの総復習を行うこと。
		復習	配布する演習問題を解くこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43160	前期	5	2
授業科目名	機械要素設計工学			学習相談	
英字科目名	Mashine Elements Desigh Engineering			4号館 1階 緒方研究室	
代表教員名		担当教員名			
緒方光		緒方光			
使用テキスト					
機械設計工学1（要素と設計）培風館					
授業の概要					
機械設計において基礎となる機械要素部品から、代表的なものを取り上げ、実際の製品設計では、どのように用いられ、設計されているかを理解して、その設計法を習得する。					
到達目標					
代表的な機械要素部品における、その利用法を理解し、特に強度・耐久・信頼性に関する理論設計計算が可能なレベルになる。また、燃料・潤滑材について、その特徴や利用法についての知識を習得する。					
履修上の注意					
1、2年次の基礎力学・材料力学の科目が履修完了していること。					
成績評価の方法・基準					
出席率、各講義毎の演習レポート提出、期末試験					
課題に対するフィードバック					
各講義毎の演習レポートの評価及び期末模擬試験の実施					
参考図書	特になし				
関連科目	機械力学・材料力学・流体力学・熱力学				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （1）交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	オリエンテーション、機械設計と要素設計について(概論)	予習	なし
		復習	演習レポート①の理解
(2)	基本設計に関する知識 (1) (標準/規格)	予習	演習レポート②の理解
		復習	演習レポート②の理解
(3)	基本設計に関する知識 (2) (材料選定)	予習	演習レポート③の理解
		復習	演習レポート③の理解
(4)	基本設計に関する知識 (3) (強度設計/生産設計)	予習	演習レポート④の理解
		復習	演習レポート④の理解
(5)	締結要素 ねじ①	予習	演習レポート⑤の理解
		復習	演習レポート⑤理解
(6)	締結要素 ねじ②	予習	演習レポート⑥の理解
		復習	演習レポート⑥の理解
(7)	締結要素 ねじ③	予習	演習レポート⑦の理解
		復習	演習レポート⑦の理解
(8)	締結要素 溶接	予習	演習レポート⑧の理解
		復習	演習レポート⑧の理解
(9)	締結要素 接着	予習	演習レポート⑨の理解
		復習	演習レポート⑨の理解
(10)	伝導要素 軸・軸継手	予習	演習レポート⑩の理解
		復習	演習レポート⑩の理解
(11)	伝導要素 軸受	予習	演習レポート⑪の理解
		復習	演習レポート⑪の理解
(12)	燃料・潤滑油	予習	演習レポート⑫の理解
		復習	演習レポート⑫の理解
(13)	伝導要素 歯車①	予習	演習レポート⑬の理解
		復習	演習レポート⑬の理解
(14)	伝導要素 歯車②	予習	演習レポート⑭の理解
		復習	演習レポート⑭の理解
(15)	要素設計と総合的技術活動との関連	予習	模擬試験の解答
		復習	模擬試験の解答

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		44210	前期	5	2
授業科目名	自動車生産方式概論			学習相談	
英字科目名	Automobile Product System Introduction			4号館1階 緒方研究室	
代表教員名		担当教員名			
緒方光		緒方光			
使用テキスト					
必要に応じ資料を配布する。					
授業の概要					
自動車の開発/生産/販売の一連の活動の流れの中で、それぞれの部門・機能がいかに有機的に関連しあっているかを理解し、自動車という製品を世界中のお客様に信頼して使い続けて頂けるとはどのようなことかを明らかにする。					
到達目標					
自動車メーカーや一般的メーカーの産業構造の理解とエンジニアとして社会で働く時の、自分の立ち位置を理解する。					
履修上の注意					
広い視野でのモノの見方に興味をもつこと。例えば、政治/経済や法律など、					
成績評価の方法・基準					
出席率、各講義毎の演習レポートの提出と期末試験					
課題に対するフィードバック					
各講義毎の演習レポートの添削と模擬試験実施					
参考図書	トヨタ生産方式に関して出版されている各種図書				
関連科目					
学位授与の方針との関連	知識・理解 （１）交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	オリエンテーション及びトヨタ式ものづくり概論	予習	なし
		復習	演習レポート（1）の精読
(2)	商品企画・製品企画（マーケティング部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（2）の精読
(3)	デザイン（開発部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（3）の精読
(4)	設計・実験・試作（開発部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（4）の精読
(5)	生産技術①【ユニット・プレス・溶接】（生産技術部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（5）の精読
(6)	生産技術②【塗装・組立・検査】（生産技術部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（6）の精読
(7)	製造（生産部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（7）の精読
(8)	品質管理・品質保証（全社機能）	予習	なし
		復習	演習レポート（8）の精読
(9)	物流（生産/販売部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（9）の精読
(10)	販売（販売部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（10）の精読
(11)	サービス（販売部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（11）の精読
(12)	用品/カスタマイズ（販売部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（12）の精読
(13)	生産管理（事務部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（13）の精読
(14)	原価企画・調達（事務部門）	予習	なし
		復習	演習レポート（14）の精読
(15)	トヨタウェイ（絶えざるカイゼンと人間性の尊重）	予習	なし
		復習	模擬試験の実施

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43780	前期	7	2
授業科目名	交通機械設計演習			学習相談	
英字科目名	Traffic Machanical Engineering Seminar			4 号館 1 階 緒方研究室	
代表教員名		担当教員名			
緒方光		緒方光			
使用テキスト					
なし					
授業の概要					
自動車部品における、詳細な強度計算を実施し、オリジナル仕様に基づく製品の改良設計を通じて、真に実践的（エンジニアの初歩）な設計力を身に付ける。					
到達目標					
オリジナル仕様を満たす製品設計図の作成					
履修上の注意					
下級年次で学んだ、図学・製図関連および、力学系授業の履修が完了していること。製図用具一式と関数電卓を用意すること。					
成績評価の方法・基準					
設計計算書と作成図面の提出。					
課題に対するフィードバック					
作成図面、計算書の添削による個別指導					
参考図書	なし				
関連科目	図学・基礎製図・CAD 基礎・機械製図・機械力学・材料力学				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （２）交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	オリエンテーション（演習全体計画と目的、注意事項の説明、作図能力の確認）	予習	なし
		復習	作図能力不足の場合の過去の学習内容の再確認
(2)	ピストンとピストンピンの設計製図①	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(3)	ピストンとピストンピン設計製図②	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(4)	ピストンとピストンピン設計製図（計算書/製図提出）	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(5)	コンロッドの設計①（大端部・小端部）	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(6)	コンロッドの設計②（大端部・小端部）	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(7)	コンロッドの設計③（大端部・小端部）（計算書/製図提出）	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(8)	製図検図・計算書審査（第1回目）	予習	なし
		復習	提出物の修正
(9)	パンタグラフ形式ジャッキの設計①	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(10)	パンタグラフ形式ジャッキの設計②（計算書提出）	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(11)	パンタグラフ形式ジャッキの設計③（アッセンブリ図作成）	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(12)	パンタグラフ形式ジャッキの設計④（アッセンブリ図提出）	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(13)	パンタグラフ形式ジャッキの設計⑤（部品図作成）	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(14)	パンタグラフ形式ジャッキの設計⑥（部品図提出）	予習	進度遅れの挽回
		復習	進度遅れの挽回
(15)	製図検図・計算書審査（第2回目）	予習	なし
		復習	提出物の修正

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43220	前期	1	2
授業科目名	電気工学 I			学習相談	
英字科目名	Electrical Engineering I			3 号館 3 階 片山研究室	
代表教員名		担当教員名			
片山 硬		片山 硬			
使用テキスト					
高橋 寛 監修、増田英二 編著、わかりやすい 電気基礎、 コロナ社					
授業の概要					
電気に関する基礎的な概念が理解できるように講義する。特に、直感的な理解とともに、数学的な議論を通じてより深く電気、電気工学を紹介する。電気・磁気の性質、電気回路を理解するための数学的な手法を示す。その際に、適宜、三角関数、指数関数、複素数、微分積分に関する復習を含める。					
到達目標					
(1) 電気抵抗、電流および電圧の関係を理解する。 (2) 発電機、モーターを通して、電磁誘導および電磁力を理解する。 (3) 電気抵抗、コイルおよびコンデンサーの性質を理解する。 (4) 交流回路の取扱いを理解する。特にインピーダンスの概念を把握する。					
履修上の注意					
授業の冒頭で、その日の修得目標を示し、終了時に約 10 問の問題（レポート）を課す。 レポートの作成に必要な内容を、ノートに記載すること。					
成績評価の方法・基準					
各講義の終了時に提出するレポートを 60%、期末の試験を 40%とする。					
課題に対するフィードバック					
講義の最終回にレポートを返却し、期末テストに備えるための方策を伝える。					
参考図書	岩本洋 著、電気基礎入門 早わかり オーム社 谷腰欣司 著、トコトンやさしい 電気の本 日刊工業新聞社 石村園子 著 大学新入生のための 数学入門 共立出版				
関連科目	電気工学 I ⇒ 電気工学 II ⇒ 電子工学 1、II ⇒				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (1) 交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	①身近にある電気 電気現象の豊富さを実感する。	予習	参考文献等で、身近にある電気現象を調べる。
		復習	予習した内容と講義で修得した内容を比較検討
(2)	②電気伝導度 電気伝導度の違いは何に起因するか	予習	原子の構造と電子配置、自由電子等を調べる。
		復習	他の文献等で知識を補完する。
(3)	③ オームの法則を 様々な応用ができるようになる。	予習	教科書 p2～p14 を予習する。
		復習	オームの法則と簡単な応用を復習する。
(4)	④合成抵抗 求め方を例題を通じて修得する。	予習	直列・並列接続の合成抵抗の求め方を調べる。
		復習	講義の最に出した例題が解けるように復習
(5)	⑤中間テスト：オームの法則の応用	予習	前週の例題を解く。
		復習	テストで間違えた問題を再度解く。
(6)	⑥電磁誘導の法則 発電機の原理を理解	予習	教科書 p76～P116 を予習する。
		復習	電磁誘導の現象を直感的に理解する。
(7)	⑦ 磁界中の電流に働く力、モーターの 原理を理解する。	予習	教科書 P113～p116 を予習する。
		復習	発電機とモーターの違いと類似点を考える
(8)	⑧ 交流回路 1 直流回路との違いを理解する。	予習	参考文献等で、交流を調べる。
		復習	講義で学習した交流の特徴を復習する。
(9)	⑨交流回路 2 必要な数学を学習する。	予習	三角比、三角関数、三角関数のグラフを調べる
		復習	三角関数のグラフを描いて再確認する。
(10)	⑩交流回路 3 抵抗が消費する電力の計算、実効値	予習	三角関数の積分、加法定理、二倍角の公式
		復習	実効値の計算を復習
(11)	⑪ コイルの性質 コイルが消費する電力の計算方法	予習	参考文献等で、コイルの消費電力を調べる
		復習	電力の計算手法を再確認する。
(12)	⑫ コンデンサの性質 コンデンサが消費する電力の計算方法	予習	参考文献等で、コンデンサーの性質を調べる
		復習	電力の計算手法を再確認する。
(13)	⑬RC 回路 抵抗とコイルを接続交流回路	予習	sin 波と cos 波の和の公式を調べる
		復習	インピーダンスの概念を再確認する

(14)	⑭RLC 回路 抵抗とコイルとコンデンサの交流回路	予習	抵抗とコイルとコンデンサーの性質を纏める
		復習	この回路のインピーダンスを再確認
(15)	⑮ 複素数 複素インピーダンス	予習	複素数、オイラーの公式等を調べる
		復習	複素数を用いた議論は簡単であることを再確認

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43230	後期	2	2
授業科目名	電気工学Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Electrical Engineering Ⅱ			江藤（徹）研究室（図書館 1 階） e-mail: teto@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
江藤 徹二郎		江藤 徹二郎（Tetsujiro ETO）			
使用テキスト					
Power Point 資料と板書にて講義するが、下記テキストも使用する： 高橋 寛 監修、増田英二 編著 「わかりやすい電気基礎」 （コロナ社）					
授業の概要					
電気工学Ⅰでは電気現象を直感的に理解したが、本講義では電気現象を記述する数学の使い方を講義する。特に、交流回路を中心に、三角関数の合成や、微分・積分の使い方、およびインピーダンスの計算法等を説明する。					
到達目標					
(1)電気現象を数式で解き、その物理的意味や動作原理を理解する。 (2)各々の理論がどのように組み合わせられて応用されているのかを理解する。 (3)電気回路の測定をした場合、計測値から各種特性値を算出できるようになる。					
履修上の注意					
毎回、講義終了時に 10 分間程度の小レポートの作成を課す。 講義には電卓を持参すること。（携帯電話の計算機は使用不可）					
成績評価の方法・基準					
毎回の小レポート（30%）、中間試験（30%）と期末試験（40%）で総合評価					
課題に対するフィードバック					
・毎回の小レポートは、当日の講義、もしくは次回の講義までにフィードバックする。 ・中間試験については、講義の中で解答例を板書する。試験内容が一定基準に未達の場合は、別途、学習サポートを行う。 ・期末試験については、希望者には解答例を提示する。江藤(徹)研究室まで来室のこと。					
参考図書	高橋 監修、増田 編著「わかりやすい電気基礎」（コロナ社）				
関連科目	電気工学Ⅰ → 電気工学Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （2）交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	抵抗とコイル 電流・電圧・抵抗の関係（オームの法則）、 直列回路と並列回路、インダクタ（コイル） の性質 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」pp.2 ～118 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、今期で予定されて いる授業の範囲を把握する。
(2)	コンデンサ 特徴・用途、合成容量、蓄積エネルギー の 理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.122～144 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問 題を解く。
(3)	交流 三角関数、弧度法、周期・周波数・角周波 数、瞬時値・最大値 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.148～157 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問 題を解く。
(4)	交流抵抗 R 回路（1） 交流 R 回路の電流・電圧、微分・積分の演 算、三角関数の加法定理 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.159～162 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問 題を解く。
(5)	交流抵抗 R 回路（2） 交流 R 回路の電力・電力量、置換積分、平 均値と実効値 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.159～162 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問 題を解く。
(6)	交流インダクタンス L 回路（1） 交流 L 回路の電流・電圧、誘導起電力・誘 導電流、位相差 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.166～169 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問 題を解く。
(7)	交流インダクタンス L 回路（2） 交流 L 回路の電力・電力量、置換積分、誘 導リアクタンス の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.166～169 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問 題を解く。
(8)	交流静電容量 C 回路（1） 交流 C 回路の電流・電圧・電力・電力量、 置換積分 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.163～165 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問 題を解く。
(9)	交流静電容量 C 回路（2）、中間試験 容量リアクタンス の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.163～165 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問 題を解く。中間試験範囲の復習。

(10)	交流 RL 直列回路 (1) インピーダンス、電圧と電流の位相関係、 電圧のベクトル図 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.170～172 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問題 を解く。中間試験の復習。
(11)	交流 RL 直列回路 (2) 電圧・電流の数学的表現、三角関数の合成、 インピーダンスと位相の解析式 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.170～172 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問題 を解く。
(12)	交流 RC 直列回路 電圧・電流の数学的表現、電圧のベクトル 図、インピーダンスと位相の解析式 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.170～172 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問題 を解く。
(13)	交流 RLC 直列回路 電圧・電流の数学的表現、電圧のベクトル 図、インピーダンスと位相の解析式 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.170～172,180～181 を読んで予習 する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問題 を解く。
(14)	交流 RLC 並列回路 電圧・電流の数学的表現、電流のベクトル 図、インピーダンスと位相の解析式 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.173～175,182～183 を読んで予習 する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問題 を解く。
(15)	複素数表示 実数・虚数・複素数、複素平面、オイラー の公式、複素数の微分・積分、複素関数表示 の利便性 の理解	予習	参考図書「わかりやすい電気基礎」 pp.184～208 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問題 を解く。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43250	前期	3	2
授業科目名	電子工学Ⅰ			学習相談	
英字科目名	Electronics EngineeringⅠ			3号館3階 渡邊研究室	
代表教員名		担当教員名			
渡邊直幸		渡邊直幸			
使用テキスト					
職業能力開発教材委員会編著、「アナログ・デジタル」（廣済堂出版） 国土交通省自動車交通局監修、自動車整備技術「基礎自動車工学」（日本自動車整備振興会連合会）＜自動車コースのみ＞					
授業の概要					
ほとんどの機械が電氣的に制御されている現在、機械技術者にとってエレクトロニクスを理解することは不可欠である。本講義では、制御回路などに用いられる各種半導体素子の基本的な原理を解説し、制御回路の動作について学習する。					
到達目標					
(1)各種半導体素子の基本的な原理を理解できる。 (2)それらを用いた電子回路について理解できる。					
履修上の注意					
既に学習している電気系科目（電気工学Ⅰ、電気工学Ⅱ）が基本となるので、予習・復習に活用すること。 本科目は、自動車コースの2級整備士養成科目であり、90%以上の出席が必要である。＜自動車コースのみ＞					
成績評価の方法・基準					
受講態度（20%）、レポート等の課題（30%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
講義中に課した課題やレポートは、最終講義までにフィードバックする。 期末試験については、試験終了後に希望者へ開示する。					
参考図書	既に学習した電気系科目の教科書				
関連科目	電気工学Ⅰ・Ⅱ → 電子工学Ⅰ → 電子工学Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （1）交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	概要 電気工学基礎	予習	過去に学習した電気系科目の教科書やノートを読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(2)	アナログ制御・デジタル制御 制御の種類やアナログとデジタルの違い	予習	教科書 pp.2-21 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。 教科書 p.22 の練習問題を解く。
(3)	ダイオード 半導体素子の代表的な素子であるダイオードについて	予習	過去に学習した電気系科目の教科書やノートで関連するところを読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(4)	トランジスタ 電子回路では最もよく使用される半導体素子であるトランジスタについて	予習	過去に学習した電気系科目の教科書やノートで関連するところを読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(5)	増幅回路 トランジスタを用いた増幅回路について	予習	教科書 pp.60-73 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(6)	比較回路 トランジスタを用いた応用回路のひとつである比較回路について	予習	教科書 pp.74-79 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。 教科書 p.80 の練習問題を解く。
(7)	まとめ① ここまで学習した電子工学基礎について、中間確認テストを行い解説する。	予習	ここまでの講義を再度確認しておく。
		復習	中間確認テストを再度解いてみる。
(8)	特殊半導体素子 主にセンサに使用される特殊半導体素子について	予習	教科書 pp.42-50 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(9)	センサ素子 実用的なセンサ素子について	予習	教科書 pp.50-57 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。 教科書 p.58 の練習問題を解く。
(10)	センサ応用回路 センサ素子を用いて自動制御等を行うセンサ応用回路について	予習	講義(8)および講義(9)の内容を再度確認しておく。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(11)	論理回路-1 デジタル回路の基礎となる論理回路の考え方について	予習	教科書 pp.24-39 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。 教科書 p.40 の練習問題を解く。

(12)	論理回路-2 論理回路を構成する基本的な論理素子について	予習	教科書 pp.134-141 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(13)	論理回路-3 論理素子を組み合わせて構成されるデジタル回路について	予習	教科書 pp.142-150 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。 教科書 p.151 の練習問題を解く。
(14)	デジタルコード デジタル制御、論理回路に用いられる信号について	予習	教科書 pp.154-166 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。 教科書 p.167 の練習問題を解く。
(15)	まとめ② 本講義学習した内容について、確認テストを行い解説する。	予習	本講義の内容を再度確認しておく。
		復習	確認テストを再度解いてみる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43610	後期	4	2
授業科目名	電子工学Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Electronics Engineering Ⅱ			3号館3階 渡邊研究室	
代表教員名		担当教員名			
渡邊直幸		渡邊直幸			
使用テキスト					
職業能力開発教材委員会編著、「アナログ・デジタル」（廣済堂出版）					
授業の概要					
電子工学Ⅰで学習したことを基本として、さらに詳しい各種素子の原理や動作について学ぶ。また、それらを用いた実用回路、応用回路について学習する。さらに、デジタル回路についての理論および応用を学習する。					
到達目標					
(1)各種電子部品の原理や使用法について理解できる。 (2)それらを用いた回路の動作を説明できる。					
履修上の注意					
既に学習している電気系科目（電気工学Ⅰ、電気工学Ⅱ）が基本となるので、予習・復習に活用すること。 本科目は、自動車コースの2級整備士養成科目であり、90%以上の出席が必要である。＜自動車コースのみ＞					
成績評価の方法・基準					
受講態度（20%）、レポート等の課題（30%）、期末試験（50%）で総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
講義中に課した課題やレポートは、最終講義までにフィードバックする。 期末試験については、試験終了後に希望者へ開示する。					
参考図書	既に学習した電気系科目の教科書				
関連科目	電気工学Ⅰ・Ⅱ → 電子工学Ⅰ → 電子工学Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （1）交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	概要 電子工学基礎	予習	電子工学Ⅰの講義ノートを読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(2)	サイリスタ制御回路-1 サイリスタの種類、SCR について	予習	教科書 pp82-83 を読み、ノートにまとめる。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(3)	サイリスタ制御回路-2 トライアック	予習	教科書 pp84-94 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(4)	サイリスタ制御回路-3 サイリスタを用いた制御回路について	予習	教科書 pp94-101 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。教科書 p.102 の練習問題を解く。
(5)	オペアンプ増幅回路-1 オペアンプとは	予習	教科書 pp.1014-106 を読み、ノートにまとめる。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(6)	オペアンプ増幅回路-2 オペアンプの基本動作について	予習	教科書 pp.107-122 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(7)	オペアンプ増幅回路-3 オペアンプの負帰還回路について	予習	教科書 pp.122-130 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。教科書 p.131 の練習問題を解く。
(8)	直流制御と交流制御	予習	これまでに学習した制御に関する項目について読んでおく。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(9)	論理回路-1 基本的な論理素子について	予習	教科書 pp.134-143 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(10)	論理回路-2 組合せ論理回路と論理回路変換について	予習	教科書 pp.143-150 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。教科書 p.151 の練習問題を解く。
(11)	論理回路-3 フリップフロップ素子について	予習	教科書 pp196-216 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(12)	論理回路の応用回路-1 マルチバイブレータとタイマについて	予習	教科書 pp.217-222 を読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。教科書 p.223-224 の練習問題を解く。
(13)	論理回路の応用回路-2 カウンタについて	予習	教科書 pp.226-228 を読み、ノートにまとめる。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。教科書 p.258-259 の練習問題を解く。

(14)	論理回路のまとめ 主な実用的なデジタル回路について	予習	講義(9)～講義(13)までの講義ノートを読む。
		復習	講義の内容を読み返し、復習を行う。
(15)	まとめ 本講義学習した内容について、確認テストを行い解説する。	予習	本講義の内容を再度確認しておく。
		復習	確認テストを再度解いてみる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43030	前期	1	2
授業科目名	コンピュータリテラシー			学習相談	
英字科目名	Computer Literacy			学術情報センター 情報館・佐塚研究室 (6 号館 4 階) e-mail: sazuka@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
山田 貴裕 (Takahiro YAMADA)		山田 貴裕 (Takahiro YAMADA)			
使用テキスト					
実教出版編集部 編 「30 時間でマスター Office2016 (Windows10 対応)」(実教出版) ISBN: 978-4-407-34018-1					
授業の概要					
コンピュータはいま、社会の中で様々な用途に広く使われており、現代社会に生きる私たちにとって、コンピュータを道具として使いこなすことは必須の素養である。本科目では、コンピュータの基本的な使い方と本学の情報環境の利用法について学び、以後の学生生活ひいてはその後の社会生活においてコンピュータを活用できる能力を養う。					
到達目標					
(1)基本的な PC システム、インターネットサービスを理解し、利用できるようになる。 (2)文章作成、表計算を学び、各ソフトを活用できるようになる。 (3)学内・一般社会における情報リテラシーの基本知識を学び、活用技術を身に付ける。					
履修上の注意					
本講義は安全かつ便利にコンピュータやインターネットを活用するため基礎知識、またルールを学ぶことが目的である。講義時間内で講義目的以外の PC 使用、講義中のスマートフォン等の不必要な操作は厳禁とする。					
成績評価の方法・基準					
小テスト (20%) と提出課題内容による理解度 (80%) で総合評価					
課題に対するフィードバック					
e ラーニング (Moodle) の講義サイトを利用する。					
参考図書	奥村晴彦著 「改訂第 2 版 基礎からわかる情報リテラシー」(技術評論社) 久野 靖 (監修) 他「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2017」(日経 BP)				
関連科目	※学科による				
学位授与の方針との関連	※学科による				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	情報館利用ガイダンス 学術情報センター利用説明、コンピュータ利用アカウント等についての説明を行う。	予習	情報分野に関する予習をする。
		復習	教室の利用方法について復習する
(2)	コンピュータ活用基礎 Windowsの基本操作、電子メール、eラーニングシステム（Moodle）	予習	Windows 操作とコンピュータ利用について予習する。
		復習	電子メールの操作を復習し、個人用機器の設定を行う。
(3)	インターネット活用 電子メールの応用（メーリングリストの活用、スマートフォンでの利用）、インターネットによる情報検索	予習	インターネット利用について予習する。
		復習	メーリングリスト活用についての復習、スマートフォンによる利用設定を行う。
(4)	データの格納方法 文書の作成基礎、コンピュータのファイルシステム、クラウドストレージの利活用	予習	タッチタイピング技術についての予習をする。
		復習	階層ファイルシステムについて復習する。
(5)	日本語ワードプロセッサによる文書作成1 日本語文書の入力、基本文書編集についての演習	予習	ワードプロセッサの利用についての予習をする。
		復習	日本語文書入力の練習をする。
(6)	日本語ワードプロセッサによる文書作成2 ビジネス文書の基本体裁、文書編集の基本、表の入力	予習	ビジネス文書の体裁について予習する。
		復習	ビジネス文書の書式設定について復習する。
(7)	日本語ワードプロセッサによる文書作成3 画像の挿入、図形描画、数式編集機能の活用	予習	コンピュータで扱う画像や図形について予習する。
		復習	数式や図形を含む文書の作成について復習する。
(8)	文書作成総合演習 中間レポート作成課題	予習	レポートの作成について予習する。
		復習	レポートを完成させ、提出をする。
(9)	表計算1 表計算アプリケーションの基礎、データ・数式の入力	予習	表計算アプリケーションについて予習する。
		復習	データの集計の基本機能について復習する。
(10)	表計算2 書式・罫線の設定と関数の活用によるデータ集計	予習	表計算の機能について予習する。
		復習	関数を利用した集計について復習する。

(11)	表計算 3 計算式のコピー、相対番地・絶対番地表現の活用、条件式の入力と入れ子処理	予習	条件関数 (IF 関数) について予習する。
		復習	比率の計算・順位の計算方法について復習する。
(12)	表計算 4 グラフの作成	予習	グラフの扱いについて予習する。
		復習	さまざまなグラフの形式について復習する。
(13)	表計算 5 並べ替え、検索・抽出機能の活用とワードプロセッサ連携	予習	並べ替え・検索・抽出について予習する。
		復習	レポート作成の方法について復習する。
(14)	総合演習 1 インターネット、文書作成、表計算を連携した総合演習課題、レポートの作成	予習	レポート課題の確認と準備を行う。
		復習	レポートの作成をすすめる。
(15)	総合演習 2 (まとめ) 総合演習課題のレポート作成と提出、講義のまとめ	予習	レポートの作成をすすめる。
		復習	講義全体をふりかえる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43040	後期	2	2
授業科目名	情報処理概論			学習相談	
英字科目名	Computer Science			3号館3階田中研究室	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		田中 基大			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
「コンピュータリテラシー」（1年前期・必修）で習得した内容の基礎の上に、工学部学生の必須事項であるグラフ作成、表計算、プログラミング技術の基礎を習得する。					
到達目標					
(1)簡単な計算プログラムを作れるようになる。 (2)グラフ作成や表計算ができる。					
履修上の注意					
大学の「情報センター」は、原則として授業で使われていない教室は自習に利用できる。また、自分で適切なPCを購入し、日頃から使い慣れておくことが望ましい。					
成績評価の方法・基準					
課題（30%）、試験（70%）で総合評価する。 30分以上遅刻は欠席扱い。 講義中の態度が悪い場合は減点をする。					
課題に対するフィードバック					
課題提出はMoodleを利用する。 期末試験については、試験終了後、田中研究室で解答例を掲示する。					
参考図書	講義内で紹介する。				
関連科目	コンピュータリテラシー → 情報処理概論 → プログラミング基礎				
学位授与の方針との関連	技能・表現 （7）言語力、コミュニケーション力およびプレゼンテーション力等の技能を身につけ、社会の多様な人々と協働することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	表計算－表の作成	予習	Windows OS の使い方を確認する。
		復習	表計算のやり方を再確認する。
(2)	表計算－グラフ	予習	表計算のやり方を復習する。
		復習	グラフの作り方を再確認する。
(3)	C 言語概要 1：プログラムができるとどのようなことができるかについて学ぶ。	予習	プログラミングについて予習する。
		復習	プログラムによってどのようなことができるか再確認する。
(4)	C 言語概要 2：C ファイルの作り方、コンパイル方法、動作確認について学ぶ。	予習	プログラミングについて予習する。
		復習	C ファイルの作り方、コンパイルの方法を再確認する。
(5)	printf 関数の使い方:画面上に文字等を入力する命令について学ぶ。	予習	C ファイルの作り方、コンパイルの方法を確認する。
		復習	printf 関数を再確認する。
(6)	変数、変数を用いた計算について	予習	printf 関数を使うので使い方を再確認する。
		復習	変数の型、計算方法等を復習する。
(7)	scanf関数の使い方:プログラム実行中に変数の値を入力する命令について学ぶ。	予習	変数、printf 関数の使い方を再確認する。
		復習	様々な変数を scanf 関数を使って読み込み、読み込んだ変数を printf 関数で出力する。
(8)	条件分岐について：if 文を学ぶ	予習	scanf 関数、変数、printf 関数の使い方を確認する。
		復習	条件分岐について再確認する。
(9)	フローチャートについて	予習	条件分岐がどのように実行されているか確認しておく。
		復習	フローチャートの記述方法を再確認すること。
(10)	プログラム作成演習 1:これまで講義で行った内容を利用したプログラムを作成する。	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	プログラムの作り方を再確認する。
(11)	プログラム作成演習 2:これまで講義で行った内容を利用したプログラムを作成する。	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	プログラムの作り方を再確認する。
(12)	文字コードについて	予習	文字型変数の printf 関数、scanf 関数の使い方を確認する。
		復習	プログラムの作り方を再確認する。

(13)	sin、 $\sqrt{\quad}$ 、2乗等の計算用関数について	予習	実数型変数の printf 関数、scanf 関数の使い方を確認する。
		復習	プログラムの作り方を再確認する。
(14)	プログラム作成演習 3:これまで講義で行った内容を利用したプログラムを作成する。	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	プログラムの作り方を再確認する。
(15)	総復習：講義のまとめ	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	これまでの内容を再確認する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43480	前期	3	2
授業科目名	プログラミング基礎			学習相談	
英字科目名	Primary programming			3 号館 3 階田中研究室	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		田中 基大			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
情報処理概論で学んだ C 言語の基礎を発展させた内容を学ぶ。 応用問題として、工学問題のプログラムの作成を行う。					
到達目標					
(1) プログラミングの基本的命令の使い方およびその流れを理解できる。 (2) C 言語を学ぶことで、それ以外の言語習得も容易になることができる。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求めることがある。作成した C 言語プログラムを復習する際にデータを別途保存できる USB フラッシュメモリやクラウド上のドライブに保存できるようにすること。					
成績評価の方法・基準					
課題（30％）、試験（70％）で総合評価する。 30 分以上遅刻は欠席扱い。 講義中の態度が悪い場合は減点をする。					
課題に対するフィードバック					
課題提出は Moodle を利用する。 期末試験については、試験終了後、田中研究室で解答例を掲示する。					
参考図書	講義内で紹介する。				
関連科目	コンピュータリテラシー → 情報処理概論 → プログラミング基礎				
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （5）ものづくりに関心を持ち、グローバルな視点で他社と協働し、社会における産業の発展に貢献・奉仕することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に 2 時間程度、復習に 2 時間程度確保してください。	
(1)	C 言語の復習 1	予習	C ファイルの作り方、コンパイル方法、動作確認について確認しておく。
		復習	宿題を行うこと。
(2)	C 言語の復習 2	予習	C 言語の基本的な部分の予習
		復習	宿題を行うこと。
(3)	C 言語の復習 3	予習	C 言語の基本的な部分の予習
		復習	宿題を行うこと。
(4)	for 文の使い方	予習	for 文について調べておく。
		復習	宿題を行うこと。
(5)	while 文について	予習	while 文について調べておく。
		復習	宿題を行うこと。
(6)	1 次元配列の利用方法	予習	1 次元配列について調べておく。
		復習	宿題を行うこと。
(7)	2 次元配列の利用方法	予習	2 次元配列について調べておく。
		復習	宿題を行うこと。
(8)	関数の概念(自作関数の作り方)	予習	関数について調べておく。
		復習	宿題を行うこと。
(9)	ファイルの保存	予習	ファイルの保存方法について調べておく。
		復習	宿題を行うこと。
(10)	ファイルの読み込み	予習	ファイルの読み込み方法について調べておく。
		復習	宿題を行うこと。
(11)	工学問題のプログラム作成 1	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	宿題を行うこと。
(12)	工学問題のプログラム作成 2	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	宿題を行うこと。
(13)	工学問題のプログラム作成 3	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	宿題を行うこと。
(14)	工学問題のプログラム作成 4	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	宿題を行うこと。
(15)	総復習：講義のまとめ	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	これまでの内容を再確認する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43200	前期	5	2
授業科目名	制御工学Ⅰ			学習相談	
英字科目名	Control EngineeringⅠ			3号館3階 森研究室	
代表教員名		担当教員名			
森 和典		森 和典 (Kazunori MORI)			
使用テキスト					
添田 喬・中溝高好著「自動制御の講義と演習」(日新出版)					
授業の概要					
エレクトロニクス分野の目ざましい発展に伴い、制御工学の応用はあらゆる産業に取り入れられ、その知識は機械系技術者にとって重要なものとなっている。制御工学Ⅰ・Ⅱでは、主に制御システムの解析・設計に必要な基礎理論を学ぶ。本科目では、まずその手法としてのラプラス変換を学び、利用できるようにする。次に自動制御の基本であるフィードバック制御の考え方と性質を学ぶことにより交通機械工学に関する基礎的な専門知識を身につける。					
到達目標					
(1) 制御に関する基本的な考え方や自動制御を導入する目的などが理解できる。 (2) ラプラス変換の基礎知識理解し、時間関数をラプラス変換することができる。 (3) ラプラス変換を用いて微分方程式を解くことができる。					
履修上の注意					
授業では数学的手法を多用するので、解析学、応用数学を履修しておくこと。少なくとも高校程度の微積分学および複素数は理解しておくこと。学んだ項目の前後の関連性と、講義内容全体における位置づけを常に念頭において受講し、また自習すること。					
成績評価の方法・基準					
期末試験(80%)、演習課題(20%)で総合評価する。					
課題に対するフィードバック					
授業では、計算演習に関するレポート課題の提出を求める。提出されたレポートは採点後に講義にて返却する。その際に解答例を示す。					
参考図書	参考図書はなし。必要に応じて、プリントを配布する。				
関連科目	制御工学Ⅰ → 制御工学Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	制 御 の 基 礎 概 念 制御の概念とその目的、自動制御、手動制御について理解する。	予習	教科書 pp.1～3 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(2)	制 御 の 基 本 構 成 要素, 入力と出力、フィードバック系、サーボ機構を理解する。	予習	教科書 pp.3～9 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(3)	ラ プ ラ ス 変 換 ラプラス変換の必要性と定義、基本関数のラプラス変換を理解する。	予習	教科書 pp.10～15 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。特に、基本関数のラプラス変換の計算に慣れる。(120)
(4)	ラ プ ラ ス 変 換 の 性 質 ① 微分・積分のラプラス変換、推移定理、重畳定理を理解する。	予習	教科書 pp.15～17 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。ラプラス変換の公式の使い方に慣れる。(120)
(5)	ラ プ ラ ス 変 換 の 性 質 ② 初期値定理、最終値定理、ラプラス逆変換を理解する。	予習	教科書等 pp.17～20 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。ラプラス変換、ラプラス逆変換の計算ができるようにする。(120)
(6)	微 分 方 程 式 の 解 法 ラプラス変換を用いた微分方程式の解法を理解し、使えるようにする。	予習	教科書 pp.20～22 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。ラプラス変換を用いて簡単な微分方程式が解けるようにする。(120)
(7)	ラ プ ラ ス 変 換 の 演 習 計算演習を通じて、ラプラス変換と微分方程式の解法に関する理解を深める。	予習	教科書と授業ノートにより、ラプラス変換の計算方法を復習しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。教科書の演習問題 pp.23～28 を解く練習をする。(120)

(8)	伝達関数の定義、伝達関数による表現方法、過渡応答を理解する。	予習	教科書 pp.29～33 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(9)	伝達関数の例 1次遅れ、高次遅れ、むだ時間、2次振動系を理解する。	予習	教科書 pp.33～42 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(10)	伝達関数の演習 伝達関数の導出方法やステップ応答など過渡応答計算などについて計算演習を行い理解を深める。	予習	教科書と授業ノートにより、伝達関数の使い方を復習しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。教科書の演習問題 pp.49～59 を解く練習をする。(120)
(11)	ブロック線図 サーボ系の伝達関数とブロック線図、ブロックの結合方式を理解する。	予習	教科書 pp.42～46 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(12)	ブロック線図の等価変換 等価変換の実用的な求め方、複数入力の場合の求め方を理解する。	予習	教科書 pp.46～48 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(13)	ブロック線図の演習 ブロック線図の求め方や公式の使い方について計算演習を行い理解を深める。	予習	教科書と授業ノートにより、ブロック線図の求め方や公式の使い方について復習をしておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。教科書の演習問題 pp.49～59 を解く練習をする。(120)
(14)	周波数応答 正弦波入力に対する応答、ゲインと位相を理解する。	予習	教科書 pp.60～63 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(15)	周波数応答の演習 複素数とその計算方法、ゲインと位相の計算方法を理解する。	予習	複素数の計算と前回授業での例題の解法を十分に復習しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。周波数応答のゲイン、位相の計算ができるようにする。(120)

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43620	後期	6	2
授業科目名	制御工学Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Control Engineering Ⅱ			3号館3階 森研究室	
代表教員名		担当教員名			
森 和典		森 和典 (Kazunori MORI)			
使用テキスト					
添田 喬・中溝高好著「自動制御の講義と演習」(日新出版)					
授業の概要					
制御系の安定性や応答性の取り扱い方と、与えられた仕様を満たす制御系を設計する手法を学習して、基礎的な制御系設計計算と解析ができるようにする。総合演習では、各自が結果を報告・発表して討論を行う。さらに、具体的な制御システムの例を取り上げて、制御工学が実際にどのように適用されているかを学び、理論と実際について理解を深める。					
到達目標					
(1)制御系の安定性や応答性に関する基本的な考え方を理解し、関連する基礎的な計算ができる。 (2)簡単な制御系について、与えられた仕様を満たすような制御設計の手法を理解できる。					
履修上の注意					
制御工学Ⅰを受講していること。学んだ項目の前後の関連性と、講義内容全体における位置づけを常に念頭において受講し、また自習すること。授業では数学的手法を多用するので、解析学、応用数学を履修しておくこと。少なくとも高校程度の微積分学および複素数は理解しておくこと。					
成績評価の方法・基準					
期末試験(80%)、演習課題(20%)で総合評価する。					
課題に対するフィードバック					
授業の中で、制御工学Ⅰ・Ⅱの計算解析に関する内容の総合演習を行い、結果を各自が発表する。さらに発表内容について討論する。					
参考図書	参考図書はなし。必要に応じて、プリントを配布する。				
関連科目	制御工学Ⅰ → 制御工学Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2)交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	周 波 数 応 答 線 図 ① 周波数応答関数、デシベル値、ボード線図を理解する。	予習	教科書 pp.63～75 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(2)	周 波 数 応 答 線 図 ② ベクトル軌跡、逆ベクトル軌跡、ゲイン位相線図を理解する。	予習	教科書 pp.75～81 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(3)	閉 ル ー プ 系 の 周 波 数 応 答 開ループ系と閉ループ系の関係、ニコルス線図を理解する。	予習	教科書 pp.81～90 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(4)	周 波 数 応 答 の 演 習 周波数応答の計算と線図の作図を行い理解を深める。 (電卓、定規を持参のこと。片対数グラフ用紙等は配布する。)	予習	制御工学 I を含めて「周波数応答」の章を教科書と授業ノートを用いて復習しておく。(120)
		復習	演習内容を十分に復習する。教科書 pp.91～99 の演習問題を解く練習をする。(120)
(5)	制 御 系 の 安 定 安定の概念と定義、安定条件、閉ループ系の特性方程式、伝達関数の極と零点、極配置を理解する。	予習	教科書等 pp.100～106 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(6)	安 定 判 別 法 ラウスの方法、フルビッツの方法、ナイキストの方法を理解する。	予習	教科書 pp.106～113 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。安定判別法を用いて制御系の安定判別ができるようにする。(120)
(7)	安 定 余 有 ゲイン余有、位相余有を理解する。	予習	教科書 pp.113～117 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(8)	制 御 系 の 安 定 性 の 演 習 制御系の安定判別、安定余有度に関する演習を通じて理解を深める。	予習	教科書 pp.29～33 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	演習内容を十分に復習する。教科書 pp.118～126 の演習問題を解く練習をする。(120)

(9)	制 御 の 良 さ ① 過渡特性の評価方法、2次標準形の過渡特性、伝達関数の極と過渡応答を理解する。	予習	教科書 pp.127～137 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(10)	制 御 の 良 さ ② 周波数応答の評価方法、定常特性の評価方法を理解する。	予習	教科書 pp.137～146 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(11)	制 御 系 設 計 の 基 礎 応答特性の改善、補償の概念、位相進み回路・位相遅れ回路の特性、補償回路の選択と効果を理解する。	予習	教科書 pp.157～168 を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(12)	設 計 計 算 演 習 ① 制御系の設計について学習する。制御系設計ソフト MATLAB の基本操作について学ぶ。	予習	教科書、授業ノートを全般、特に計算解析部分の項目を復習しておく。(80)
		復習	演習内容を十分に復習する。MATLAB の簡単な操作方法に慣れる。(160)
(13)	設 計 計 算 演 習 ② MATLAB を用いて演習を行う。総合演習課題に取り組む。	予習	与えられた総合演習の課題に事前に取り組む。課題の解法や発表内容案を考える。(120)
		復習	総合演習課題の結果をまとめる。次回授業のための発表準備をする。(160)
(14)	総 合 演 習 課題結果の発表や討論を通じて制御工学への理解を深める。	予習	課題の結果発表のための準備をする。(120)
		復習	総合演習の内容を十分に復習する。(80)
(15)	制 御 工 学 の 応 用 例 交通機械工学分野における制御技術の実際、最近のトピックスについて講義する。	予習	最近の自動車関連の制御技術に関して、文献等を調査して授業に臨む。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43180	前期	5	2
授業科目名	自動車工学Ⅰ			学習相談	
英字科目名	Automotive EngineeringⅠ			3号館3階 森研究室	
代表教員名		担当教員名			
森 和典		森 和典 (Kazunori MORI)			
使用テキスト					
国土交通省自動車交通局監修（自動車整備振興会連合会） 自動車整備技術「基礎自動車工学」、「2級シャシ」					
授業の概要					
自動車の歴史、自動車の動力源の種類や特徴、次世代自動車の概要を始めとして、「走る・曲がる・止まる」という自動車の主要な機能を受け持つシャシ技術を中心に、各種装置の原理と構造および自動車の基本構成について学習する。これにより、機械システムとしての自動車に関する基礎的な専門知識と設計能力を身につけて、新しい工業製品を創造するための専門応用能力を養う。					
到達目標					
(1) 自動車の基本構成を理解して、その内容が説明できる。 (2) 主要な装置の原理と機構を力学的に説明できる。 (3)装置に関わる簡単な性能計算ができる。					
履修上の注意					
応用力学、機械力学、材料力学の基礎は確実に理解しながら授業に臨むこと。 自動車工学実習で学んだ内容を復習しながら履修すれば、より効果が上がる。 本科目は2級自動車整備士養成科目のため90%以上の出席が必要。					
成績評価の方法・基準					
期末試験（80%）、レポート課題（20%）で総合評価する。					
課題に対するフィードバック					
授業では、文献調査および計算演習等に関するレポート課題の提出を求める。提出されたレポートは採点後に返却する。特に、計算演習の課題はレポート返却時に解答例を配布する。					
参考図書	野崎博路著「基礎自動車工学」（東京電機大学出版局） 尾崎紀男著「自動車工学」（森北出版） 藤岡健彦・鎌田実編「自動車プロジェクト開発工学」（技報堂出版）				
関連科目	自動車工学Ⅰ → 自動車工学Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （2）交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	自動車一般 自動車の歴史、基本構造、自動車の分類、車両諸元の内容を理解する。	予習	教科書・参考文献を中心に文献を調査して、自動車とその社会的役割について考えた後に授業に臨むこと。(120)
		復習	授業の内容を踏まえて、自動車の歴史や次世代自動車などに関する自分自身の考えを深めること。(120)
(2)	タイヤとロードホイール ① タイヤの種類と構造、主要な特性とその計算法を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(3)	タイヤとロードホイール ② タイヤサイズと呼称、ロードホイールの種類と構造を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。特に、タイヤ力学の簡単な計算ができるようにする。(120)
(4)	動力伝達装置 ① クラッチの役割、ダイヤフラム式クラッチの構成を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(5)	動力伝達装置 ② 変速機の必要性、変速比の計算法、手動変速機の種類と構造を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。変速比に関連する各種計算ができるようにする。(120)
(6)	動力伝達装置 ③ 流体式自動変速機の構造とその特性を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(7)	動力伝達装置 ④ トルクコンバータの構成と特性計算法、無段変速機 (CVT) の原理と構成等を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(8)	動力伝達装置 ⑤ 差動装置の役割と構造、差動制限装置、プロペラシャフト、危険回転速度、自在継手、等速継手、アックスルの構造等を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。動力伝達装置に関するレポート課題に取り組む。(200)
(9)	ステアリング装置 ① アッカーマン・ジャントー機構と理論、ステアリングギヤ比、ステアリングの種類と構造を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)

(10)	ステアリング装置 ② パワーステアリングの種類と構造、ホイールアライメントの種類と役割を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(11)	サスペンション装置 ① サスペンションの種類と構造、車軸懸架式・独立懸架式の各種類と構造および特徴を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(12)	サスペンション装置 ② ばねとショックアブソーバの種類と構造および特性計算方法を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。ステアリング、サスペンション装置に関するレポート課題に取り組む。(240)
(13)	ブレーキ装置 ① ブレーキの種類と構造、ブレーキシステムの概要を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(14)	ブレーキ装置 ② ブレーキの性能と特性計算方法、制動力配分調整装置の種類と構造を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(15)	ブレーキ装置 ③ ABS の原理と特徴およびシステム構成、フェード、ベーパーロックの発生原因、対策方法等を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。ブレーキ装置に関するレポート課題に取り組む。(200)

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43190	後期	6	2
授業科目名	自動車工学Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Automotive Engineering II			3号館3階 森研究室	
代表教員名		担当教員名			
森 和典		森 和典 (Kazunori MORI)			
使用テキスト					
野崎博路著「基礎自動車工学」(東京電機大学出版局) 国土交通省自動車交通局監修(自動車整備振興会連合会)自動車整備技術「基礎自動車工学」、「2級シヤシ」					
授業の概要					
自動車の力学と性能に関する基本的な原理と理論を学ぶ。次に、自動車の安全性や環境問題について、その現状と対策動向を学び考察することで、自動車の諸問題に関する理解を深める。ここでは、自動車工学の理論と実際の結び付きを理解しながら、機械システムとしての自動車に関する基礎的な専門知識と設計能力を身につけて、新しい工業製品を創造するための専門応用能力を養う。4年次の卒業研究や交通機械設計演習などにも役立てるようにする。					
到達目標					
(1) 自動車の力学と性能に関する基礎的な理論計算ができる。 (2) 自動車の性能、安全性および環境問題について基本的な内容を説明できる。 (3) 自動車の性能設計に対する基本的な考え方が理解できる。					
履修上の注意					
応用力学、機械力学、材料力学の基礎は確実に理解しながら授業に臨むこと。 本科目は2級自動車整備士養成科目のため90%以上の出席が必要。					
成績評価の方法・基準					
期末試験(80%)、レポート課題(20%)で総合評価する。					
課題に対するフィードバック					
授業では、文献調査および計算演習等に関するレポート課題の提出を求める。提出されたレポートは採点後に返却する。特に、計算演習の課題はレポート返却時に解答例を配布する。					
参考図書	竹原伸著「はじめての自動車運動学」(森北出版) 尾崎紀男著「自動車工学」(森北出版) 藤岡健彦・鎌田実編「自動車プロジェクト開発工学」(技報堂出版)				
関連科目	自動車工学Ⅰ → 自動車工学Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	自動車 の 性 能 一 般 走行性能、快適性、安全性、環境問題などの内容を理解する。	予習	教科書・参考文献を中心に文献を調査して、自動車の性能、安全性などについて考えた後に授業に臨むこと。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(2)	動 力 性 能 ① 走行抵抗の種類とその計算方法を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。特に、走行抵抗の計算ができるようにする。(120)
(3)	動 力 性 能 ② エンジン所要出力、車両の走行速度、駆動力の計算方法を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。動力性能に関する簡単な計算ができるようにする。(120)
(4)	動 力 性 能 ③ 走行性能線図の作成と読み方、走行抵抗の実測法（惰行性能）を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。動力性能に関するレポート課題に取り組む。(200)
(5)	制 動 性 能 ① タイヤスリップ率、タイヤの $\mu-s$ 特性、タイヤ摩擦円を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(6)	制 動 性 能 ② 制動力学および停止距離・空走距離・制動距離の関係を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。制動力学の簡単な計算ができるようにする。(120)
(7)	旋 回 性 能 ① タイヤの力学およびタイヤスリップ角、CF、CP、SATを理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(8)	旋 回 性 能 ② 車両のステア特性、操安性2輪モデルによる解析計算方法を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(9)	旋 回 性 能 ③ ロール運動、ロールセンタ、ロール軸、ロール剛性を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)

(10)	旋 回 性 能 ④ サスペンション・ステアリング特性と旋回性能の関係を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(11)	旋 回 性 能 ⑤ ロールステア、コンプライアンスステアを理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(80)
		復習	授業内容を十分に復習する。制動性能、旋回性能に関するレポート課題に取り組む。(240)
(12)	乗 心 地 , 振 動 快適性、ばね上・ばね下固有振動数、シミー、シェイクを理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(13)	自 動 車 の 安 全 性 ・ 環 境 問 題 ① 予防安全、衝突安全、排気ガスによる大気汚染、交通渋滞、騒音問題などを理解する。	予習	教科書・参考書等を通読し、授業内容を把握しておく。あらかじめ疑問点を整理しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(14)	自 動 車 の 安 全 性 ・ 環 境 問 題 ② ASV、ITS、新エネルギー自動車、燃料電池車、電気自動車等を理解する。	予習	教科書等を通読し、授業内容を把握しておく。また、自動車工学Ⅰの内容も併せて復習しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)
(15)	自 動 車 の 計 算 演 習 計算演習を通して、自動車の動力性能、制動性能および旋回性能等に関する理解を深める。	予習	これまで学習した自動車の性能に関する計算問題の解法等を復習しておく。(120)
		復習	授業内容を十分に復習する。(120)

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43960	後期	4	2
授業科目名	バイク・ダイナミックス			学習相談	
英字科目名	Motorcycle Dynamics			3号館3階 片山研究室	
代表教員名		担当教員名			
片山硬		片山硬			
使用テキスト					
自作のテキストを配布する。					
授業の概要					
モーターサイクル（バイク）に代表される二輪車は楽しい乗り物であるが、不安定である。特に直進状態では、転倒につながる不安定なモードがあり、この40年来、二輪車の業界では不安定モードの解明を行ってきた。この講義ではこれまでの二輪車の運動解析を紹介すると共に、最近明らかになりつつある不安定モードが発生する原因を紹介する。					
到達目標					
(1) 二輪車の直進時に発生する3つの不安定モードを理解する。 (2) 不安定モードと設計パラメーターの関係を把握する。 (3) 二輪車が抱える二つの重大な問題の存在を理解する。 (4) 不安定モードの発生原因を理解する。 (5) 二つのモードの発生原因と重大問題との関係を理解する。					
履修上の注意					
授業の冒頭で、その日の修得目標を示し、終了時に約10問の問題（レポート）を課す。 レポートの作成に必要な内容を、ノートに記載すること。					
成績評価の方法・基準					
各講義の終了時に提出するレポートを60%、期末の試験を40%とする。					
課題に対するフィードバック					
講義の最終回にレポートを返却し、期末テストに備えるための方策を伝える。					
参考図書	適宜自作の資料を配布する				
関連科目	バイクダイナミックス ⇒ 自動車工学				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	① 二輪車の歴史 自転車からバイクの歴史を紹介	予習	自転車を良く観察し乗ってみる
		復習	二輪車の歴史を再確認する
(2)	② 二輪車の特徴 二輪車が四輪車と異なる特徴を理解	予習	配布した資料を予習する
		復習	二輪車の楽しさと危険性を認識する。
(3)	③ 二輪車が抱える問題 解決すべき二つの問題の存在を理解	予習	配布資料の該当する部分を予習する
		復習	二輪車には問題があることを資料で確認する
(4)	④ 運動解析用理論 操縦性安定性の解析用理論モデル	予習	配布資料を予習
		復習	配布資料により、解析モデルを再確認する
(5)	⑤ タイヤ特性について 運動解析モデルに必要なタイヤの特性	予習	タイヤの特性を予習する
		復習	タイヤのコーナリング特性を覚える
(6)	⑥ 運動方程式の導出 1 ラグランジの方法を理解する	予習	解析力学の該当する部分を予習
		復習	ラグランジの方法で振動の式を導き出す
(7)	⑦ 運動方程式の導出 2 剛体の運動エネルギーを理解する	予習	剛体の回転運動を予習
		復習	オイラー角による運動エネルギーの表し方
(8)	⑧ 運動方程式の導出 3 4自由度方程式の導出を理解する	予習	ラグランジ方程式を勉強
		復習	4自由度モデルの導出結果に馴染む
(9)	⑨ 固有値解析の準備 減衰振動の解析と解の意味すること	予習	減衰振動の解析方法を予習する
		復習	解が意味する内容を覚える。
(10)	⑩ 固有値解析 : 固有値の意味 根軌跡と3つの不安定モードの理解	予習	配布資料により、固有値解析を調べる
		復習	固有値の値が意味する内容を復習する
(11)	⑪ 感度解析 設計諸元と安定性の関係を理解する	予習	配布資料により、設計諸元と安定性を予習
		復習	設計諸元による安定性変化を確認
(12)	⑫ウィーブモードとウォブルモード 両立性の困難さを理解する	予習	配布資料により、両モードの安定性を予習
		復習	ウィーブとウォブルの関係を復習。
(13)	⑬新しい解析手法 エネルギーフロー法を理解する	予習	配布資料により、エネルギーフロー法を予習
		復習	もう一度エネルギーフロー法を復習
(14)	⑭エネルギーフロー法による解析 1 ウォブルモードの発生原因を理解	予習	配布資料により、ウォブルモードの原因を予習
		復習	ウォブルモードの発生原因を復習
(15)	⑮エネルギーフロー法による解析 2 ウィーブモードの発生原因を理解	予習	配布資料により、ウィーブモードの原因を予習
		復習	ウィーブモードの発生原因を復習

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43640	前期集中	7	2
授業科目名	交通機械先端技術			学習相談	
英字科目名	Advanced Technology of Transport Mechanical Engineering			3号館3階 山口研究室	
代表教員名		担当教員名			
山口卓也		未定			
使用テキスト					
必要に応じ資料を配布する。					
授業の概要					
交通機械工学分野における最新技術について、各分野の専門家から詳しく学ぶ。					
到達目標					
(1) 交通機械業界の最新動向を理解し、今後の展望が説明できる。 (2) 鉄道、自動車、船舶の基礎技術について説明できる。					
履修上の注意					
内容は都合により変更し、順序を変更することがある。 1.出席重視の科目とする。 2.ルーズな受講態度にならないよう注意すること。					
成績評価の方法・基準					
受講態度等（40%）、レポート（60%）で総合評価する。					
課題に対するフィードバック					
各分野（自動車、鉄道、船舶）に関して提出されたレポートは添削し返却する。					
参考図書	講義で紹介する				
関連科目	フレッシュマンセミナー → 交通機械先端技術				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （2）交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	鉄道車両技術について①	予習	鉄道工学に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	講義内容を復習すること。
(2)	鉄道車両技術について②	予習	鉄道工学に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	講義内容を復習すること。
(3)	鉄道車両技術について③	予習	鉄道工学に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	講義内容を復習すること。
(4)	鉄道車両技術について④	予習	鉄道工学に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	講義内容を復習すること。
(5)	鉄道車両技術に関するまとめ	予習	鉄道工学に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	鉄道車両技術に関しレポートを作成すること。
(6)	自動車技術について①	予習	自動車技術（特に軽自動車）に関する知見を予習したうえで講義に出席すること
		復習	講義内容を復習すること。
(7)	自動車技術について②	予習	自動車技術（特に軽自動車）に関する知見を予習したうえで講義に出席すること
		復習	講義内容を復習すること。
(8)	自動車技術について③	予習	自動車技術（特に軽自動車）に関する知見を予習したうえで講義に出席すること
		復習	講義内容を復習すること。
(9)	自動車技術について④	予習	自動車技術（特に軽自動車）に関する知見を予習したうえで講義に出席すること
		復習	講義内容を復習すること。
(10)	自動車技術に関するまとめ	予習	自動車技術（特に軽自動車）に関する知見を予習したうえで講義に出席すること
		復習	自動車技術に関するレポートを作成すること。
(11)	造船技術について①	予習	造船技術に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	講義内容を復習すること。

(12)	造船技術について②	予習	造船技術に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	講義内容を復習すること。
(13)	造船技術について③	予習	造船技術に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	講義内容を復習すること。
(14)	造船技術について④	予習	造船技術に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	講義内容を復習すること。
(15)	造船技術に関するまとめ	予習	造船技術に関する資料を図書館にて文献調査し講義に備えること。
		復習	造船技術に関するレポートを作成すること。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43260	前期	1	1
授業科目名	工作実習			学習相談	
英字科目名	Work Shop Practice			一級自動車整備教育センター、創造工房 e mail:iked@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東 大輔		池田 秀, 野口聡仁, 青木秀幸, 洲上貴之			
使用テキスト					
配布プリント及び国土交通省自動車交通局監修（日本自動車整備振興会連合会） 自動車整備技術「基礎自動車整備作業」「基礎自動車工学」					
授業の概要					
本科目では、機械工作の基本となる加工機械を用いた加工法、材料を接合するガス・アーク溶接、エンジンの作動原理と主要部品の測定法、3D プリンタの作動原理、取り扱い方法について実体験にて習得します。					
到達目標					
(1) 加工機械の名称、構造、取り扱い方法を理解し、製品の切削を行う技能を習得することが出来る。 (2) ガス・アーク溶接機の名称、構造及び取り扱い方法が理解できる。 (3) エンジン作動原理と主要部品の名称、構造及び測定方法が理解できる。 (4) 3D プリンタの原理、取り扱い方法が理解できる。					
履修上の注意					
本科目では、工作機械を実際に用いて実習を行うため、正しい知識・手順に従わないと怪我や死亡事故に繋がる可能性がある。指導員の指示に従い、安全作業に万全を期すること。 実習時間中は、必ず実習服、安全靴、帽子を着用すること。 自動車コースは、二級自動車整備士養成科目であり出席率 90%以上が必要。					
成績評価の方法・基準					
授業態度 20%、小テスト（筆記、実技）40%、期末試験 40%					
課題に対するフィードバック					
授業中に出した課題や小テストは講義中にフィードバックする。 期末試験については、小テストの中から出題する。					
参考図書	職業能力開発総合大学校 基盤整備センター編「機械加工実技教科書」「自動車整備実技教科書」				
関連科目	工作実習→機械工作法				
学位授与の方針との関連	技能・表現 (8) 工学分野の総合的な視点と交通機械工学の知識を身につけ、多様化する現代社会の諸問題や課題を分析するための知識・技能・情報発信能力を有し、地域社会や国際社会の新しい多様な文化や生活の創造、産業の発展に貢献することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	工作実習全体の説明と安全ガイダンス 災害の原因、安全確保、安全作業について。	予習	テキスト pp.7～10 を予習する。
		復習	授業内容の復習とプリントの問題を解く。
(2)	機械工作①（旋盤） 旋盤の取り扱い。 保守の仕方、操作、送りハンドル、替え歯車の掛け方、チャックの取り付け脱着、工作物の脱着。	予習	配布プリントNo.5.1 を予習する。
		復習	授業内容の復習とプリントの問題を解く。
(3)	機械工作②（旋盤） バイトの取り付け、丸棒削り（端面削り）、心もみ（センタ穴加工）センタ穴のもみ方。	予習	配布プリントNo.5.12～5.14 を予習する。
		復習	授業内容の復習とプリントの問題を解く。
(4)	機械工作③（フライス盤） フライス盤の取り扱い及び操作方法、バイスの取り付け、フライスの取り付け（立てフライス盤）、平面削り。	予習	配布プリントNo.6.1～6.3 を予習する。
		復習	授業内容の復習とプリントの問題を解く。
(5)	溶接① 設備用具の説明、使用方法、火炎の調整、火炎の形状観察。	予習	配布プリントNo.16～17 を予習する。
		復習	授業内容の復習とプリントの問題を解く。
(6)	溶接② 溶接棒と母材の溶接状態、ガス切断用吹管の取り扱い、軟鋼板の切断。	予習	配布プリントNo.18～19 を予習する。
		復習	授業内容の復習とプリントの問題を解く。
(7)	溶接③ アーク溶接作業の準備、保護具の装着方法および溶接用清掃工具の準備、アークの発生、溶接作業。	予習	配布プリントNo.20～21 を予習する。
		復習	授業内容の復習とプリントの問題を解く。
(8)	機械工作、溶接実習のまとめ、小テスト（筆記、実技）。	予習	機械工作、溶接実習で配布されたプリントを予習する。
		復習	配布プリントにて復習する。
(9)	測定① 測定器の原理、使用方法、整備機器の取り扱い。 単気筒ガソリンエンジンの分解。	予習	テキスト pp.17 までを予習する。
		復習	授業の内容、プリント及び練習問題にて復習する。

(10)	測定② 測定器の部品名称，エンジン主要部品の測定方法。 エンジンの構造，機能。	予習	テキスト pp.17～23 までを予習する。
		復習	授業の内容、プリント及び練習問題にて復習する。
(11)	測定③ 燃焼室容積、圧縮比、バルブタイミングの測定。 エンジン組み立て。	予習	テキスト pp.23～27 までを予習する。
		復習	テキスト pp.17 までを予習する。
(12)	3D プリンタ① Autodesk 123D Design を使用し、3D CAD の感覚に慣れる。	予習	3D CAD とはどんなものか書籍やインターネットで調べておく。
		復習	3D 図面を描く方法をまとめる。
(13)	3D プリンタ② Autodesk 123D Design を使用し、寸法通りに 3D データを作成する手法を学ぶ。	予習	3D CAD 実習①の内容を復習しておく。
		復習	3D プリンター実習で使用する 3D データを各自で作成する。
(14)	3D プリンタ③ 3D プリンターBrade-1 を使用し、FDM 方式 3D プリンターの概要や操作方法を学ぶ。	予習	3D プリンターとはどんなものか書籍やインターネットで調べておく。
		復習	3D データの作成から 3D プリンターの出力までの手順をまとめる。
(15)	測定、3D プリンタ実習のまとめ、小テスト（筆記、実技）。	予習	測定、3D プリンタ実習で配布したプリントを予習する。
		復習	配布プリントにて復習する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		44010	前期	5	2
授業科目名	交通機械工学実験実習 I			学習相談	
英字科目名	Engineering Experiments of Traffic Machinery I			各部門担当者にて応談	
代表教員名		担当教員名			
渡邊直幸		交通機械工学科教員			
使用テキスト					
配付プリントおよび、国土交通省交通局監修（日本自動車整備振興会連合会） 自動車整備技術「2級ガソリン・エンジン」、「2級ディーゼル・エンジン」 「2級シャシ」、「基礎自動車工学」					
授業の概要					
各専門分野における現象把握や理論計算等への理解を深めるため、種々の分野・題目で実験を行う。各部門において、基本的取り組み方や実験方法、結果の分析と結論の出し方、技術報告書の書き方等について学ぶ。					
到達目標					
(1) 工学基礎の検証や試験データの持つ基礎的な意味について理解できる。 (2) 求められた数値における単位や測定精度の評価ができる。 (3) 自動車関連の問題解決に対する技術的対応能力を身に付ける。					
履修上の注意					
実験は、積極的な参加とわかりやすく纏められたレポート提出とによって完結するものである。よって、データ整理のための電卓など、各自忘れずにそれに備えること。また、出席重視の科目であり、出席率は90%以上が必要とされる。安全への配慮が最も重要である。担当教員の指示を的確に守ること。実験部門、テーマは変更されることがある。					
成績評価の方法・基準					
取り組み姿勢(30%)、実験レポート(40%)、部門別課題・テスト(30%)					
課題に対するフィードバック					
参考図書	車両工学、電気工学、材料力学、機械力学等各関連科目の講義テキスト他				
関連科目	交通機械工学実験実習Ⅰ → 交通機械工学実験実習Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス	予習	
		復習	
(2)	車両工学：①自動車用ステアリング装置の基礎実験1	予習	
		復習	
(3)	車両工学：②自動車用ステアリング装置の基礎実験2	予習	
		復習	
(4)	③データ解析	予習	
		復習	
(5)	材料力学：①はりの曲げ（ひずみ測定）	予習	
		復習	
(6)	材料力学：②はりの曲げ（たわみ測定）	予習	
		復習	
(7)	材料力学：③データ分析	予習	
		復習	
(8)	まとめ	予習	
		復習	
(9)	電気工学：①抵抗・ダイオード	予習	
		復習	
(10)	電気工学：②トランジスタ	予習	
		復習	
(11)	電気工学：③特殊半導体素子	予習	
		復習	
(12)	電気工学：④データ分析	予習	
		復習	
(13)	電気工学：⑤太陽電池・燃料電池	予習	
		復習	
(14)	電気工学：⑥データ分析	予習	
		復習	
(15)	総まとめ	予習	
		復習	

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		44020	後期	6	2
授業科目名	交通機械工学実験実習Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Engineering Experiments of Traffic MachineryⅡ			各部門担当者にて応談	
代表教員名		担当教員名			
山口卓也		交通機械工学科教員			
使用テキスト					
配付プリントおよび、国土交通省交通局監修（日本自動車整備振興会連合会） 自動車整備技術「2級ガソリン・エンジン」、「2級ディーゼル・エンジン」 「2級シャシ」、「基礎自動車工学」					
授業の概要					
交通機械工学実験実習Ⅰに引き続き、各専門分野における現象把握や理論計算等への理解を深めるため、種々の分野・題目で実験を行う。各部門において、基本的取り組み方や実験方法、結果の分析と結論の出し方、技術報告書の書き方等について学ぶ。					
到達目標					
(1) 工学基礎の検証や試験データの持つ基礎的な意味について理解できる。 (2) 求められた数値における単位や測定精度の評価ができる。 (3) 自動車関連の問題解決に対する技術的対応能力を身に付ける。					
履修上の注意					
実験は、積極的な参加とわかりやすく纏められたレポート提出とによって完結するものである。よって、データ整理のための電卓など、各自忘れずにそれに備えること。また、出席重視の科目であり、出席率は90%以上が必要とされる。安全への配慮が最も重要である。担当教員の指示を的確に守ること。実験部門、テーマは変更されることがある。					
成績評価の方法・基準					
取り組み姿勢(30%)、実験レポート(40%)、部門別課題・テスト(30%)					
課題に対するフィードバック					
参考図書	車両工学、電気工学、材料力学、機械力学等各関連科目の講義テキスト他				
関連科目	交通機械工学実験実習Ⅰ → 交通機械工学実験実習Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に 2 時間程度、復習に 2 時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス	予習	
		復習	
(2)	内燃機関：①吸気スワールの定常流計測	予習	
		復習	
(3)	内燃機関：②内燃機関の性能計測	予習	
		復習	
(4)	内燃機関：③エンジンの 0 次元シミュレーション	予習	
		復習	
(5)	内燃機関：④データ解析	予習	
		復習	
(6)	材料力学：④C A E の基礎	予習	
		復習	
(7)	材料力学：⑤C A E の応用	予習	
		復習	
(8)	材料力学：⑥データ解析	予習	
		復習	
(9)	流体力学：①空力流体シミュレーションの基礎	予習	
		復習	
(10)	流体力学：②離着陸するデルタ翼まわりの流れ	予習	
		復習	
(11)	流体力学：③自動車空力の基礎	予習	
		復習	
(12)	流体力学：④データ解析	予習	
		復習	
(13)	電気工学：①論理回路	予習	
		復習	
(14)	電気工学：②データ解析	予習	
		復習	
(15)	総まとめ	予習	
		復習	

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		70800	前期	5	2
授業科目名	就業指導Ⅰ			学習相談	
英字科目名	Guidance in Job Hunting and WorkingⅠ			堀研究室（6号館4階） e-mail: hori@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
堀 憲一郎 （Kenichirou HORI）		堀 憲一郎（Kenichirou HORI）			
使用テキスト					
プリント配布					
授業の概要					
個々人に機会と成功を保障するために、また社会に適切な労働力の配置を行なうために、学校での職業指導が大切な役割を果たすことになる。職業高校の教員になるためには、職業指導についての基本的な知識を身につけておく必要がある。 前期の「就業指導Ⅰ」においては、広く職業というものについて様々な角度から考察する。また職業と自己の人生の関わりを具体的に考えるきっかけとして、先人達の職業倫理観を取り上げる。					
到達目標					
(1)「職業」「働く」ということを理解し、自分自身の将来像を明確に描けるようになる。 (2)産業構造を学び、企業がどのような人物を求めているかを説明できるようになる。 (3)職業についての広い視野としっかりした考え方をもつことで、工業高校の教員としてきちんとした職業指導ができるようになる。					
履修上の注意					
本科目は、高校（工業）の教員免許状を取得するための必修科目であるが、学科の選択科目として卒業要件にも含むことができる。 授業に関連する課題を「久留米工業大学 E キャンパス」のシステムを利用して提出してもらう。					
成績評価の方法・基準					
講義テーマごとの課題（30%）、授業での発表等参加態度（20%）と学期末の課題（50%）で総合評価					
課題に対するフィードバック					
原則として「久留米工業大学 E キャンパス」のシステムを利用して行う					
参考図書	授業時に紹介する				
関連科目	就業指導Ⅰ → 就業指導Ⅱ				
学位授与の方針との関連	（3） 修得した幅広い教養や工学分野の専門知識を活用し、社会の要求に対応するための自律的、創造的および汎用的な思考ができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	職業とは何か：様々な職業観・職業観の世代間での断絶	予習	E キャンパスへの登録及びそこで示す概要、留意点をよく読み、理解して授業の準備をしておくこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(2)	ライフコースとキャリア：個人の成長・発達の中で職業がもつ意味とは	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(3)	職業指導の方法（1）：生徒の自己理解について（1）	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(4)	職業指導の方法（2）：生徒の自己理解について（2）	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(5)	職業指導の方法（3）：進路相談の立場と方法について（1）	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(6)	職業指導の方法（4）：進路相談の立場と方法について（2）	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(7)	職業の現代的構造（1）：産業構造と職業構造の変化について	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

(8)	職業の現代的構造 (2) : 職業と社会移動	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(9)	職業の現代的構造 (3) : 企業が求める人間像	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(10)	中間確認まとめ : 「職業」「働く」と自分自身の将来像	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(11)	職業分化 (1) : 社会的分業と職業分類	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(12)	職業分化 (2) : 職業の専門性	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(13)	様々な職業倫理 : 職業倫理として求められるもの	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(14)	職業と生涯教育 : 産業構造の変化への対応	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと
(15)	総まとめ : 職業・働く・将来・人生の意味	予習	E キャンパスを通して示す、就業をめぐる現代社会の課題についての資料をよく読み、理解した上で授業に臨むこと
		復習	今回の授業内容に関連した、E キャンパスで提示される課題へ取り組むこと

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		70810	後期	6	2
授業科目名	就業指導Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Guidance in Job Hunting and WorkingⅡ			藤原 研究室 e-mail: fujiwara@cc.kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
藤原 孝造		藤原 孝造			
使用テキスト					
プリント配布					
授業の概要					
前期の「就業指導Ⅰ」をうけ、後期の「就業指導Ⅱ」では、より実地的な職業指導の方法について検討する。					
到達目標					
(1) 自己分析を行うことの重要性を理解し実践できるようになること。 (2) 業界研究を進めていくことで、進路を明確にできるようになる。 (3) 教員として、実際に高校生に具体的な職業指導が行なえるようになること。					
履修上の注意					
本科目は、高校（工業）の教員免許状を取得するための必修科目であるが、学科の選択科目として卒業要件にも含むことが出来る。 毎回の授業の最後に、その日の授業で理解したこと考えたことをレポートにまとめてもらい、平常点とする					
成績評価の方法・基準					
課題提出・授業態度 40%，テスト 60%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
レポート、提出物に関しては添削・採点などを行いその都度対応していく。					
参考図書	授業で紹介する。				
関連科目	就業指導Ⅰ → 就業指導Ⅱ				
学位授与の方針との関連	(関心・意欲・態度) (1) ものづくりに関心を持ち、グローバルな視点で他者と協働し、社会に貢献・奉仕することができる。 (2) 社会の仕組みを理解し、社会人としての倫理観に基づいて技術者としての責任を遂行することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	自己分析のやり方【 ☐ 過去の自分を探る ☐ 友人の活用】	予習	自己分析とは何かということを事前に調べておくこと。SPI の演習を実施するので事前に勉強しておくこと。
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(2)	業界研究について(1)【 ☐ 業界・職種・企業についての基礎知識】	予習	興味のある業界を調べてくること。SPI の演習を実施するので事前に勉強しておくこと。
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(3)	業界研究について(2)【 ☐ 新聞・雑誌・書籍の活用 ☐ ウェブの活用】	予習	1週間分の新聞から気になる記事を選んでおく。SPI の演習を実施するので事前に勉強しておくこと。
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(4)	業界研究について(3)【 ☐ インターンシップの活用 ☐ 先輩の話】	予習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の予習を行なうこと。
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(5)	会社選び(1)【 ☐ 有名企業か優良企業か】	予習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(6)	会社選び(2)【 ☐ イメージや憧れと実際のギャップ】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(7)	エントリーシートの作成方法(1)【 ☐ 志望動機】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(8)	エントリーシートの作成方法(2)【 ☐ 自己PR ☐ これまで打ち込んだこと】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(9)	履歴書の作成方法【 ☐ 履歴書の基礎知識 ☐ 学歴、資格、趣味】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(10)	会社説明会【 ☐ 会社説明会の概要 ☐ 参加する際の注意点】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。

(11)	筆記試験【 ☐ 一般常識・時事問題 ☐ 適性検査】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(12)	面接(1)【 ☐ 企業の面接の目的と評価基準】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(13)	面接(2)【 ☐ 言葉づかい ☐ 立ち居振る舞い】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(14)	就職活動マナー【 ☐ 服装 ☐ 連絡・報告 ☐ 応対 ☐ 席順】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。
(15)	手紙、メールの作成の仕方【 ☐ 手紙の基本的形式 ☐ 手紙における言葉づかい】	予習	
		復習	配布した資料を読み返すこと。SPI の演習の復習を行なうこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		70790	前期	7	2
授業科目名	工業の基礎			学習相談	
英字科目名	Fundamentals of Engineering			授業終了後、必要に応じ担当教員に相談すること。	
代表教員名		担当教員名			
田中 廣茂 (Hiroshige TANAKA)		田中 廣茂 (Hiroshige TANAKA)			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布。					
授業の概要					
工業技術は、今日ますます人々の生活や社会に大きな影響を及ぼすようになってきている。授業では、工業技術が社会に大きな責任を負う問題の主要なものを取り上げ、技術者としてそれらをどのように捉え、またそれらにどのように対処していけばよいのかについて検討する。 なお、講義では各種の協議・討議を実施する。					
到達目標					
(1)工業技術が社会に大きな責任を負う主要な問題の概要を理解し、説明できるようになる。 (2)技術者としての基本的な姿勢や考え方を修得し、工業の教員として指導できるようになる。 (3)事故や被害の実態を真摯に受け止め、正しい技術と精神を繋げていけるようになる。					
履修上の注意					
・ガイダンスの欠席者（公欠、病気等の特別な理由がある者を除く）は、以後の受講を認めない。 ・各種の事例について、グループ協議への参加及び各自の発表を求める。 ・授業終了時のリアクションシート提出をもって出席とみなす。 ・出席回数を重視する。欠席は3回まで。（4回以上の欠席は失格）					
成績評価の方法・基準					
リアクションシート（50％）と期末試験（50％）で総合評価。					
課題に対するフィードバック					
・リアクションシート等示された内容については、必要に応じて最終講義までにフィードバックする。 ・期末試験については、模範解答を掲示する。					
参考図書	・NSPE倫理審査委員会 編「科学技術者倫理の事例と考察」（丸善） ・日本技術士会訳 編「科学技術者の倫理（第3版）」（丸善）				
関連科目	工業の基礎 → 工業科教育法Ⅱ・Ⅲ				
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （6）社会の仕組みを理解し、社会人として倫理観に基づいて技術者としての責任を遂行することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス 工業の基礎・技術の継承	予習	工業技術に関する最近の事件・事故について情報を収集しておく。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(2)	”余裕”による事故防止 ヘッドアップディスプレイ・排水性舗装	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(3)	フェイルセーフ（１） 人的ミスか？	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(4)	フェイルセーフ（２） 深海無人探査機「かいこう」・GPWS	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(5)	福島原発事故（１） 事故の経緯	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(6)	福島原発事故（２） 危機管理から見た課題	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(7)	ノウハウとは何か 技術的発想力・メッキのトラブル	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(8)	ノウハウの伝達 東北地方の津波の碑	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(9)	事故とヒューマンエラー（１） JR西日本福知山線脱線事故	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。

(10)	事故とヒューマンエラー 医療事故・ヒューマンエラーと事故	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(11)	安全性とリスク 山陽新幹線トンネルにおけるコンクリート崩落事故	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(12)	ものづくりにおけるトレードオフ フォード・ピント車の問題	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(13)	内部告発 内部告発が「最後の手段」である理由	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(14)	企業秘密 技術情報はだれのものか	予習	事前配布の資料内容について、情報を収集する。
		復習	学習内容および授業で示した協議事項について復習する。
(15)	まとめ 授業で取り扱った事項それぞれの要点についての文章化	予習	授業で取り扱った事項をまとめておく。
		復習	これまでの学習内容についてまとめる。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		44220	後期集中	2-6	2
授業科目名	ものづくり実践プロジェクト			学習相談	
英字科目名	Project-Based-Manufacturing			必要に応じて担当教員に相談すること。	
代表教員名		担当教員名			
東 大輔		交通機械全教員			
使用テキスト					
必要に応じて資料などを配布。					
授業の概要					
ものづくり実践プロジェクトでは、ものづくりを通した各研究室の活動、企業や地域自治体・地域団体との連携による問題発見解決型の学習等を行います。実社会における課題とそれを取り巻く制約条件の中で問題発見解決型の学習（PBL およびアクティブラーニング）を行うことで、社会性を身に付け、専門の応用について理解を深めていきます。					
到達目標					
（１）ものづくりにおける想像力および課題解決に必要な企画力、提案力、実行力を身に付ける。 （２）情報収集力、発信力を身に付ける。 （３）協調性、コミュニケーション能力を身に付ける。					
履修上の注意					
・ガイダンスの日時、授業内容、テーマごとの実施日等については、別途連絡するので掲示板に注意しておくこと。 ・ガイダンスの欠席者（公欠、病気等の特別な理由がある者を除く）は、以後の受講を認めない。 ・各課題（テーマ）において、受講人数を制限することがある。 ・４年次 ・４年次 に在籍する に在籍する に在籍する 学生は、履修できない。 学生は、履修できない。 学生は、履修できない。 学生は、履修できない。 学生は、履修できない。 ・過去に単位認定を受けた者（他学科連携科目を含む）は、履修できない。					
成績評価の方法・基準					
活動状況（70%）、成果報告書（30%）で総合評価。					
課題に対するフィードバック					
レポート等については必要に応じて最終講義までにフィードバックする。					
参考図書	授業で紹介する。				
関連科目					
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （５）ものづくりに関心を持ち、グローバルな視点で他社と協同し、社会における参照の発展に貢献・奉仕することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	ガイダンス（1回目） 授業の説明および配属希望調査など	予習	
		復習	
(2)	ガイダンス（2回目） 課題ごとの配属分け等	予習	
		復習	
(3)	課題ごとに研究室に配属 （3回目以降は各研究室にて実施）	予習	
		復習	
(4)	課題（テーマ）の一例	予習	
		復習	
(5)	①三次元CADプロジェクト（井川・吉野研究室）	予習	
		復習	
(6)	②空力デザインプロジェクト（東研究室）	予習	
		復習	
(7)	③体験型フォーミュラプロジェクト（池田・梶山）	予習	
		復習	
(8)	④医工連携プロジェクト（田中研究室）	予習	
		復習	
(9)	⑤IML 連携プロジェクト（片山研究室）	予習	
		復習	
(10)	⑥ディーゼルエンジンベンチプロジェクト （山口研究室）	予習	
		復習	
(11)	⑦車両運動性能実験用の模型製作プロジェクト	予習	
		復習	
(12)	⑧3D プリンターを使用したモノづくりプロジェクト	予習	
		復習	
(13)	⑨センサーを使った電子制御プロジェクト	予習	
		復習	
(14)	まとめ1 成果報告書の作成等	予習	
		復習	
(15)	まとめ2 成果報告書の作成等	予習	
		復習	

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43670	前期	7	3
授業科目名	卒業研究Ⅰ			学習相談	
英字科目名	Graduation ResearchⅠ			必要に応じて担当教員に相談すること。	
代表教員名		担当教員名			
東大輔		交通機械工学科全教員			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
指導教員の指導の下で研究背景の調査を行い、研究目的と目標到達に向けた研究計画を立案して実行する。					
到達目標					
(1) 社会のニーズを把握し、問題解決計画立案能力と実行能力を身に付ける。					
(2) 実験等の結果を解析し、工学的に考察する能力を身に付ける。					
(3) 論理的記述力、口頭発表能力、コミュニケーション能力を身に付ける。					
履修上の注意					
授業内容等については別途連絡するので、掲示板に注意しておくこと。					
成績評価の方法・基準					
研究への取り組み姿勢(30%)、成果等(70%)を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
研究活動で行った調査・実験・解析結果などに関する内容は適宜ゼミ中に解説・指導を行う。					
参考図書	授業で紹介する。				
関連科目	学科全科目 → 卒業研究Ⅰ → 卒業研究Ⅱ				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) DP1: 交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	航空機空力デザインの研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(2)	自動車空力デザインの研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(3)	トランスミッションの滑りと燃費の相関に関する調査	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(4)	エンジンのエネルギーマネジメントに関する研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(5)	ディーゼルエンジンの高効率化に関する研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(6)	車両諸元と走行装置に関する諸特性の測定実験	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(7)	自動車用走行装置の技術動向調査	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。

(8)	自動車の生産システムおよび品質管理に関する研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(9)	ひずみゲージによる応力－ひずみ履歴の測定	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(10)	CAD による自動車エンジン設計及び機構解析	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(11)	4 輪車および 2 輪車の操縦安定性に関する研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(12)	二輪車用ドライブレコーダの研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(13)	後続車両への情報提示効果の検討	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(14)	盗難防止システムの調査・研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(15)	自動車制御に用いられるセンサ技術の調査・研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		43680	後期	8	3
授業科目名	卒業研究Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Graduation Research Ⅱ			必要に応じて担当教員に相談すること。	
代表教員名		担当教員名			
東大輔		交通機械工学科全教員			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
指導教員の指導の下で研究背景の調査を行い、研究目的と目標到達に向けた研究計画を 立案して実行する。					
到達目標					
(1) 社会のニーズを把握し、問題解決計画立案能力と実行能力を身に付ける。					
(2) 実験等の結果を解析し、工学的に考察する能力を身に付ける。					
(3) 論理的記述力、口頭発表能力、コミュニケーション能力を身に付ける。					
履修上の注意					
授業内容等については別途連絡するので、掲示板に注意しておくこと。					
成績評価の方法・基準					
研究への取り組み姿勢(30%)、成果等(70%)を総合的に評価する。					
課題に対するフィードバック					
研究活動で行った調査・実験・解析結果などに関する内容は適宜ゼミ中に解説・指導を行う。					
参考図書	授業で紹介する。				
関連科目	学科全科目 → 卒業研究Ⅰ → 卒業研究Ⅱ				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) DP1: 交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	航空機空力デザインの研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(2)	自動車空力デザインの研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(3)	トランスミッションの滑りと燃費の相関に関する調査	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(4)	エンジンのエネルギーマネジメントに関する研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(5)	ディーゼルエンジンの高効率化に関する研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(6)	車両諸元と走行装置に関する諸特性の測定実験	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(7)	自動車用走行装置の技術動向調査	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。

(8)	自動車の生産システムおよび品質管理に関する研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(9)	ひずみゲージによる応力-ひずみ履歴の測定	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(10)	CAD による自動車エンジン設計及び機構解析	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(11)	4 輪車および 2 輪車の操縦安定性に関する研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(12)	二輪車用ドライブレコーダの研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(13)	後続車両への情報提示効果の検討	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(14)	盗難防止システムの調査・研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。
(15)	自動車制御に用いられるセンサ技術の調査・研究	予習	各自の研究テーマに関する文献調査、実験計画、解析計画を行うこと。
		復習	文献調査、実験結果、解析結果について分析およびレポート作成を行い、今後の研究計画について検討を行うこと。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43980	通年	5・6 (3 年次)	2
授業科目名	特別ゼミ I			学習相談	
英字科目名	Advanced Seminar I			3 号 館 3 階 東 研 究 室 azuma@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東大輔		交通機械工学科全教員			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
高度な数学，力学，英語などを徹底的に指導する．勿論，材料力学や流体力学，熱力学，機械力学なども特訓し，高いレベルの就業力を身に付ける．					
到達目標					
(1) 高度エンジニアとして身に付けるべき高いレベルの工学知識を修得する． (2) エンジニアとしての基本的な姿勢や礼節も身に付ける．					
履修上の注意					
高い向学心を持った学生を徹底的に鍛えるゼミである．中途半端な気持ちで取り組まないこと．					
成績評価の方法・基準					
毎回の授業の小レポートと復習演習による平常点 50%、期末テスト 50%					
課題に対するフィードバック					
課題やレポートに関しては添削を行ったうえで解説を行う。					
参考図書	講義で紹介する。				
関連科目	特別ゼミ I → 特別ゼミ II				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) (1) 交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	スカラーとベクトル(1)	予習	工業数学演習ⅠおよびⅡの復習を行うこと
		復習	ベクトルの定義とベクトルの演算に関する課題を行うこと
(2)	スカラーとベクトル(2)	予習	内積、直交性、空間のベクトル、外積
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(3)	行列の計算(1)	予習	行列の定義、行列の和、差、積
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(4)	行列の計算(2)	予習	正方向列、単位行列、逆行列、転置行列
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(5)	行列式(1)	予習	行列式の定義、サラスの公式
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(6)	行列式(2)	予習	行列の固有値の定義
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(7)	復習演習(1)	予習	第1回から第6回目の課題やレポートに関して復習しておくこと
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(8)	上級英語(1)	予習	英字新聞や英文雑誌など英語の長文を読解すること
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(9)	上級英語(2)	予習	英字新聞や英文雑誌など英語の長文を読解すること
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(10)	上級英語(3)	予習	英字新聞や英文雑誌など英語の長文を読解すること
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと

(11)	復習演習	予習	第 8 回から第 10 回目の課題やレポート に関して復習しておくこと
		復習	講義中に実施した課題を復習しておく こと
(12)	剛体の働く力、力のモーメント	予習	剛体、力のモーメント
		復習	講義中に実施した課題を復習しておく こと
(13)	ニュートンの運動法則	予習	運動法則
		復習	講義中に実施した課題を復習しておく こと
(14)	慣性モーメント	予習	平行軸の定理、直交軸の定理
		復習	講義中に実施した課題を復習しておく こと
(15)	総復習	予習	これまでに扱った内容の確認と問題演 習
		復習	講義中に実施した課題を復習しておく こと

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43990	通年	5-6 (3 年次)	2
授業科目名	特別ゼミⅡ			学習相談	
英字科目名	Advanced SeminarⅡ			3 号 館 3 階 東 研 究 室 azuma@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東大輔		交通機械工学科全教員			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
高度な数学，力学，英語などを徹底的に指導する．勿論，材料力学や流体力学，熱力学，機械力学なども特訓し，高いレベルの就業力を身に付ける．					
到達目標					
(1) 高度エンジニアとして身に付けるべき高いレベルの工学知識を修得する． (2) エンジニアとしての基本的な姿勢や礼節も身に付ける．					
履修上の注意					
高い向学心を持った学生を徹底的に鍛えるゼミである．中途半端な気持ちで取り組まないこと．					
成績評価の方法・基準					
毎回の授業の小レポートと復習演習による平常点 50%、期末テスト 50%					
課題に対するフィードバック					
課題やレポートに関しては添削を行ったうえで解説を行う。					
参考図書	講義で紹介する。				
関連科目	特別ゼミⅠ → 特別ゼミⅡ				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) (1) 交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	上級英語(1)	予習	英字新聞や英文雑誌など英語の長文を読解すること
		復習	ベクトルの定義とベクトルの演算に関する課題を行うこと
(2)	上級英語(2)	予習	英字新聞や英文雑誌など英語の長文を読解すること
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(3)	上級英語(3)	予習	英字新聞や英文雑誌など英語の長文を読解すること
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(4)	復習演習(1)	予習	第1回から第3回までの課題とレポートを復習しておくこと
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(5)	微分方程式(1)	予習	微分方程式、初期条件、初期値
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(6)	微分方程式(2)	予習	1 階線形、ベルヌーイの定理
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(7)	ラプラス変換(1)	予習	ラプラス変換の定義に基づく計算
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(8)	ラプラス変換(2)	予習	微分方程式への応用
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(9)	復習演習(2)	予習	第5回から第8回までの課題とレポートを復習しておくこと
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(10)	剛体の平面運動の方程式	予習	平面運動の方程式
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと

(11)	すべり摩擦	予習	静止摩擦、運動摩擦
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(12)	転がり摩擦、自動車の転がり摩擦	予習	転がり摩擦
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(13)	仕事とエネルギー	予習	エネルギー保存の法則
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(14)	運動量と力積、運動量保存の法則	予習	運動量、力積、運動量保存則
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと
(15)	総復習	予習	これまでの講義における課題とレポートの復習を行うこと
		復習	講義中に実施した課題を復習しておくこと

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		44110	前期	5	2
授業科目名	材料力学Ⅲ			学習相談	
英字科目名	Strength of Materials III			3号館3階 井川研究室	
代表教員名		担当教員名			
井川 秀信		井川 秀信 (Hidenobu IGAWA)			
使用テキスト					
渥美光・鈴木幸三・三ヶ田賢次著 「材料力学Ⅰ」 (森北出版)					
授業の概要					
材料力学Ⅱに引き続き、材料力学の基礎的な分野とやや高度な分野の諸問題について講義を行い、材料力学の幅広い知識を修得します。また、講義内容の理解を深めるために適宜演習を行い、自ら問題を解く力を養います。					
到達目標					
(1)材料力学の基礎知識を身に付けることができる。 (2)自動車を含む機械設計と材料力学との関わりが理解できる。 (3)機械設計に必要な計算能力が身に付く。					
履修上の注意					
・本科目は、先端交通機械コースのコース専門科目である。 ・授業中に理解度を確認するための演習を実施し、レポートとして提出させる。 ・講義には必ず電卓を持参すること。(スマートフォンの計算機は使用不可)					
成績評価の方法・基準					
レポート (30%)、小テスト (20%) と期末試験 (50%) で総合評価					
課題に対するフィードバック					
・講義中に出した課題や小テストは、最終講義までにフィードバックする。 ・期末試験については、試験終了後、井川研究室の前に解答例を掲示する。					
参考図書	中原一朗著「材料力学」(養賢堂)、飯野牧夫・西田真一著「よくわかる材料力学」(朝倉書店)				
関連科目	材料力学Ⅰ → 材料力学Ⅱ → (材料力学Ⅲ)				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2)自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	材料力学の基本① 応力、ひずみの計算の復習	予習	材料力学Ⅰで学んだ応力とひずみの内容を復習しておく。
		復習	関連する演習問題を解く。
(2)	材料力学の基本② はり曲げの復習	予習	材料力学ⅠおよびⅡで学んだはりの曲げの内容を復習しておく。
		復習	関連する演習問題を解く。
(3)	材料力学の基本③ はりのたわみ曲線の微分方程式	予習	教科書 pp.81～83 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(4)	材料力学の基本④ ねじりの計算の復習	予習	材料力学Ⅱで学んだねじりの内容を復習しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(5)	ひずみエネルギー① ひずみエネルギー	予習	教科書 pp.177～179 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(6)	ひずみエネルギー② マクスウェルの定理とカステリャノの定理	予習	教科書 pp.182～183 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(7)	ひずみエネルギー③ 衝撃荷重による応力と変形	予習	教科書 pp.185～187 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、関連する演習問題を解く。
(8)	ひずみエネルギー④ はりの曲げ（1回目）	予習	教科書 pp.181～184 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習する。
(9)	ひずみエネルギー⑤ はりの曲げ（2回目）	予習	教科書 pp.181～184 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(10)	ひずみエネルギー⑥ はりの曲げ（3回目）	予習	教科書 pp.181～184 を読んで理解しておく。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。

(11)	ひずみエネルギー⑦ 棒のねじり	予習	教科書 pp.179 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(12)	座屈① オイラーの公式（１回目）	予習	教科書 pp.213～216 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(13)	座屈② オイラーの公式（２回目）	予習	教科書 pp.216～218 を読んで予習する。
		復習	授業の内容を復習し、プリントの問題を解く。
(14)	座屈③ 偏心荷重を受ける長柱	予習	教科書 pp.218～220 を読んで予習する。
		復習	関連する演習問題を解く。
(15)	総合演習 応力とひずみの演習と小テスト	予習	1～14 回までの講義内容を整理しておく。
		復習	配布したプリント、関連する演習問題を解く。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43490	後期	6	2
授業科目名	機構学			学習相談	
英字科目名	Mechanism			3 号館 3 階田中研究室	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		田中 基大			
使用テキスト					
萩原芳彦編著「よくわかる機構学」(理工学社)					
授業の概要					
機構学は、機能設計の主要な部分である機械の機構を扱う学問であり、自動車や航空機、バイクなどの設計開発において極めて重要な分野である。本講義では機械力学を修得した学生に対し、機構学の基本を学ぶ。					
到達目標					
(1) 機械と機構の関係を理解する。 (2) リンク機構の種類と運動が説明できる。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求めることがある。					
成績評価の方法・基準					
課題（30%）、試験（70%）で総合評価する。 30 分以上遅刻は欠席扱い。 講義中の態度が悪い場合は減点をする。					
課題に対するフィードバック					
課題提出は Moodle を利用する。 期末試験については、試験終了後、田中研究室で解答例を掲示する。					
参考図書	講義内で紹介する。				
関連科目	機械力学→機構学				
学位授与の方針との関連	(知識・理解) (1) 交通機械の技術者に求められる幅広い教養および交通機械工学の専門知識を身につけている。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	機械と機構（1） 節と対偶、待遇の種類と自由度	予習	機構について調べる。
		復習	レポート課題
(2)	機械と機構（2） 連鎖と自由度	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(3)	機械と機構（3） 剛体の運動と瞬間中心	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(4)	機械と機構（4） 位置、速度、加速度	予習	前回の講義の復習
		復習	講義内容の再確認をする。
(5)	機械と機構（5） 機構の速度・加速度の求め方	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(6)	リンク機構の種類と運動（1） 回転連鎖とスライダークランク機構	予習	リンク機構について調べる。
		復習	レポート課題
(7)	リンク機構の種類と運動（2） 平行運動機構	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(8)	リンク機構の種類と運動（3） 直線運動機構	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(9)	リンク機構の運動解析（1） 複素平面上におけるベクトル表示	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(10)	リンク機構の運動解析（2） 機構における速度	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(11)	リンク機構の運動解析（3） 機構における加速度	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(12)	摩擦伝達装置 摩擦伝達装置の定義と種類	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(13)	歯車機構 歯車伝達の基本	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(14)	カム機構 カムの種類	予習	前回の講義の復習
		復習	レポート課題
(15)	総復習：講義のまとめ	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	これまでの内容を再確認する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43950	後期	6	2
授業科目名	航空流体力学			学習相談	
英字科目名	Aeronautic Aerodynamics			3号館3階 東研究室 e-mail: azuma@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東 大 輔 (Daisuke AZUMA)		東 大輔 (Daisuke AZUMA)			
使用テキスト					
藤田勝久「基本を学ぶ流体力学」(森北出版)					
授業の概要					
航空機が飛行するときに空気から受ける力や航空機が安定に飛ぶ仕組みなどを学ぶ。また、粘性流体の運動方程式や圧縮性流体（高速流体）についても学ぶ。					
到達目標					
(1) 航空力学の基礎を学び、航空機開発と流体力学との関わりを理解する。 (2) 流体力学の基礎を習得し、工学上の諸問題の解決能力を身に付ける。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求めることがある。講義には各自電卓を持参すること。					
成績評価の方法・基準					
中間テスト 50%と期末試験 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
・講義期間中に実施した中間テストは最終講義までに答案を返却し、解説する。					
参考図書	1. John Anderson（著）,「Introduction to Flight」, McGraw-Hill Science 2. 東 大輔 著, 石井 明 監修,「自動車空力デザイン」(三樹書房)				
関連科目	流体力学Ⅰ → 流体力学Ⅱ → 航空流体力学				
学位授与の方針との関連	知識・理解（2）自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策 を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	航空力学と数学	予習	偏微分など数学の復習をしておくこと
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(2)	流体運動の基礎	予習	流体力学ⅠおよびⅡで講義したエネルギー方程式を復習しておくこと
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(3)	翼に働く空気抵抗と揚力	予習	教科書 pp.82～88 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(4)	境界層の層流と乱流	予習	教科書 pp.128～144 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(5)	航空機の空力特性	予習	航空機の揚抗比や失速について調べておくこと
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(6)	航空機の飛行安定性	予習	航空機のモーメント安定性について調べておくこと
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(7)	中間テスト	予習	これまでの講義内容をよく復習しておくこと
		復習	テスト内容を振り返り、復習しておくこと
(8)	単純せん断層、噴流、後流	予習	教科書 pp.145～150 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(9)	音速	予習	教科書 pp.151～154 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(10)	圧縮性とマッハ数	予習	教科書 pp.154～157 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(11)	圧縮性流体の熱力学	予習	教科書 pp.157～159 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。

(12)	圧縮性流体の 1 次元流れ	予習	教科書 pp.159～162 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(13)	1 次元等エントロピー流れ	予習	教科書 pp.162～167 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(14)	衝撃波	予習	教科書 pp.167～170 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(15)	総まとめ	予習	これまでの講義内容を振り返っておくこと。
		復習	講義ノート全体を十分に読み直し、理解を深めること。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		44120	後期	4	2
授業科目名	センサ工学			学習相談	
英字科目名	Sensor Technology			3 号館 3 階田中研究室	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		田中 基大			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
センサは計測システムや制御システムにおいて外界からの物理的あるいは科学的な情報を電気信号に変換する働きをする。本講義では、代表的なセンサをいくつか紹介を行い、マイコンを用いてセンサ信号の計測を行う。					
到達目標					
(1) 各種センサについて理解する。 (2) センサとマイコンを用いて計測を行えるようになる。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求めることがある。また、計測時にはプログラミング基礎で使用した C 言語を使うので C 言語について復習を行うこと。					
成績評価の方法・基準					
課題（30%）、試験（70%）で総合評価する。 30 分以上遅刻は欠席扱い。 講義中の態度が悪い場合は減点をする。					
課題に対するフィードバック					
課題提出は Moodle を利用する。 期末試験については、試験終了後、田中研究室で解答例を掲示する。					
参考図書	講義内で紹介する。				
関連科目	センサ工学→ディジタル回路				
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （5）ものづくりに関心を持ち、グローバルな視点で他社と協働し、社会における産業の発展に貢献・奉仕することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	センサとは:センサの概要を説明する。	予習	センサについて調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(2)	光のセンサ:光を用いたセンサの理解	予習	光を用いたセンサを調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(3)	温度のセンサ:温度のセンサの理解	予習	温度のセンサを調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(4)	磁気センサ:時期センサの理解	予習	磁気センサについて調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(5)	圧力センサ:圧力センサの理解	予習	圧力センサについて調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(6)	増幅回路:オペアンプの基礎	予習	オペアンプについて調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(7)	計測システムの構築①:マイコンを用いたシステム	予習	C言語について
		復習	講義内容の再確認をする。
(8)	計測システムの構築②:マイコンを用いたセンサ信号の取り込み方法の理解	予習	C言語について
		復習	講義内容の再確認をする。
(9)	センサ信号の読み取り実習①:温度センサの読み取り	予習	C言語について
		復習	講義内容の再確認をする。
(10)	センサ信号の読み取り実習②:加速度センサの読み取り	予習	C言語について
		復習	講義内容の再確認をする。
(11)	ロータリーエンコーダについて	予習	ロータリーエンコーダについて調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(12)	ロータリーエンコーダの計測:回転角度、移動距離の計測	予習	C言語について
		復習	講義内容の再確認をする。
(13)	身近なセンサについての発表①	予習	発表準備を行うこと。
		復習	講義内容の再確認をする。
(14)	身近なセンサについての発表②	予習	発表準備を行うこと。
		復習	講義内容の再確認をする。
(15)	総復習:講義のまとめ	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	これまでの内容を再確認する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		44130	前期	5	2
授業科目名	ディジタル回路			学習相談	
英字科目名	Digital Circuit			3 号館 3 階田中研究室	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		田中 基大			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
最近の身のまわりの電化製品にはディジタル技術が多く使用されている。ここでは、ディジタル回路を設計するにあたって必要なブール代数や論理素子の考え方、ディジタル回路の設計方法を学ぶ					
到達目標					
(1) 数の表わし方と変換ができるようになる。 (2) 論理式をカルノー図で簡単化し、ディジタル回路を設計できるようになる。 (3) 順序回路を理解し、同期式カウンタを設計できるようになる。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求めることがある。					
成績評価の方法・基準					
課題（30%）、試験（70%）で総合評価する。 30 分以上遅刻は欠席扱い。 講義中の態度が悪い場合は減点をする。					
課題に対するフィードバック					
課題提出は Moodle を利用する。 期末試験については、試験終了後、田中研究室で解答例を掲示する。					
参考図書	講義内で紹介する。				
関連科目	電子工学Ⅰ→電子工学Ⅱ→センサ工学→ディジタル回路				
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （5）ものづくりに関心を持ち、グローバルな視点で他社と協働し、社会における産業の発展に貢献・奉仕することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	数の表わし方①:アナログとデジタル、2進数と10進数の理解	予習	2進数と10進数について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(2)	数の表わし方②:数のコード化、補数の理解	予習	2進数と10進数について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(3)	論理演算と論理回路素子:AND、OR、NOT、NAND、NOE、EX-ORの理解	予習	論理演算について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(4)	ベン図、ブール代数:論理式の図的表現、回路の数学的表現の理解	予習	論理演算について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(5)	組みあわせ論理回路①:加法標準形の理解	予習	加法標準形について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(6)	組みあわせ論理回路②:カルノー図の理解	予習	カルノー図について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(7)	組みあわせ論理回路③:カルノー図による簡単化の理解	予習	カルノー図について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(8)	組みあわせ論理回路④:NAND回路による回路設計	予習	NAND回路について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(9)	デジタル IC:実際のデジタル IC の使い方の理解	予習	デジタル IC について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(10)	算術演算回路:比較器、半加算器、全加算器の理解	予習	算術演算回路について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(11)	順序回路①:セトリセット FF の動作と論理式の理解	予習	セトリセット FF について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(12)	順序回路②:JKFF、TFF の動作と論理式の理解	予習	JKFF について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(13)	カウンタについて①:74193 の理解	予習	74193 について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(14)	カウンタについて②:74390 の理解	予習	74390 について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(15)	総復習:講義のまとめ	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	これまでの内容を再確認する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		44140	後期	6	2
授業科目名	制御システム設計演習			学習相談	
英字科目名	Design of Control System			3 号館 3 階田中研究室	
代表教員名		担当教員名			
田中 基大		田中 基大			
使用テキスト					
必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
本講義では、制御の基礎である PID 制御をモータとマイコンを利用して行う。また、実践的な制御設計で使用されている MATLAB/Simulink を利用した演習を予定している。					
到達目標					
(1)マイコンとモータを用いた PID 制御を理解する。 (2)MATLAB/Simulink を利用した制御解析を理解する。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求めることがある。					
成績評価の方法・基準					
課題（30%）、試験（70%）で総合評価する。 30 分以上遅刻は欠席扱い。 講義中の態度が悪い場合は減点をする。					
課題に対するフィードバック					
課題提出は Moodle を利用する。 期末試験については、試験終了後、田中研究室で解答例を掲示する。					
参考図書	講義内で紹介する。				
関連科目	電子工学Ⅰ→電子工学Ⅱ→センサ工学→ディジタル回路→制御システム設計演習				
学位授与の方針との関連	関心・意欲・態度 （５）ものづくりに関心を持ち、グローバルな視点で他社と協働し、社会における産業の発展に貢献・奉仕することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	講義の概要:講義の目的・目標について	予習	制御について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(2)	PID 制御について:PID 制御の理論の理解	予習	PID 制御について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(3)	マイコンについて:マイコンの理解	予習	マイコンについて調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(4)	マイコンとパソコンとの接続:マイコンとパソコンの通信の理解	予習	RS232C 通信について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(5)	モータの回転速度制御について:PWM 信号の理解	予習	PWM について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(6)	モータの回転角度検出方法について:ロータリーエンコーダの仕組みの理解	予習	ロータリーエンコーダについて調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(7)	マイコンを用いたバンバン制御:バンバン制御の理解	予習	BangBang 制御について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(8)	マイコンを用いた比例制御:比例制御の理解	予習	PID の比例部分について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(9)	マイコンを用いた PI 制御:PI 制御の理解	予習	PID の積分部分について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(10)	マイコンを用いた PID 制御:PID 制御の理解	予習	PID の微分について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(11)	MATLAB の基本操作について:MATLAB の基本操作についての理解	予習	MATLAB について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(12)	Simulink の基本操作について:Simulink の基本操作についての理解	予習	MATLAB について調べる。
		復習	講義内容の再確認をする。
(13)	MATLAB/Simulink を使用した演習 1	予習	MATLAB/Simlink の操作方法を確認する。
		復習	講義内容の再確認をする。
(14)	MATLAB/Simulink を使用した演習 2	予習	MATLAB/Simlink の操作方法を確認する。
		復習	講義内容の再確認をする。
(15)	総復習:講義のまとめ	予習	これまでの内容を再確認する。
		復習	これまでの内容を再確認する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		43210	前期集中	7	2
授業科目名	航空宇宙工学			学習相談	
英字科目名	Aeronautical and Space Engineering			3号館3階 東研究室	
代表教員名		担当教員名			
東大輔		山崎伸彦（Nobuhiko YAMASAKI）			
使用テキスト					
なし。必要に応じて資料等を配布					
授業の概要					
航空宇宙工学への入門を講義する。視聴覚教材によって理解を深める。					
到達目標					
(1)飛行機、ヘリコプター、ロケットや人工衛星などの原理を理解する。 (2)航空機開発の歴史を理解する。					
履修上の注意					
活発な質問を歓迎する。					
成績評価の方法・基準					
レポート（50%）、試験（50%）により総合評価する。					
課題に対するフィードバック					
講義中に提出したレポートは添削し返却する。					
参考図書	飯野明監修「図解入門 よくわかる航空力学の基本」（秀和システム）				
関連科目	フレッシュマンセミナー→航空流体力学 → 航空宇宙工学				
学位授与の方針との関連	知識・理解 （2）交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	全機の力学	予習	力学および流体力学で学んだ内容を復習すること
		復習	講義内容を復習すること
(2)	釣り合いと安定性	予習	力学および流体力学で学んだ内容を復習すること
		復習	講義内容を復習すること
(3)	流体力学の基本	予習	流体力学および航空流体力学を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(4)	翼	予習	流体力学で学習した「翼」に関する項目を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(5)	プロペラ推進	予習	航空流体力学を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(6)	ジェットエンジン	予習	ブレイトンサイクルについて復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(7)	飛行機の性能	予習	航空流体力学を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(8)	超音速の航空力学	予習	航空流体力学を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(9)	飛行機の構造	予習	航空流体力学を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(10)	飛行機の運航	予習	航空流体力学を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(11)	ヘリコプター入門	予習	航空流体力学を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(12)	宇宙工学入門	予習	航空流体力学を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(13)	ロケットと人工衛星	予習	航空流体力学を復習しておくこと
		復習	講義内容を復習すること

(14)	まとめ①	予習	第 1 回から第 1 3 回目までの講義内容を再確認しておくこと
		復習	講義内容を復習すること
(15)	まとめ②	予習	レポート作成の準備を行うこと。
		復習	航空技術および宇宙工学に関するレポートを作成すること。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		44151	前期	5	2
授業科目名	鉄道システム工学			学習相談	
英字科目名	Railway system engineering			3 号館 3 階 東研究室 e-mail: azuma@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東大輔		東大輔			
使用テキスト					
近藤圭一郎「鉄道車両技術入門」(オーム社)					
授業の概要					
鉄道を構成する、台車、車体、主回路、補助電源、保安装置、車上情報伝送装置、 運転機能などの要素技術を学び、鉄道システムを理解する。					
到達目標					
(1) 鉄道を支える台車と、車体の基本構造を理解する。 (2) 鉄道の保安装置の基本構造を理解する。 (3) 車両情報伝送システムの基本構造を理解する。					
履修上の注意					
授業中に理解度を確認するための演習問題を実施し、レポートとして提出を求める ことがある。講義には各自電卓を持参すること。					
成績評価の方法・基準					
中間試験 50%および期末試験 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
講義で行って演習問題および中間試験の解説を配布する。					
参考図書	「鉄道車両と設計技術」(大河出版)				
関連科目					
学位授与 の方針と の関連	知識・理解 (2) 交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	台車（1）	予習	台車の機能
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(2)	台車（2）	予習	台車の構造
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(3)	車体	予習	車体の構造
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(4)	主回路（1）	予習	直流電気車の主回路システム
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(5)	主回路（2）	予習	交流電気車の主回路システム
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(6)	主回路（3）	予習	鉄道車両の性能
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(7)	主回路（4）	予習	車両駆動用電動機
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(8)	中間テスト	予習	第1回から第7回目の講義内容を再確認し中間テストの準備を行う。
		復習	中間テストの出題内容について復習する。
(9)	保安装置（1）	予習	保安装置の概要
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(10)	保安装置（2）	予習	ATS、ATC システム
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(11)	保安装置（3）	予習	主要な保安システム
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(12)	車両情報伝達システム	予習	車両情報伝達システムの仕組み
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(13)	車両の運転理論（1）	予習	列車運転時の基礎力学
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(14)	車両の運転理論（2）	予習	運行計画と運行管理
		復習	講義の内容および演習問題を復習する。
(15)	総まとめ	予習	第1回から第14回目までの講義内容について復習を行う。
		復習	総まとめの内容を再確認し期末試験の準備を行う。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		44170	後期	2	2
授業科目名	先端交通機械実習			学習相談	
英字科目名	Practice for Transport Mechanical			一級自動車整備教育センター k-kaji@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東大輔		梶山項羽市（Kouichi KAJIYAMA）池田秀（Shigeru IKEDA）			
使用テキスト					
基礎自動車工学、基礎自動車整備作業（日本自動車整備振興会連合会）および配布プリント。					
授業の概要					
身近なノリモノである自動車を媒体に、工学的な見地からしくみを学ぶ。 また、実機を取り扱う際の安全教育や設備・機器類の取り扱いも実習する。					
到達目標					
(1) 自動車の基本構成や主要な装置のしくみを理解できるようになる。 (2) 主要な装置・機構に基礎的な原理・法則がどのように応用されているか理解できるようになる。					
履修上の注意					
座学に比べ危険度が増すため (1)、(2) で学んだ内容の注意事項は必ず守り、実行すること。上位学年で学ぶ力学・工学の理解度を増すための場ということを念頭に置き実習に臨むこと。					
成績評価の方法・基準					
実習態度 40%、確認テスト・期末試験 60%					
課題に対するフィードバック					
講義中に出した課題や小テストは講義中にフィードバックする。 期末試験については小テスト、配布プリントから出題する。					
参考図書	野崎博路著「基礎自動車工学」（東京電機大学出版局） 廣安博之・宝諸幸男・大山宜茂著「改訂 内燃機関」（コロナ社） 東大輔著・石井明監修「自動車空力デザイン」（三樹書房）				
関連科目	制御システム設計演習、交通デザイン開発演習、交通機械工学実験・実習Ⅰ、Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 交通機械工学の知識・技術を理解し、応用することができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に 2 時間程度、復習に 2 時間程度確保してください。	
(1)	安全作業① 災害の原因、安全確保、労働安全に関する法規	予習	基礎自動車整備作業を pp.10 まで読んで予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(2)	安全作業② 作業場の身だしなみ、手工具の基本的な取り扱い、正しい作業方法、工場から発生する公害、実習場内の機器類の取り扱い	予習	基礎自動車整備作業 pp.11～39 まで読んで予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(3)	車両構造① 主要部品の基本構成	予習	基礎自動車工学第 2 章、第 3 章を読んで予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(4)	車両構造② 制動装置	予習	基礎自動車工学第 2 章、第 4 章を読んで予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(5)	車両構造③ 制動装置・サスペンション・ステアリング装置	予習	基礎自動車工学第 2 章～第 7 章を読んで予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(6)	車 両 構 造 ④ サスペンション・ステアリング装置。	予習	基礎自動車工学第 2 章～第 7 章を読んで予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(7)	安全作業、車両構造のまとめ、小テスト。	予習	基礎自動車工学第 2 章～第 7 章を読んで予習する。
		復習	両テキスト、配布プリントおよび練習問題にて予習する。
(8)	エンジン① エンジンの作動原理について。	予習	基礎自動車工学第 2 章および配布プリントにて予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(9)	エンジン② 潤滑、冷却、点火装置	予習	基礎自動車工学第 2 章および配布プリントにて予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(10)	エンジン③ 電子制御装置の基礎 1	予習	基礎自動車工学第 2 章および配布プリントにて予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(11)	エ ン ジ ン ④ 電子制御装置の基礎 2	予習	基礎自動車工学第 2 章および配布プリントにて予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。

(12)	安全作業、エンジンのまとめ、小テスト	予習	両テキストおよび配布プリントにて予習する。
		復習	両テキスト、配布プリントおよび練習問題にて予習する。
(13)	小型 EV① 低圧電気を取り扱う際の安全作業に関する基礎知識	予習	基礎自動車工学第 2 章および配布プリントにて予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(14)	小型 EV② EV の基礎知識	予習	基礎自動車工学、配布プリントおよび練習問題にて予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。
(15)	小型 EV まとめ、小テスト	予習	基礎自動車工学、配布プリントおよび練習問題にて予習する。
		復習	配布プリント、練習問題にて復習する。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・必修		44180	前期	3	2
授業科目名	交通機械デザイン開発演習 I			学習相談	
英字科目名	Vehicle Design Development I			3 号館 3 階 東研究室 e-mail: azuma@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東 大 輔 (Daisuke AZUMA)		東 大 輔 (Daisuke AZUMA)			
使用テキスト					
東 大 輔 著, 石井 明 監修, 「自動車空力デザイン」(三樹書房)					
授業の概要					
自動車に限らず、あらゆる工業製品のデザイン開発は、強度、耐久性、各種性能、熱害、使い勝手、安全性、コストなど極めて多くの設計要件を融合させて進められる。本講義では自動車デザイン開発を題材に、空力要件をはじめとする各種設計要件を守りながらデザイン開発を進める難しさを学ぶ。					
到達目標					
(1) 自動車の誕生から現代までのデザインの変遷と空力性能の関わりを理解する。 (2) デザイン性と空力性能や各種設計要件を融合する意味を理解し、説明できるようになる。					
履修上の注意					
講義には各自鉛筆、ボールペン、定規、雲形定規、色鉛筆を持参すること。					
成績評価の方法・基準					
中間課題 50%と期末試験 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
・講義期間中に実施した中間課題は最終講義までに返却し、解説する。					
参考図書	Tony Lewin, Ryan Borroff, 「How to Design Like a Pro」, Motor Books				
関連科目	流体力学Ⅰおよび流体力学Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策 を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	工業製品のデザインと自動車空力デザインの歴史	予習	教科書 pp.118～137 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(2)	自動車開発の流れ	予習	教科書 pp.28～35 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(3)	自動車デザイン開発の流れ	予習	教科書 pp.28～35 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(4)	流体力学の基礎	予習	教科書 pp.146～157 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(5)	風洞	予習	教科書 pp.36～51 を読んで予習しておく。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(6)	数値流体力学 (CFD)	予習	教科書 pp.52～61 を読んで予習しておく。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(7)	自動車空力デザインの基礎	予習	教科書 pp.16～27 を読んで予習しておく。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(8)	エコカーの空力デザイン	予習	教科書 pp.62～83 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(9)	スポーツカーの空力デザイン	予習	教科書 pp.96～107 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(10)	実車による空力デザイン要件確認	予習	自動車の形を深く考察しておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(11)	スケッチ (1) 走る線	予習	直線や曲線の描画を練習しておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(12)	スケッチ (2) パース	予習	身の回りの工業製品の形をよく見ておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(13)	スケッチ (3) 側面視アイデア展開	予習	未来の自動車の形を検討しておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(14)	ファーストプロポーサル製作	予習	講義までに提案の方向性を決めておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(15)	ファーストプロポーサル発表	予習	デザイン資料をまとめておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、工業デザインの理解を深めること。

授業科目区分		科目コード	開講期	履修セメスタ	単位
専門・選択		44190	後期	4	2
授業科目名	交通機械デザイン開発演習Ⅱ			学習相談	
英字科目名	Vehicle Design DevelopmentⅡ			3号館3階 東研究室 e-mail: azuma@kurume-it.ac.jp	
代表教員名		担当教員名			
東 大 輔 (Daisuke AZUMA)		東 大輔 (Daisuke AZUMA)			
使用テキスト					
東 大輔 著, 石井 明 監修, 「自動車空力デザイン」(三樹書房)					
授業の概要					
自動車に限らず、あらゆる工業製品のデザイン開発は、強度、耐久性、各種性能、熱害、使い勝手、安全性、コストなど極めて多くの設計要件を融合させて進められる。本講義では自動車デザイン開発を題材に、空力要件をはじめとする各種設計要件を守りながらデザイン開発を進める難しさを学ぶ。					
到達目標					
(1) 自動車の誕生から現代までのデザインの変遷と空力性能の関わりを理解する。 (2) デザイン性と空力性能や各種設計要件を融合する意味を理解し、説明できるようになる。 (3) 新型車デザインを市場調査と合わせて企画できる。					
履修上の注意					
講義には各自鉛筆、ボールペン、定規、雲形定規、色鉛筆を持参すること。					
成績評価の方法・基準					
中間課題 50%と期末試験 50%で総合評価					
課題に対するフィードバック					
・講義期間中に実施した中間課題は最終講義までに返却し、解説する。					
参考図書	Tony Lewin, Ryan Borroff, 「How to Design Like a Pro」, Motor Books				
関連科目	流体力学Ⅰおよび流体力学Ⅱ				
学位授与の方針との関連	知識・理解 (2) 自然科学の知識や交通機械工学の専門知識を活用し、課題解決のための適切な方策 を講じることができる。				

授 業 計 画			
講義内容		準備学習	
		予習に2時間程度、復習に2時間程度確保してください。	
(1)	3D-CAD の基礎 (1)	予習	情報センターの登録を確認しておくこと。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(2)	3D-CAD の基礎 (2)	予習	前回の操作を確実にできるようにしておくこと。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(3)	3D-CAD の基礎 (3)	予習	前回の操作を確実にできるようにしておくこと。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(4)	3D-CAD の基礎 (4)	予習	前回の操作を確実にできるようにしておくこと。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(5)	3D-CAD の基礎 (5)	予習	前回の操作を確実にできるようにしておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(6)	商品企画と製品企画	予習	商品企画について調べておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(7)	設計要件 (1) パッケージ・レイアウト	予習	教科書 pp.28～35 を読んで予習しておく。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(8)	設計要件 (2) 加工および熱害と冷却	予習	教科書 pp.84～95 を読んで予習しておく。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(9)	実車による設計要件確認	予習	前回までの設計要件をよく復習しておくこと。
		復習	講義ノートを読み返し、復習しておく。
(10)	ファイナルプロポーサル製作 (1) 要件確認	予習	自動車の機能を深く考察しておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(11)	ファイナルプロポーサル製作 (2) スケッチ	予習	自動車のデザインを深く考察しておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(12)	ファイナルプロポーサル製作 (3) 3D-CAD	予習	3D-CAD の操作方法を十分に復習しておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。

(13)	ファイナルプロポーサル製作（４）3D-CAD 仕上げ	予習	3D-CAD の操作方法を十分に復習して おくこと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(14)	ファイナルプロポーサル完成	予習	企画内容とデザイン案をまとめておく こと。
		復習	講義内容を振り返り、復習しておく。
(15)	ファイナルプロポーサル発表	予習	企画資料をまとめておくこと。
		復習	講義内容を振り返り、工業デザインの 理解を深めること。